

平成27～29年度 広島県『学びの変革』パイロット校事業」指定校

# 福山市立城北中学校公開研究会

## 研究主題

**「主体的な学びの創造」  
～自ら考え学ぶ授業づくりを通して～**

- ◆ 期 日 2017年（平成29年）10月6日（金）
- ◆ 会 場 福山市立城北中学校
- ◆ 主 催 福山市教育委員会・福山市立城北中学校
- ◆ 後 援 広島県教育委員会

# はじめに

本日は教育関係者の皆様のご参会をいただき、公開研究会が開催できますことに心より感謝申し上げます。福山市立城北中学校公開研究会によるこそおいでくださいました。

さて、広島県教育委員会では、平成26年12月に「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を策定し、変化の激しい社会に必要な力を有する人材を育成するために、これまでの「知識ベースの学び」に加えて、「資質・能力の育成を目指した主体的な学び」の推進を掲げました。こうした主体的な学びを促進する具体的な取組の一つとして、総合的な学習の時間を始め、各教科の学習における「課題発見・解決学習」の推進を図っています。

本校は平成27年度より3年間、広島県教育委員会「『学びの変革』パイロット校事業」の指定を受けました。この事業のねらいは「主体的な学びを促進するため、各教科及び総合的な学習の時間等において、『課題発見・解決学習』の指導内容・方法等に係る研究開発を行い、その成果を検証、普及することにより、児童生徒の学力の向上を図る。」というものです。

本年度、指定3年目を迎えました。研究主題を「主体的な学びの創造～自ら考え学ぶ授業づくりを通して～」と設定し取り組んでまいりました。スタート当初は、何を、どこから手を付けていけばよいのか全く分からない状態でしたが、試行錯誤しながら一歩ずつ歩みを進めることで、めざすべき子供の姿や、そのために何が必要なのか、どこをどう変えていかななくてはならないのか、が少しずつ見えてきたような気がします。

中心的には「主体的な学び」の授業改善に取り組んでまいりました。本日は、その授業の一部を見ていただきますが、まだまだ研究半ばといった感は拭えず、今現在も試行をしながら改善を図っているといった状況でございます。また、本校は授業のみならず「主体性」という言葉をキーワードに、学校教育目標やめざす生徒像もそれに焦点を当て、学校生活や生徒会活動、また行事や部活動など全ての教育活動でこのことを教職員・生徒ともに意識して取り組んでまいりました。授業の中だけでなく、普段の生活の中にこそ「主体性」を身に付ける場面は多くあると考えたからです。そういう意味では、この3年間の取組により子供たちの姿は明らかに変わってきたように感じますし、学校の状況も年々向上してきたのではないかと手ごたえも感じているところでございます。

本日は授業公開と分科会、その後実践報告をさせていただきます。ご参加いただいた皆様方からのご意見やご指導をもとに、今後に向けてさらなる改善を進め、次の段階へと歩みを進めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

終わりにになりましたが、研究を進めるにあたり丁寧にご指導いただきました広島県教育委員会、福山市教育委員会の先生方、甲南女子大学人間科学部総合子ども学科教授、村川雅弘様、また多くの関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

福山市立城北中学校長 岡野英俊

# 目 次

1	公開内容	P. 1
2	研究の概要	P. 3
3	育成を目指す資質・能力 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">何ができるようになるか</span>	
	(1) 育成を目指す資質・能力と構成イメージ	P. 5
	(2) 資質・能力の捉え	P. 6
	(3) 資質・能力のルーブリックについて	P. 8
	(4) 資質・能力育成のためのカリキュラムマップ	P. 9
	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span> ：各学年のカリキュラムマップ	P. 10
4	本校の取組 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">どのように学ぶか（学ばせるか）</span>	
	(1) 本校の取組の具体について	P. 13
	(2) 「課題発見・解決学習」について	P. 14
	(3) 各教科の単元開発について	P. 16
	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span> ：教科構想シート（9教科）	P. 19
	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3</span> ：単元構想シート（9教科）	P. 28
	(4) 総合的な学習の時間の単元開発について	P. 46
5	検証結果	
	(1) 意識調査の結果	P. 52
	(2) 学力調査の結果	P. 56
	(3) 成果と課題及び改善に向けて	P. 57
	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料4</span> ：「学びの変革」による学校内外での生徒の活躍	P. 58
6	指導演様式について	
	(1) 教科の指導演様式について	P. 61
	(2) 総合的な学習の時間の指導演様式について	P. 66
7	公開授業の指導演	P. 71
8	分科会について	P. 113
9	全体会について	P. 117

# 1 公開内容

13:00 13:30

14:20 14:35

15:35 15:50

16:40

受付	公開授業	移動	分科会	移動	全体会
	各教室		各会場		体育館

## (1) 研究授業【13:30～14:20】

教科等		単元等	授業者	学級 (授業会場)
1	社会科	アジア州 ～急速に進む成長と変化～	佐藤 将文	1年6組 (106R教室)
2	数学科	関数 $y = ax^2$ ～関数の見方や考え方を広げよう～	菅 隆幸	3年6組 (306R教室)
3	理科	身の回りの物質とその性質 ～金属Xを推定せよ～	久保木 淳士	1年3組 (第1理科室)
4	英語科	Daily Scene 4 ～電話での会話～	溝部 良子	2年3組 (203R教室)
5	総合的な学習の時間	城北学区を盛り上げよう ～何もないとは言わせない! 私たちの城北学区～	松林 剛史	1年4組 (104R教室)
6	総合的な学習の時間	「働くこと」について考えを深めよう ～議論を通して～	石原 佑子	2年2組 (103R教室)
7	総合的な学習の時間	城北中夢プロジェクト ～私たちが描く未来のふくやま～	三登 千稔	3年5組 (102R教室)

## (2) 分科会【14:35～15:35】

教科等	分科会会場	指導助言者
1 社会科	105R教室	福山市教育委員会 指導主事 三原 健志
2 数学科	304R教室	福山市教育委員会 指導主事 溝部 貴之
3 理科	第1理科室	福山市教育委員会 指導主事 塚本 隆也
4 英語科	204R教室	福山市教育委員会 指導主事 栗田 尚輝
5 総合的な学習の時間	図書室	甲南女子大学 人間科学部 総合子ども学科 教授 村川 雅弘

## (3) 全体会【15:50～16:40】(会場:体育館)

内容	
① 開会挨拶	校長 岡野 英俊
② 実践報告 ～「学びの変革」パイロット校事業の3年間の取組～	パイロット教員 菅 隆幸
③ 講評	広島県教育委員会 義務教育指導課 主任指導主事 大里 弘美
④ 閉会挨拶	教頭 平賀 孝明





## 2 研究の概要

### (1) 昨年度までの取組（指定1年目・2年目）

本校では、「主体的な学びの創造を目指した、単元開発・授業改善を行えば、本校が育成を目指す資質・能力を育むことができ、学力向上につながるであろう。」という研究仮説のもと、①「資質・能力の育成」、②「主体的な学びの創造」、③「学力の向上」の3点を柱とし取組を進めている。以下に1年目・2年目の主な取組を示す。

#### ①「資質・能力の育成」

年次	学校全体	教科	総合的な学習の時間
H27 (1年次)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究体制の構築</li> <li>○本校が育成を目指す資質・能力の設定</li> <li>○校内理論研修及び「学びの革新」通信の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国・社・数・理・英の5教科を中心に、本校が育成を目指す資質・能力を単元に位置付けた単元開発及び実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年で、本校が育成を目指す資質・能力を評価の観点とした単元開発（各学年1単元）</li> <li>○本校が育成を目指す資質・能力を柱とした総合的な学習の時間の全体計画の作成</li> </ul>
H28 (2年次)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究体制の役割の明確化</li> <li>○資質・能力の再考</li> <li>○資質・能力のルーブリックの作成</li> <li>○資質・能力の意識調査及び分析</li> <li>○生徒が、意識して学習を進めていくことをねらった「資質・能力の育成のためのポイント」を各教室へ掲示</li> <li>○資質・能力の育成を目指したカリキュラムマップ（全教育活動の年間指導計画）の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教科（全職員）において、本校が育成を目指す資質・能力を位置付けた単元開発及び実践</li> <li>○本校が育成を目指す資質・能力をそれぞれの教科において育成するためにはどのような手立てが考えられるかを各教科で「教科構想シート」に整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年で、本校が育成を目指す資質・能力を評価の観点とした単元開発及び実践（全6単元）</li> <li>○本校が育成を目指す資質・能力を評価の観点とし、学習内容に沿った評価規準の作成と評価</li> <li>○本校が育成を目指す資質・能力を柱とした総合的な学習の時間の全体計画のブラッシュアップ</li> </ul>

#### ②「主体的な学びの創造」（課題発見・解決学習）

年次	学校全体	教科	総合的な学習の時間
H27 (1年次)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内理論研修及び「学びの革新」通信の作成</li> <li>○「課題発見・解決学習」の6つの学習過程における教師の捉える設定場面とその手立てを各教科で「教科構想シート」に整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国・社・数・理・英の5教科を中心に、「課題発見・解決学習」の6つの学習過程を位置付けた単元開発及び実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年で、「課題発見・解決学習」の6つの学習過程を位置付けた単元開発（各学年1単元）</li> </ul>
H28 (2年次)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内理論研修及び「学びの革新」通信の作成</li> <li>○「課題発見・解決学習」に係る各教科の「教科構想シート」のブラッシュアップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教科（全職員）において、「課題発見・解決学習」の6つの学習過程を位置付けた単元開発及び実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年で、「課題発見・解決学習」の6つの学習過程を位置付けた単元開発（各学年2単元）及び実践</li> </ul>

※「課題発見・解決学習」とは、児童生徒が自ら課題を見つけ、課題の解決に向けて探究的な活動をしていく学習である。「課題発見・解決学習」における主な学習過程には、次のような活動が考えられる。

〔課題の設定〕, 〔情報の収集〕, 〔整理・分析〕, 〔まとめ・創造・表現〕, 〔実行〕, 〔振り返り〕 など

(平成29年度 広島県教育資料P. 101, 102参照)

#### ③「学力の向上」

年次	主な取組	
H27 (1年次)	○授業規律の徹底	→ 教科担任・学習係を中心とした学び合う集団づくり
	○家庭学習・自主ノートの実践	→ 家庭学習強化週間の実施 自主ノートの評価・モデル掲示
H28 (2年次)	○活用問題の実践	→ 習得した知識・技能を活用する問題の作成
	○学力分析及び課題への対策	→ 学力調査等の分析を課題の整理及び年度内の学び直し

## (2) 本年度の取組

### ①城北中学校区のめざす子供像

じっくり考え、はっきり表現し、くり返し粘り強く挑戦する児童・生徒  
J。 H。 Ku

### ②城北中学校のめざす生徒像

- ① 夢や目標を持ち、自ら考え学ぶ意欲的な生徒
- ② 主体的に活動し、ルールや時間を守る生徒
- ③ 豊かな心を持ち、人を大切にする生徒

### ③学校教育目標

生徒の主体性を育み、一人一人の願いをかなえる城北教育

### ④研究主題

主体的な学びの創造 ～ 自ら考え学ぶ授業づくりを通して ～

### ⑤本校が育成を目指す資質・能力

資質・能力	資質・能力の中で特に身に付けさせたい力
知識・技能	①学習したことを自ら語れる力（知の構造化）
思考力・判断力・表現力	①根拠をもとに、正しい判断をする力（論理的思考力） ②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力（批判的思考力） ③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力（言語力）
主体的に学ぶ力	①自ら課題を見だし、解決しようとする力
他者とのかかわる力	①他者と協力（協働）し、課題を解決しようとする力 ②他者とのかかわりを通して、自らの考えを深めたり広げたりしようとする力
社会貢献力	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力
自己形成力	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力 ②自信を持つ力

### ⑥城北中がめざす授業の姿

- ①自ら関心・意欲を持って課題を発見し、解決方法を考えられるような導入の工夫をしている。主
- ②課題解決に向け、自らの考えをまとめるために個人でじっくり考えることができるよう時間の確保や手立てが講じられている。思
- ③グループやペア等の活動を通して、協力して課題解決に臨んだり、他者の考えをもとに自らの考えを深めたり広げたりする場面が設定されている。他
- ④地域の課題に自ら目を向け、自分にはできないことはないかを考え行動化させている。社
- ⑤振り返りでは、学習過程における成長を評価するとともに、更なる追究課題を見い出させている。自
- ⑥学んだ知識や技能について、文章でまとめさせている。知

### ⑦本年度の取組の重点

- 【教科】**
- ①全教職員による4つの視点を踏まえた単元開発及び実践
    - 視点①：単元の終末（ゴール）を想定したパフォーマンス評価の作成
    - 視点②：単元の逆向き設計
    - 視点③：「課題発見・解決学習」の6つの学習過程を位置付けた単元計画の作成
    - 視点④：単元における育成したい資質・能力の手立てと評価
  - ②授業改善の取組
    - AL（主体的で、対話的で、深い学び）を視点とした、校内研修の充実
- 【総合的な学習の時間】**
- ①全学年による全単元の改善及び実践
  - ②前期単元・後期単元の校内実践交流

### 3 育成を目指す資質・能力

#### (1) 育成を目指す資質・能力と構成イメージ

本校では、自ら考え学ぶ（主体性を持った）生徒の育成を一番の柱として、そのために、生徒に身に付けさせるべき力をどのように設定すればよいかを考え、図1の6つ（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学ぶ力」「他者とのかかわる力」「社会貢献力」「自己形成力」）に整理した。また、それぞれの資質・能力について、共通認識を図るために、それぞれの資質・能力に対して特に身に付けさせたい力を備えた生徒像を定義している。

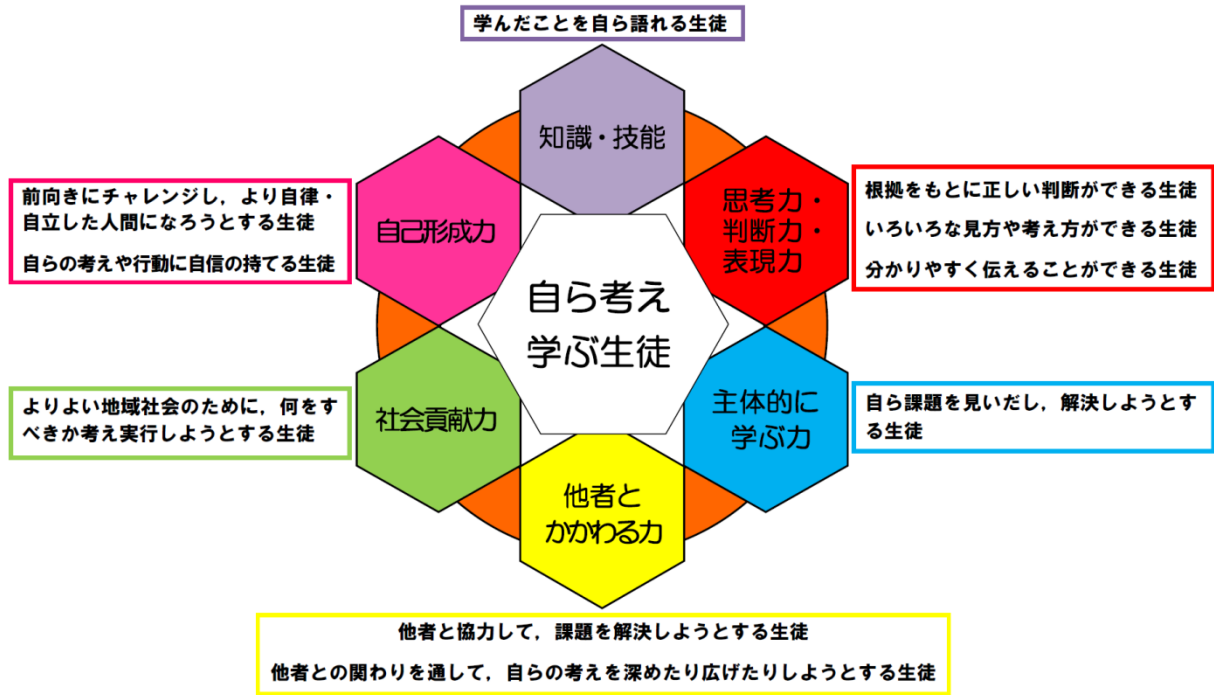


図1 本校が育成を目指す資質・能力

これらの力を、全ての教科や領域、学校教育活動で育成することは難しいため、図2のようなイメージを持って、学校教育活動全般において、設定した資質・能力を循環よく育成していくことが重要であると考えます。

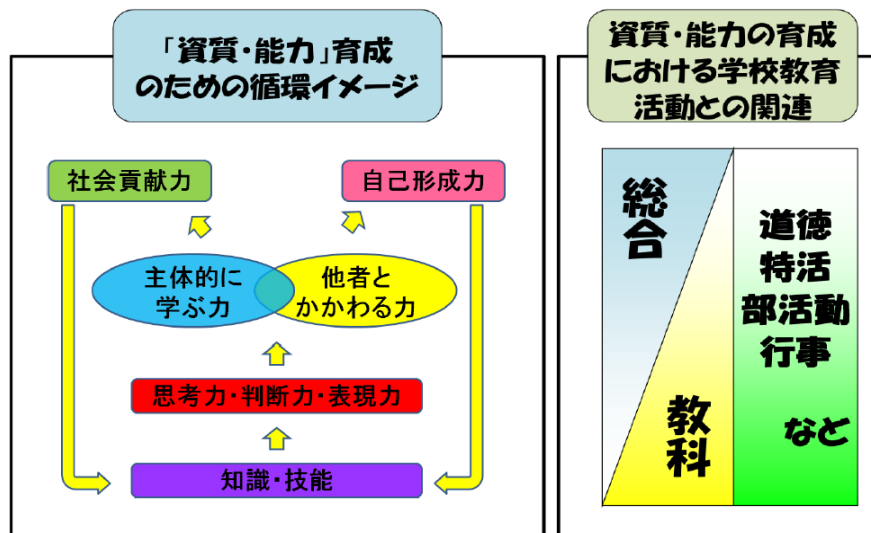


図2 本校が育成を目指す資質・能力の構成イメージ

## (2) 資質・能力の捉え

### ①各校が資質・能力を設定することの意味

次期学習指導要領では、前文に以下の内容が示されている。

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

・・・ 中略 ・・・

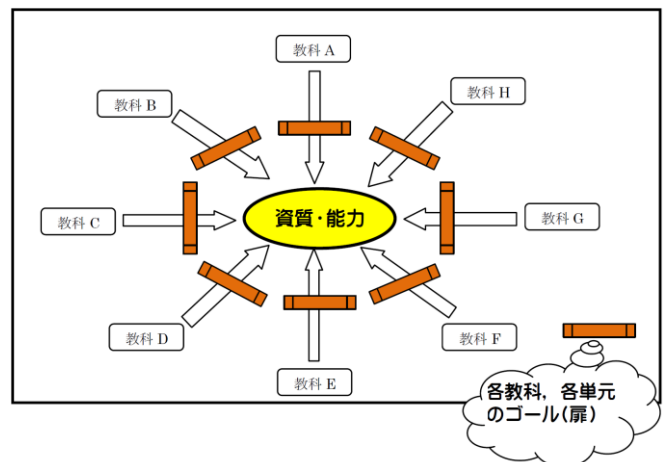
また、各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね、長年にわたり積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生かしながら、生徒や地域の現状や課題を捉え、家庭や地域社会と協力して、学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくことも重要である。生徒が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から生徒や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。

【引用：次期学習指導要領 前文】

### ②本校における資質・能力の捉え

育成を目指す資質・能力はどのような捉えで設定すればよいか。本校では、「子供たちが大人になったときに社会で通用する力」であると考え。そして、その資質・能力は様々な教育活動を通して育まれるものであり、また逆にその資質・能力を発揮することで、教科等の目標や各校で設定した教育目標を達成することができる。そういうものであると捉えている。

次期学習指導要領では、教科横断的に全ての教育活動を通じて身に付けさせるべき力を3つの柱で示されている。それは、①「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」である。これらの3つの柱を土台として、今後は各校において、それぞれの子供の実態や地域性等を踏まえ設定された資質・能力の育成を図るため、全教職員が、資質・能力について共通認識を持ち、同じ方向性を持って子どもたちに必要な力を身に付けさせることが求められていると考える。



### ③本校と国や県、市で示されている資質・能力との関連

本校が育成を目指す資質・能力は、次期学習指導要領で示されている資質・能力の3つの柱と「広島県『学びの変革』アクション・プラン」に示されている児童生徒に育成を目指した資質・能力、



また、福山市『福山 100NEN教育』で示されている「変化の激しい社会をたくましく生きる力＝21世紀型“スキル&倫理観”」との関連がどのようになっているかを表1に整理した。ここで示されている資質・能力をバランスよく、そして同じ方向性を持って育成することにより、さらに効果的に資質・能力の育成を図ることを目指す。

表1 各資質・能力の関連

次期学習指導要領	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	
広島県	知識	スキル	意欲・態度	価値観・倫理観
福山市	21世紀型“スキル&倫理観”			
城北中	知識・技能	思考力・表現力・判断力	主体的に学ぶ力 他者とのかかわる力	社会貢献力 自己形成力

④本校が育成を目指す資質・能力の具体的な力

本校が育成を目指す資質・能力を6つ設定しているが、それぞれについて、教師や生徒はその力に対するイメージや捉えが異なる場合がある。従って、本校では育成を目指す各資質・能力について、イメージを共有するために「特に身に付けさせたい力」として定義づけ（表2）を行った。つまり、これが本校において資質・能力を身に付けた生徒の姿である。

表2 本校が育成を目指す資質・能力

資質・能力	資質・能力の中で特に身に付けさせたい力
知識・技能	①学習したことを自ら語れる力（知の構造化）
思考力・判断力・表現力	①根拠をもとに、正しい判断をする力（論理的思考力） ②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力（批判的思考力） ③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力（言語力）
主体的に学ぶ力	①自ら課題を見だし、解決しようとする力
他者とのかかわる力	①他者と協力（協働）し、課題を解決しようとする力 ②他者とのかかわりを通して、自らの考えを深めたり広げたりしようとする力
社会貢献力	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力
自己形成力	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力 ②自信を持つ力

⑤総合的な学習の時間における資質や能力及び態度との関連

総合的な学習の時間では、「育てようとする資質や能力及び態度」を「学習方法に関すること」、「自分自身に関すること」、「他者や社会とのかかわりに関すること」の3つの視点に配慮し、各学校の目標を実際の学習活動へと実践化するためにより具体化・分析的に示されなければならない。

そこで、本校が育成を目指す資質・能力を総合的な学習の時間における3つの視点で整理したものが、表3である。総合的な学習の時間では、この3つの視点を学習活動にバランス良く配置するとともに、これら6つの資質・能力を評価の観点として評価規準を作成している。

表3 総合的な学習の時間における「資質や能力及び態度」との関連

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
知識・技能	主体的に学ぶ力	他者とのかかわる力
思考力・判断力・表現力	自己形成力	社会貢献力

### (3) 資質・能力のルーブリックについて

表4は、本校の育成を目指す資質・能力とそれに対するルーブリックを示したものである。本校では、資質・能力に対する評価を大きく3つの場面でを行っている。

1つ目は、教科の各単元において重点的に育成することができる資質・能力を単元計画に明確に位置付け、それを育成するための手立てと評価規準を明文化し評価を行っている。

2つ目は、総合的な学習の時間において、資質・能力を評価の観点に位置付け、それぞれの観点に対する評価規準を作成し評価を行っている。

3つ目は、表4に示している資質・能力のルーブリック表による評価である。資質・能力で特に身に付けさせたい力について年2回、各学年で生徒アンケートを実施し、その結果を受けて、学校教育全般の重点目標を設定したり、各学年や分掌、各教科、部活動等の目標の設定のための指標として使ったりしている。

また、教職員が各資質・能力に対してどの程度意識して指導を行うことができたのかを評価し改善することを目的に年2回教職員アンケートを実施している。これらの結果を整理・分析し、課題や成果を全教職員で共有している。

表4 資質・能力のルーブリック表

城北中学校の設定した「資質・能力」に係るルーブリック表 [平成29年度版]				
資質・能力	特に身に付けたい力	グレート★★★	グッド★★	オクケー★
知識・技能	学習したことを自ら語れる力(知の構造化)	自分の考えをまとめる際に、今まで学習した言葉やスキル(技法)を様々な場面で効果的に使うことができます。	新しく学習した言葉やスキル(技法)について、自分の言葉で説明することができます。	新しく学習した言葉やスキル(技法)を理解しています。
思考力・判断力・表現力	根拠をもとに、正しい判断をする力(論理的思考力)	正しい判断や結論を導くことができ、さらに「なぜそう判断したのか」の適切な理由や根拠を言うことができます。	正しい判断や結論を導くことができ、さらに「なぜそう判断したのか」の理由や根拠を言うことができます。	正しい状況判断や分析ができます。
	よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力(批判的思考力)	よりよい目標の達成のために、自分や他の人の考えや意見に対して、それが正しい判断であったか、他によりよい考えはないか等を集団で話し合うことができます。	自分の判断や考えに対して、思いこみがなかったか、間違いはなかったかを客観的に振り返ることができます。	ある事柄や他の人の意見に対して、思いこみがないか、おかしいところがないかという見方ができます。
	自分の考えを相手に納得できるよう分かりやすく伝える力(言語力)	自分の考えを、学習した用語や図、表、グラフを用いて、分かりやすく伝え、相手を納得させることができます。	自分の考えを、学習した用語や図、表、グラフを用いて、分かりやすく伝えることができます。	自分の考えを、学習した用語や図、表、グラフを用いて伝えることができます。
主体的に学ぶ力	自ら課題を見だし、解決しようとする力	日々の生活の中で、周囲に疑問や課題意識を持ち、それに対して自分に何かできることはないかを考え、自らの判断と責任で行動を起こそうとしています。	決められた以外のことについて、自らやるべきことを考え、判断し、取り組もうとしています。	決められたことを、自らの判断で、進んで取り組もうとしています。
他者とかわる力	他者と協力(協働:きょうどう)し、課題を解決しようとする力	一人では解決が難しい課題に対して、自ら積極的に他者と関わり、仲間とともによりよい解決方法を出し合い、解決に向けてともに取り組むことを大切にしています。	一人では解決が難しい課題に対して、仲間とともに様々な解決方法を出し合い、解決に向けてともに取り組むことを大切にしています。	今までの体験から、他の人と協力することで、できなかったことができるようになることに気づいています。
	他者とのかわりを通して、自らの考えを深めたり広げたりしようとする力	他の人の考えや意見を尊重しながらも、自らもきちんと主張し、お互いの意見や考えを深めたり広げたりしようとすることを大切にしています。	集団内において、多数の考えや意見に賛同するだけでなく、少数の考えや意見も尊重することを大切にしています。	今までの体験から、自分の考えを、深めたり広げたりするために他者との関わりが大切であることに気づいています。
社会貢献力	よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	地域や社会に対して疑問や課題意識を持ち、どうすれば地域や社会がより良くなるかを考え、自分ができることを考え、自らの責任で判断し、行動(実行)することができます。	普段から、地域や社会をよりよくするために、「こうしたい」とか「こうなっていほしい」と考えるようにしています。	自らの意志で、ボランティア活動等に参加し、地域や社会に役に立とうとしています。
自己形成力	前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	日々の学習や部活動などにおいて、目標やその目標を達成するための計画を立てて、実際に行動し、その取り組みが周りからも評価されています。	日々の学習や部活動などにおいて、目標やその目標を達成するための計画を立てて、実際に行動できています。	日々の学習や部活動などにおいて、目標やその目標を達成するための計画を立てています。
	自信を持つ力	常に目的や目標を持ち、それを達成するために努力を怠らない強い心を持っています。	小さな成功体験の積み重ねが自らの自信につながると思っています。	不安や失敗、恐れに対して負けない自分を形成するために、結果を恐れず何事にも前向きにチャレンジするようにしています。

#### 【ルーブリックとは】

○学校教育などで、目標達成度を評価するための表。学習における具体的な目標と、それぞれの達成レベルを一覧表にしたもの。また、それを用いた評価法。

【引用：デジタル大辞泉】

○ルーブリックとは、子どもの学習到達状況を評価するための、評価基準表のこと。

【引用：関西大学総合情報学部 教授 黒上晴夫】

#### (4) 資質・能力育成のためのカリキュラムマップ（年間指導計画）

##### ①カリキュラムマップ（年間指導計画）とは

カリキュラムマップとは、児童生徒が育成を目指す資質・能力を身に付けていくための“学びの地図”となるものである。本校が育成を目指す資質・能力について、各教科や総合的な学習の時間、特別活動、道徳等全ての教育活動の中のそれぞれの場面において、子供たちにどのような姿を目指すのかをカリキュラムマップに明文化し、さらに、資質・能力の育成のための重点単元がどこで、教科横断的にそして系統的にどのようなつながりがあるのかを視覚的にも確認できるものである。

##### ②どうしてカリキュラムマップが必要なのか

「広島版『学びの変革』アクション・プラン」では、平成30年度より、「課題発見・解決学習」が全県展開される。「平成30年度『課題発見・解決学習』の全県展開」とは、全ての学校で、これからの社会を生き抜くために必要な資質・能力の育成を目指した「主体的な学び」を促進するため、総合的な学習の時間を始め、各教科等の学習において「課題発見・解決学習」の取組が実践されている状態を指している。特に平成30年度の全県展開に向けて、次のことに取り組むことが大切である。

- 学校教育目標を踏まえ、自校の児童生徒に育成を目指す資質・能力を設定すること
- 自校が設定した育成を目指す資質・能力の一つ一つについて、発達段階に応じた目指す児童生徒の具体的な姿を明確にすること
- 自校が設定した育成を目指す資質・能力を「どの教科等で」「いつ」育成すべきかについて構想すること
- 「課題発見・解決学習」の単元を開発し、次年度の年間計画へ位置付けること

【引用：平成29年度広島県教育資料 p.99】

カリキュラムマップは、まさにこれらの取組を実行していくためのツールであり、全ての教職員が、本校が育成を目指す資質・能力と教科や学習内容、その他の教育活動全般でどのような関連があるかを俯瞰して眺められるようにしたものである。それによって、教職員は、他教科のとの関連や系統性について意識を高められるとともに、単元開発及び授業改善する力（カリキュラム・マネジメントする力）を高めることにもつながると考える。

##### ③本校のカリキュラムマップについて

次ページより、本年度の3学年分のカリキュラムマップを掲載している。以下に本校のカリキュラムマップの特徴を示す。

- ① 一番上に本校が育成を目指す資質・能力及び各資質・能力におけるめざす子供像を示している。
- ② 資質・能力の育成を図るための重点単元に★マークを付けて示している。
- ③ 学力調査（「基礎・基本」定着状況調査及び全国学力学習状況調査）の教科（国・数・理・英）において、課題があり、その定着に向けて重点的に取り組む必要のある単元に   の印を付けて示している。
- ④ 各単元の下に、その単元で育成を図る資質・能力（**思・主・他・社・自**）を示している。
- ⑤ 育成を目指す資質・能力を各教科等の立場では、どのように捉えられるのかを表の左側に「〇〇する力」「〇〇する態度」という表現で整理し示している。



育成する力(21世紀型“スキル&倫理観”)	知識・技能【知】	思考力・判断力・表現力【思】	主体的に学ぶ力【主】	他者とかかわる力【他】	社会貢献力【社】	自己形成力【自】
めざす子ども像 (21世紀型“スキル&倫理観”を身に付けた当該学年の児童・生徒の姿)	学習したことを自ら語れる。	根拠を持って、正しい判断をしている。よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方をしている。自分の考えを相手が分かりやすいように伝えられる。	自ら課題を見だし、解決しようとしている。	他者と協力して、課題を解決しようとしている。他者との関わりを通して、自らの考えを深めたり変えたりしている。	他者との共存の中で、集団の利益になることを考え実践しようとしている。	前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとしている。自らに自信を持っている。

【知】は全教科全領域で身に付けさせる力 ★“21世紀型スキル&倫理観”の育成に係る重点単元等 部分は学力調査等における課題の定着に係る単元等

各教科等	各教科等で育成する(21世紀型“スキル&倫理観”)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数	
各教科	国語	様々な本や文章などを読み、内容や要旨をとらえ構成を考へて的確に書く力。	言葉に出会うために(7)	学びをひらく(5)	新しい視点へ(17)	言葉をつなぐ(7)		つながりの中で(19)	いにしへの心に触れる(15)	★論点を捉えて(18)	読書に親しむ(3)	★自分を見つめる(25)		120	
	(書写)	目的や意図に応じ、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度。		硬筆(5) 毛筆(4)		読書生活を豊かに(4)								20	
	社会	様々な資料を活用し、地域や時代の特色を多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに、適切に表現する力。広い視野に立って我が国及び世界の伝統や文化を尊重する態度。	世界の姿(8)	世界各地の人々の生活と環境(13)	歴史の流れをとらえよう(7)	古代までの日本(26)				★世界の諸地域(31)		世界の様々な地域の調査(8)	★中世の日本(12)		105
	数学	負の数まで拡張した数の概念、文字式・方程式の必要性や計算の仕方、図形の性質や関数などを、数学的活動を通して考察し表現する力。問題解決において筋道を立てて考察し数学的な表現を用いて自分なりに説明しようとする態度。	正の数と負の数(31)		文字と式(18)			1次方程式(21)	★比例と反比例(21)		平面図形(18)	空間図形(19)	★資料の活用(12)		140
	理科	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に進んでかかわり、そこにある多様性や規則性を発見したり課題を解決したりする力。物理的・化学的な事物・現象について観察、実験を行い、これらの事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養う態度。	★植物のくらしとなかま(29)			身のまわりの物質(28)				★光・音・力による現象(28)		活きている地球(20)			105
	音楽	多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、創意工夫して表現する力。音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽によって生活を明るく豊かにする態度。	明るい歌声を響かせよう(3)	音楽の特徴から情景を想像しよう(2)	★曲想やパートの役割を感じ取って、表現を工夫しよう(8)			響きの美しさを味わおう(4)	和太鼓に親しもう(2)	日本の歌のよさをと感じ取って表現を工夫しよう(2)	イメージと音楽との関わりを感じ取ろう(4)	日本とアジアの音楽の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう(4)	仲間とともに、表情豊かに合唱しよう(8)		45
	美術	感性や想像力を働かせて、豊かな発想・構想し、造形感覚や技能を身に付け、創造的に表現する力。自然の造形や美術文化の基礎的な理解や見方を広げ、美しいものや優れたものに感動する態度。	感じたことを話し合おう(1)	★絵文字がしゃべりだす(9)		美術史(2)		★水のぬくもりと暮らし(9)	風神雷神、自然と人と(1)		写してあそぶ版画の魅力(4)	★心安らぐわたしの場所(10)	火焔型土器(1)	美術史(2)	45
	保健体育(男)	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身に付け、運動を豊かに実践する力。	★体づくり運動(8)	★バレーボール(10)	水泳(10)			短距離・リレー(8)	マット・跳び箱(10)	長距離走(10)	★ソフトボール(8)	剣道(4)	★ダンス(6)	★バスケボール(10)	89
	保健体育(女)	運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最前を尽くして運動をする態度。	★体づくり運動(8)	短距離・リレー(10)	水泳(10)			★バレーボール(8)	走り高とび(7)	長距離走(10)	ハードル走(6)	★バスケボール(10)	マット運動(6)	★ダンス(6)	89
	(保健)				心身の機能の発達と心の健康(16)										16
技術・家庭	ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通じた材料と加工に関する基礎的・基本的な力。技術と社会や環境とのかかわりについての理解や、技術を適切に評価し活用する能力と態度。		材料と加工法(8)						★製作品の設計・製作(27)					35	
	食生活に関する実践的・体験的な学習活動を通じた生活の自立に必要な基礎的・基本的な力。食生活についての理解やこれからの生活を展望し課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度。		★食生活と栄養・食品の選択(14)							調理と食文化(21)				35	
外国語	外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、初歩的な英語でコミュニケーションをとる力。友達や考えや意見を認め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度。	Unit0 アルファベット身の回りの英語(あいさつなど)(10)	Unit1 はじめましてUnit2 学校でbe動詞(自己紹介)(18)	Unit3 私の好きなことUnit4 ホームパーティ(16)	★be動詞(自己・他者紹介)★自分の考えや気持ち相手が正しく伝わるように書く		Unit5 学校の文化祭 疑問詞 体調をたずねる	Unit6 オーストラリアの兄★グリーティングカード★ウェブサイト(HP作成)★1日の生活(23)	Unit7 ブラジルから来たサッカーコーチ	Unit9 チャイナタウンへ行こう現在進行形命令文★道案内(15)	Unit10 あこがれのボストン can ★ちよっとお願い(依頼)Unit11 思い出の一年過去形(日記)(18)	一年のまとめ The Restaurant with Many Orders(10)		140	

総合的な学習の時間	【知】学習対象の理解を深めたり、学習事項において必要なスキルを習得したりする力。【思】学習課題の解決のため情報を整理・分析しまとめる力。学習課題の解決のため自らの考えを、相手に伝わりやすいように表現する力。【主】自ら課題を見だし解決しようとする態度。【他】課題解決のため他者と協働したり、他者との関わりの中で自らの考えを深めたりしようとする態度。【社】地域やグローバルに目を向け、自分に行うことができることは何かを考え、実行しようとする態度。【自】自らを追究し、成長させようとする態度。自ら自信を持つ力。	地域を知り、地域の課題を考えること【地域理解・社会貢献】	将来の道筋を考えること【自己探究】	
	学習課題	地域の魅力	職業の選択	
	学習対象	地域を誇りに思う気持ち	将来の職業に就くまでの道筋	
		城北学区を盛り上げよう	職業ロードマップをつくろう	
	オリエンテーション	企画の検討を行う。	オリエンテーション	
	学習活動	城北学区の魅力と課題について、施設で働く人や街の人にインタビューして調べる。	自分の興味がある職業を知り、職業ロードマップを作る。	
		★地域の魅力を発信するために、企画を考え、提案する。	★ロードマップをもとに、スピーチをする。	
		企画を実行する。	振り返り	
特別の教科 道徳	道徳的価値の意義を理解し、その大切さを理解する力。道徳的価値を表現したり、表現できなかった場合の考え方は多様であることを理解したりしようとする態度。自己を見つめ、他者とかかわる中で相手の立場に立って考える力。1-(1), 2-(3), 4-(4)	美しく自分を含めあげて下さい(6) 六五×十四回分のありがと4-(6) アキラの選択1-(3) 出船の位置に1-(1) ばくちの性格をつかった友人1-(5)	娘のふるさと4-(8) 裏庭のできごと1-(3) 午前一時四十分4-(5) 3-(1)	語りかけの日4-(6) 米屋の奥さんの足音1-(4) あなたはすごい力で生まれてきた3-(1)
特別活動 学級活動	人を大切にし、望ましい人間関係を形成し自主的に課題を解決する力。集団の一員として互いに協力、支援しながら共に伸びていこうとする態度。	★学級開き、中学生になって、学級集団、組織づくり、★教育合宿に向けて、学活の進め方	★生徒会役員選挙、2学期の反省、冬休みに向けて	★自己理解、職業への適性
特別活動 学校行事等	学校行事等を通じ望ましい人間関係を形成し、集団への連帯感を深め、協力してよりよい学校生活を築こうとする態度。よりよい学校生活を築くため、主体的に考え実践的に行動できる力。	★入学式、★教育合宿、★体育大会、防火防災教室、避難訓練、生徒集会	★文化発表会、★文化発表会、公開研究会	★卒業式、生徒集会、修了式、離任式
その他 (自校の特色等)				









## 4 本校の取組

### (1) 本校の取組の具体について

本校は、「資質・能力の育成」「主体的な学びの創造」「学力の向上」の3つを取組の柱としている。なぜ、この3つが本校の取組の柱となるかについて、右のスライドにイメージを示す。

本校では、研究主題を「主体的な学びの創造～自ら考え学ぶ授業づくりを通して～」とし、本校の研究仮説を「主体的な学びの創造を目指した単元開発・授業改善を行えば、本校が育成を目指す資質・能力を育むことができ、学力向上につながるであろう」としている。これは、学習指導要領改訂に向けて示された論点整理資料（H27.8）からも「根拠を持って説明する力」「主体的に学ぶ力」「社会参画への意識」等の課題（スライド3）が指摘された。こういった課題等を受けて、次期学習指導要領では、育成を目指す資質・能力（子供たちに特に身に付けさせなければいけない力）を3つの柱（スライド4）で示された。しかし、これは学力の3要素（スライド5）とも深くつながる力でもある。従って、これから子供達に身に付けさせなければいけない力とは、「資質・能力」であり、「学力」でもあると言えるのではないかと考えた。

それでは、どのようにして「資質・能力の育成」や「学力の向上」を目指せばよいのか。次期学習指導要領では、これまで改訂の中心であった「何を学ぶか＝（学習内容）」という指導内容の見直しに加えて、「何ができるようになるか＝（資質・能力の育成、学力の向上）」、「どのように学ぶか＝（主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善）」を総則及び全体の構成の柱として示されている。「何を学ぶか」については、次期学習指導要領及び次期学習指導要領解説で示されている。また、「何ができるようになるか」については、前節でも本校が育成を目指す資質・能力を設定したところである。そして、「どのように学ぶか（学ばせるか）」についてが、本節の中身となっている。本校では、単元開発とその実践、そして授業改善を取組の重点としている。また、「広島版『学びの変革』アクション・プラン」では、「課題発見・解決学習」（※次項4（2）参照）として単元開発及び授業改善の取組を進めているところであるが、本校も、この視点も踏まえ、各教科と総合的な学習の時間において、本校独自の視点を踏まえ単元開発及び授業改善を行っている。

**本校の研究主題**

**主体的な学びの創造**  
 ～自ら考え学ぶ授業づくりを通して～

**本校の研究仮説**

**主体的な学びの創造**を目指した、単元開発・授業改善を行えば、本校が育成を目指す**資質・能力を育む**ことができ、**学力向上**につながるであろう。

1

---

**なぜ、今「学力の向上」なのか？**

2

---

**改訂に向けた現状における課題**

我が国の子供たちについては、**判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べたり、実験結果を分析して解釈・考察し説明したり**することなどについて課題が指摘されることや、**自己肯定感**や**主体的に学習に取り組む態度**、**社会参画の意識**等が国際的に見て相対的に低いことなど、子供が**自らの力を育み、自ら能力を引き出し、主体的に判断し行動する**までには**必ずしも十分に達しているとは言えない状況**にある。

3

---

**改訂に向け、育成を目指す資質・能力**

```

      graph TD
        A[「学びに向かう力」人間性等  
どのように社会・世界と関わり、  
よりよい人生を送るか] --- B[「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を  
総合的によらえて醸成化]
        B --- C[何を理解しているか  
何ができるか  
知識・技能]
        B --- D[理解していること・できる  
ことをどう使うか  
思考力・判断力・表現力等]
      
```

4

---

**学力の3要素**

- ① 基礎的・基本的な**知識・技能**の習得
- ② これらを**活用**して課題を解決するための**思考力・判断力・表現力等**
- ③ **主体的に学習に取り組む態度**

5

---

**つまり…**  
 今身に付けさせたい 今求められる  
**「資質・能力」＝「学力」**

**だから…**  
**主体的な学びの創造により、  
資質・能力が育まれ、学力の向上に  
つながらなければいけない！！**

6

## (2) 「課題発見・解決学習」について

### ①平成30年度「課題発見・解決学習」全県展開とは

<p><b>平成30年度「課題発見・解決学習」全県展開</b></p> <p>全ての学校で、これからの社会を生き抜くために必要な資質・能力の育成を目指した「主体的な学び」を促進するため、総合的な学習の時間を始め、各教科等の学習において「課題発見・解決学習」の取組の実践がされている状態である。</p> <p>【引用：平成29年度広島県教育資料p.99】</p>	<p><b>全県展開に向けた具体的な取組とは？</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○学校教育目標を踏まえ、自校の児童生徒に育成を目指す資質・能力を設定すること</li><li>○自校が設定した育成を目指す資質・能力の一つ一つについて、発達段階に応じた目指す児童生徒の具体的な姿を明確にすること</li><li>○自校が設定した育成を目指す資質・能力を「どの教科で」「いつ」育成すべきかについて構想すること</li><li>○「課題発見・解決学習」の単元を開発し、次年度の年間指導計画へ位置付けること</li></ul> <p>【引用：平成29年度広島県教育資料p.99～100】</p>
--	--

### ②「課題発見・解決学習」とは

平成29年度広島県教育資料（p.101, 102）では、「課題発見・解決学習」の定義を次のように示されている。

<p>「課題発見・解決学習」とは、児童生徒が自ら課題を見付け、課題の解決に向けて探究的な活動をしていく学習である。</p> <p>「課題発見・解決学習」には、次のような活動が考えられる。</p> <p>〔課題の設定〕、〔情報の収集〕、〔整理・分析〕、〔まとめ・創造・表現〕、〔実行〕、〔振り返り〕など</p> <p>これらは、いつも順序よく形式通りに繰り返されるわけではなく、順番が前後することもあるし、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われる場合もある。また、この過程は図3に示すように何度も繰り返され、スパイラルに高まっていく。特に充実を図ることが求められるのは、〔課題の設定〕、〔整理・分析〕、〔振り返り〕である。</p>
--

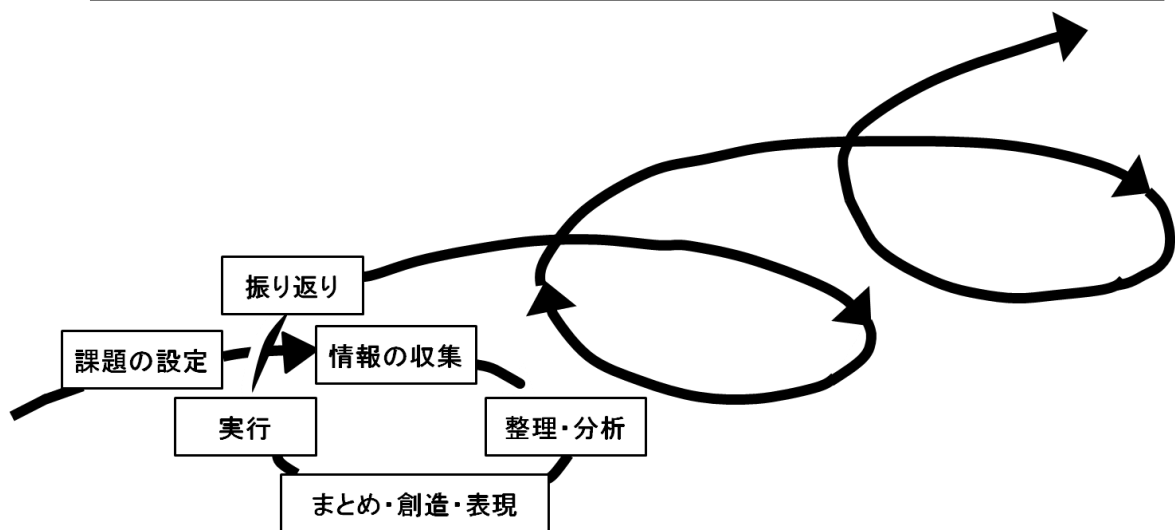


図3 「課題発見・解決学習」の過程（イメージ）



③「課題発見・解決学習」の実践例（1時間扱い）

**導入** **単元名：確率（第2学年）**




**どの目が出やすいですか。**



**どの目の組み合わせが一番多く出るでしょうか。**



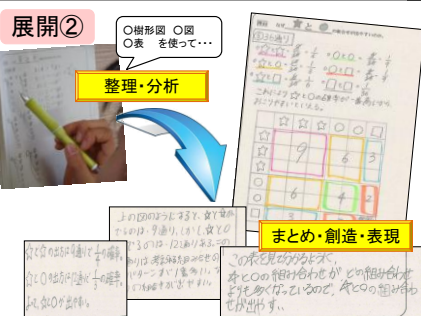
**導入**



**展開①** **情報の収集**



**展開②** **整理・分析**



**まとめ** **振り返り**



実験で得られた結果（統計的確率）と数学的に処理して得られた結果（数学的確率）がほぼ同じ値になった！

図のサイコロを提示し、「どの目が出やすいですか」と問います。それに対して生徒は、「★が出やすいです」と答えます。ここでポイントとなるのが、1つのサイコロを使って、「このサイコロは★が出やすい」ことを、生徒に意識付けておくことです。

次に、サイコロを2つ提示し、「どの目の組み合わせが一番多く出るとおもいますか」と問います。すると多くの生徒が、反射的に「★と★が一番出やすい」と答えることが予想できます。ここで大切なことは、あまり時間をかけず反射的に答えさせることです。

生徒が予想した「★と★」の組み合わせが本当に一番出やすいのかどうかをどうやって調べようと問うと、生徒は「実験する」という反応が期待できます。ここでのポイントは、今回のサイコロではどのような目の出方（組み合わせ方）が考えられるかを全体で確認したうえで、実験に移ります。

各グループに集計表とサイコロを用意し、実験を行います。この学習過程が【情報の収集】にあたります。そして、実験の結果、生徒の予想を裏切って「★と●」の組み合わせが一番出やすいという結果となってしまったことを受けて、生徒たちには、「なぜ」「どうして」という疑問が生まれます。ここが【課題の設定】にあたります。

次に生徒は、その理由を実験結果をもとに小学校や本単元で学習した樹形図や表などを使い、場合の数や確率を求めることで確かめようとします。ここが【整理・分析】の場面にあたります。そして、数学的用語・表現を用いて、自らが導き出した結論を分かりやすく説明できるようにまとめる。このアウトプットの場面が【まとめ・創造・表現】になります。

最後に、実験結果（統計的確率）と数学的に考察した結果（数学的確率）とがほぼ同じ値になっていることに気づくことで、数学的確率で考えることのよさや楽しさを実感し更なる探究心につなげていく。この場面が【振り返り】の場面にあたります。

### (3) 各教科の単元開発について

#### ①各教科の単元開発の視点

単元開発及びその実践においては、全職員が以下の4つの視点を持って取組を行っている。

視点1	: 単元の終末（ゴール）を想定したパフォーマンス評価の作成
視点2	: 単元の逆向き設計
視点3	: 「課題発見・解決学習」の6つの学習過程を位置付けた単元計画の作成
視点4	: 単元における育成したい資質・能力の手立てと評価

このような視点を全職員が共通意識を持って単元開発及び授業実践していくために、指導案の様式の改善も行ってきた。次の図4は、上記の4つの視点を踏まえた指導案の一部（様式作成例）である。

#### ② 単元の目標と身に付けさせたい力について

1 単元の目標

- 事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを理解することができる。
- 一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解することができる。
- 二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。
- 一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明することができる。

2 単元の評価基準

ア 数学への関心・意欲・態度	イ 数学的な見方や考え方	ウ 数学的な技能	エ 数量や図形などについての知識・理解
様々な事象を一次関数として捉えたり、表、式、グラフなどで表したりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとしている。	一次関数についての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を数学的な推論的方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	一次関数の関係を表、式、グラフを用いて的確に表現したり、二元一次方程式を関数関係を表す式とみてグラフに表したりするなど、技能を身に付けている。	事象の中には一次関数として捉えられるものがあることや、一次関数の表、式、グラフの関連などを理解し、知識を身に付けている。

#### ③ 単元計画

視点1: 本単元の終末（ゴール）の姿をパフォーマンス評価として単元計画の冒頭に提示する

パフォーマンス課題①	評価基準
あなたは、携帯電話会社ソフトダンスの販売員です。今、M先生とH先生、S先生の3人がソフトダンスで新型スマートフォン「i-phone」を買い替えようとしていますが、3つあるプランのうち、どのプランで買えばよいか悩んでいます。そこで、販売員のあなたは、3人の先生に納得して買っていただくため、先生たちの現在の携帯電話の利用状況聞き、お得なプランをプレゼンします。プレゼンの際には、見た目でも分かりやすいよう工夫してくれるといいですね。	<p>A 他者の考えも踏まえ自ら結論を導き、その結論を表や式、グラフ等の数学的な表現を用いて、的確に説明することができる。</p> <p>B グループに協力を仰ぎながら、資料から必要な情報を取り出し、それを表やグラフなどで整理・分析して結論を導き出すことができる。</p> <p>C グループと協力して、資料から必要な情報を取り出し、課題を解決しようとしている。</p>

#### 視点4: 育成する資質・能力とその手立てを示す

知識・技能	知	育成・評価
①学習したことを自ら語れる力（知の構造化）	○	○
②根拠をもとに、正しい判断をする力（論理的思考力）	○	○
③よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持てる力（批判的思考力）	○	○
④自分の考えを相手に納得できるように分かりやすく伝える力（言語力）	○	○
主体的に学ぶ力	主	○
①自ら課題を見だし、解決しようとする力	○	○
他者とかかわる力	他	○
①他者と協力（協働）、課題を解決しようとする力	○	○
②他者とかかわりを通して、自分の考えを深めたり広げたりしようとする力	○	○
社会貢献力	社	-
①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	-	-
自己形成力	自	-
①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	-	-
②自信を持つ力	-	-

(2) 本単元で本校の設定した資質・能力を身に付けさせるための手立て

資質・能力	手立て
知-①	本単元で学習した数学的用語の意味やその使い方を説明させる。
思-①	複数の表やグラフ、式などを比べることで1次関数の特徴を見だしその特徴を根拠にした説明をさせる。
思-②	個人思考で考えをまとめ、集団思考において考えを広げ、再度個人思考により考えを深める場を設定する。
思-③	グループ内で全員が表・式・グラフ等を用いてプレゼンをする場を設定する。
主-①	「なぜ?」「やってみよう」と自らの必然性を強く感じさせるような課題設定を行う。
他-①	難易度の高い課題を設定し、他者と協力して解決の見通しをもつ場を設定する。
他-②	周りからの意見を交流する場を設ける。

#### ④ 単元計画

視点2: 単元を逆向きに設計し、学習内容とめあてでつなぐ

視点3: 単元を「課題発見・解決学習」の学習過程でつなぐ

視点4: 本時の目標に対する評価と育成を図る資質・能力に対する評価を一体化し評価基準として明文化する

学習過程	学習内容	めあて	評価
3	①「なぜ?」がでる。②表と式とグラフ①	①「なぜ?」がでる。②表と式とグラフ①	○
4	①「なぜ?」がでる。②表と式とグラフ②（切片）	①「なぜ?」がでる。②表と式とグラフ②（切片）	○
5	①「なぜ?」がでる。②表と式とグラフ③（傾き）	①「なぜ?」がでる。②表と式とグラフ③（傾き）	○
6	①「なぜ?」がでる。②表と式とグラフ④（グラフをかく）	①「なぜ?」がでる。②表と式とグラフ④（グラフをかく）	○

図4 本校の指導案様式の一部（様式作成例）



②単元開発の各視点におけるポイント（各教科）

ア 視点1【キーワード：ゴールの想定】

1 単元の全体像（Ⅰ：学習内容、Ⅱ：学習活動、Ⅲ：単元として生徒に身に付けさせたい力）	
Ⅰ具体的な事象の中から二つの数量について、Ⅱそれらの変化や対応を調べることを通じて、Ⅲ一次関数に対する理解を深め関数関係を見だし表現し考察する力を養う。	
2 単元の終末で見取るパフォーマンス評価	
パフォーマンス課題①	評価基準
あなたは、携帯電話会社ソフトダンスの販売員です。今、M先生とH先生、S先生の3人がソフトダンスで新型スマートフォンを買い替えようとして検討していますが、3つあるプランのうち、どのプランで買えばよいか悩んでいます。そこで、販売員のあなたは、3人の先生に納得して買ってもらいたくため、先生たちの現在の携帯電話の利用状況を開き、お好きなプランをプレゼンします。プレゼン時には、見ただけでも分かりやすいよう工夫してくださいね。	A 他者の考えも踏まえ自ら結論を導き、その結論を表や式、グラフ等の数学的な表現を用いて、的確に説明することができる。 B グループに協力を仰ぎながら、資料から必要な情報を取り出し、それを表やグラフなどで整理・分析して結論を導き出すことができる。 C グループと協力して、資料から必要な情報を取り出し、課題を解決しようとしている。
パフォーマンス課題②	評価基準
1999年のスキーワールド選手権大会では、日本人が金銀銅を獲得しましたが、その後のルール変更により、翌2001年の大会では、日本人がメダルを手に入れることができませんでした。日本スキー連盟の会長であるあなたは、「日本人が活躍できなかったのは、このルール変更にある」という日本人選手のファンの声を受けて、国際スキー連盟に抗議するかどうか考えています。次の資料をもとに、抗議をするかしないか判断してください。またその理由も説明してください。	A 他者の考えも踏まえ自ら結論を導き、その結論を表や式、グラフ等の数学的な表現を用いて、的確に説明することができる。 B グループに協力を仰ぎながら、資料から必要な情報を取り出し、それを表やグラフなどで整理・分析して結論を導き出すことができる。 C グループと協力して、資料から必要な情報を取り出し、課題を解決しようとしている。

指導案の単元計画の冒頭で、単元全体のイメージを捉えられるようにするために、  
Ⅰ どのような学習内容を、  
Ⅱ どのような活動を通して、  
Ⅲ どのような力を身に付けさせるのか  
を一文で明文化させています。

次に、単元のゴールイメージや評価方法（内容）を明示するために、身に付けさせたい力を生徒の姿から見取るパフォーマンス評価として「パフォーマンス課題」と「評価基準」を並べて提示するようにしています。

イ 視点2【キーワード：逆向き設計】、視点3【キーワード：「課題発見・解決学習」】について

実行	17	【パフォーマンス課題①】 ○学習したことを活用して、パフォーマンス課題①を解決することができる。 ●携帯電話を売り込もう（表やグラフから分析する）
	18	【パフォーマンス課題②】 ○学習したことを活用して、パフォーマンス課題②を解決することができる。 ●公正なルールについて考える（資料から分析する）【本時】
振り返り	19	○本単元のまとめができる。 ●単元の振り返りマップ

次に、視点2について、ポイントは以下の2点です。  
・毎時間、「○本時のめあて」を記載することで、子供の目線で単元の流れがイメージできるようにする。  
・毎時間、「●学習内容」を記載することで、授業者の目線で全体の学習過程がイメージできるようにする。  
これらを踏まえ、単元のゴールに向け、ストーリー性のある単元をデザインしていきます。

また、視点3についても、ポイントは以下の2点です。  
・「課題発見・解決学習」（前項4（2）参照）における6つの学習過程を位置付ける。  
・6つの学習過程を位置付ける際は、明確な場面設定と手立てを想定する。

ウ 視点4【キーワード：資質・能力の手立てと評価】

3 本単元で育成を目指す資質・能力		
(1) 本校の設定した資質・能力と本単元との関わり		
資質・能力	特に身に付けさせたい力	本単元での育成・評価
知識・技能	知 ①学習したことを自ら語れる力（知的構造化）	○
思考力・判断力・表現力	思 ①根拠をもとに、正しい判断をする力（論理的思考力）	○
	②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持てる力（批判的思考力）	○
主体的に学ぶ力	主 ③自分の考えを相手に納得できるように分かりやすく伝える力（言語力）	○
	④自ら課題を見だし、判断し、行動しようとする力	○
他者とのかかわる力	他 ①他者と協力（協働）し、課題を解決しようとする力	○
社会貢献力	社 ②他者とのかかわりを通して、自分の考えを深めたり広げたりしようとする力	○
	③よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	-
自己形成力	自 ④前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	-
	⑤自信を持つ力	-
(2) 本単元で本校の設定した資質・能力を身に付けさせるための手立て		
資質・能力	手立て	
知-①	本単元で学習した数学的用語の意味やその使い方を説明させる。	
思-①	複数の表やグラフ、式などを比べることで1次関数の特徴を見だしその特徴を根拠にした説明をさせる。	
思-②	個人思考で考えをまとめ、集団思考において考えを広げ、再度個人思考により考えを深める場を設定する。	
思-③	グループ内で全員が表・式・グラフ等を用いてプレゼンをする場を設定する。	
主-①	「なぜ?」「やってみよう」と自らの必然性を強く感じさせるような課題設定を行う。	
他-①	難易度の高い課題を設定し、他者と協力して解決の見通しをもつ場を設定する。	
他-②	周りからの意見を交流する場を設ける。	

本単元で育成が図れる資質・能力が何であるかを、「○」で示します。ポイントは以下の2点です。  
・本校の育成を目指す資質・能力は6つありますが、その6つ全てを単元に無理やり位置付けない。  
・教科や単元の特性等も踏まえて、本単元において、重点的に資質・能力の育成を図るものを設定する。

次に、本単元で資質・能力を育成するための手立てを示します。ポイントは以下の2点です。  
・教科や単元の特性を踏まえる。  
・評価も想定した手立てを具体的に記載する。  
この部分は、本年度特にこだわっているポイントでもあります。これにより、全職員が資質・能力育成のための手立てを共有することもねらっています。

◎	具体的な事象から取り出した2つの数量の関係が一次関数であるかどうかを判断し、その変化や対応の特徴を捉え、表や式、グラフなどを用いて説明することができる。（ワークシート）【思-③】
◎	具体的な事象から取り出した2つの数量の関係について、自ら課題を見だし、その課題解決のために他者の考えも踏まえよりよい方法を見いだそうとしている。（ワークシート）【主-①、他-①】
◎	本単元を学習して、何を学習したのか、どんな知識・技能を得たのかを振り返ることができる。（コンセプトマップ、振り返りシート）【知-①】

最後に、「イ視点2、視点3について」で作成した単元計画の全時の評価の観点と、評価規準を記載します。ポイントは以下の2点です。  
・評価の観点を「◎」又は「○」で示す。  
・評価規準について、資質・能力にあたる部分をゴシック体の太字で示す。  
（※本校では、学習の目標に対する評価と育成を目指す資質・能力の評価をこのように一文で明文化します。）  
こうすることで、全ての教職員が、専門教科であるかどうかを問わず、資質・能力という視点では、他の教職員はどのような評価をしているのかを知ることができるといったように、評価方法の共有化が図れることを期待しています。

③教科構想シートについて

単元開発の特に視点3と4については、各教科で特性があることから、「課題発見・解決学習」における6つの学習過程を各教科ではどのように捉え、どのような手だてを講じられるかを整理するとともに、本校が育成を目指す資質・能力についても、どのような手だてを講じることによって育成を図ることができるのかを、平成27年度より「教科構想シート」として作成した。これをもとに、各教科において、視点3と4を踏まえた単元開発につなげていった。

**資料2**：教科構想シート  
**p.19～27 参照**

④単元構想シートについて

教科構想シートをさらに、実用的・実践的なものとなるよう、本年度は指導案の様式(p.61 参照)をベースにした「単元構想シート」を作成した。

**資料3**：単元構想シート  
**p.28～45 参照**

**国語科**における主体的な学びとなる子どもの姿（1学年⇒3学年）

①情報から必要な内容を取り出し、わかりやすくまとめようとする生徒	①情報から必要な内容を取り出し、わかりやすくまとめる生徒
②情報を比較・分類して整理し、自分の考えをまとめようとする生徒	②情報を比較・分類して整理し、自分の考えをまとめる生徒
③自分の考えを相手にわかりやすく伝え、他者との交流の中で自分の考えを深めたり広げたりしようとする生徒	③自分の考えを相手にわかりやすく伝え、他者との交流の中で自分の考えを深めたり広げたりできる生徒

**教科における主体的な学びのための教師の捉える場面（●）とその手立て（○）**

課題発見・解決学習	【課題の設定】 におけるポイント	●単元全体や各本時における目標につながる課題を見出す場面 ○初発の感想や疑問をもとに、主体的に課題を設定させる。 ○言葉を手がかりに想像力を働かせ、作品世界のイメージを広げさせる。
	【情報の収集】 におけるポイント	●知識の習得場面において、必要な情報を取捨選択する場面 ○既知の情報を確認し、未知の情報を学ばせて、課題解決に必要な情報を取捨選択させる。
	【整理・分析】 におけるポイント	●文章や詩歌などを読んだり書いたり、また、聞いたり話したりする場面 ○比較・分類したり、図表にまとめたりさせる、あるいは、多面的な視野を持たせ、類推や関連づけをさせて情報を整理させる。
	【まとめ・創造・表現】 におけるポイント	●考えをまとめ、課題の解決策を創造し、他者に伝える場面 ○目的意識を明確にして文章、プレゼンテーション、新聞、メッセージカードなどの形にさせる。
	【実行】 におけるポイント	●他者の発表を受け止め自分の考えを深めたり広げたりする場面 ○相手意識を明確にして、文章、プレゼンテーション、新聞、メッセージカードなどの形にして、他者との交流を図らせる。
	【振り返り】 におけるポイント	●学びを振り返る場面 ○他者との交流の中で、得たり、深めたりした自分の考えを言葉で表現させる。

**各教科における設定した資質・能力を育成するための手立て**

資質・能力	特に身に付けさせたい力	教科で育成するための手立て
知識・技能	①学習したことを自ら語れる力 (知の構造化)	・まとめの学習の場面で、学んだことを感想文や意見文、新聞など様々な文章の形で表現させる。
思考力・判断力・表現力	①根拠をもとに、正しい判断をする力 (論理的思考力)	・必ず本文の記述をもとにした根拠をつけて考えさせ、発言したり、書かせたりする。
	②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力 (批判的思考力)	・討論やディベートの授業を通して批判的思考力をつける。文学作品では、誰の視点から書かれているか意識させ、視点を変えた見方をさせてみる。初発の疑問を大切に、批判的な読み方をさせる。
	③自分の考えを相手に納得できるよう分かりやすく伝える力 (言語力)	・常に相手を意識した表現活動をさせる。
主体的に学ぶ力	①自ら課題を見だし、解決しようとする力	・作品を読んで初発の疑問から課題を発見し、解決の方法を自分たちで考えさせる。
他者とかわる力	①他者と協力(協働)し、課題を解決しようとする力	・小グループ学習でお互いの意見を交流し深めさせる。
	②他者とのかわりを通して、自らの考えを深めたり広げたりしようとする力	・小グループ学習、意見交流、ディスカッションなどの協働学習によって自分の考えを深め広げさせる。
社会貢献力	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	・環境問題や自然などに関わる説明的文章のまとめの学習の場面で自分がどう生きるか議論で深めさせる。
		・学習したことをもとに意見文やメッセージなどの形で自分の考えを他者へ発信させる。
自己形成力	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	・さまざまな作品を通して、自分の生き方を考えさせる。
	②自信を持つ力	・振り返りの場面での自己評価や教師や仲間による相互評価をさせる。

## 社会科 教科構想シート

社会科における主体的な学びとなる子どもの姿（1学年⇒3学年）		
授業の中で設定した課題に対して、原因や理由等を考え、主体的に調べようとする生徒	授業の中で社会的事象や疑問に思ったことに対して必要な資料を自ら活用して調べ、どのようにすればよいかを考え、解決しようとする生徒	
教科における主体的な学びのための教師の捉える場面（●）とその手立て（○）		
課題発見・解決学習	【課題の設定】 におけるポイント	●単元全体や各本時における目標につながる課題を見出す場面 ○資料や社会的事象を通して、予想したことや考えの「ずれ」、「隔たり」を意識させ、主体的に課題を発見させる。
	【情報の収集】 におけるポイント	●課題解決に向けて、必要な情報を収集する場面 ○課題解決のために適切な資料を提示し、情報を収集させる。
	【整理・分析】 におけるポイント	●収集した情報（習得した知識・概念）を整理し、統合する場面 ○ノート（ワークシート）に考えを整理させる。 比較・整理・分析⇒他者との考えを比較し、視点に応じて分類したり、原因等を追究したり、共通点や相違点を明確にしたりする。 関連付け⇒既習事項や学習内容とのつながりを関連付けさせる。
	【まとめ・創造・表現】 におけるポイント	●習得した知識・概念を用いて課題解決する場面 ○説明や意思決定させるときに、根拠を明確にさせる。
	【実行】 におけるポイント	●学習したことを活用し新たな課題を発見する場面 ○学習内容を自己の課題として捉え、身近な地域や事象について置き換えて考えさせる。
	【振り返り】 におけるポイント	●学習前、学習後の学びの変容を振り返る場面 ○ノート（ワークシート）に振り返りをさせる。 ⇒何がわかるようになったのか、またなぜそうなったのかを具体的に書かせる。
	各教科における設定した資質・能力を育成するための手立て	
資質・能力	特に身に付けさせたい力	教科で育成するための手立て
知識・技能	①学習したことを自ら語れる力 (知の構造化)	・めあてに対するまとめを自分の言葉で書かせる。
	①根拠をもとに、正しい判断をする力 (論理的思考力)	・数値などの具体的なデータをもとに根拠をもって説明させる。
	②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力 (批判的思考力)	・話し合いや討論等で、他の人の意見に対する質問や自分の意見を述べさせる。
思考力・判断力・表現力	③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力 (言語力)	・ディベートやプレゼンテーション、話し合いなど、様々な言語活動を取り入れ、表現するための練習をさせる。
	主体的に学ぶ力	①自ら課題を見だし、解決しようとする力
他者とかわる力	①他者と協力（協働）し、課題を解決しようとする力	・グループ活動やペア活動を取り入れる。
	②他者とのかわりを通して、自らの考えを深めたり広げたりしようとする力	・様々な意見が出るような発問をする。
社会貢献力	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	・学習内容について、日本や身近な地域のことに置き換えて課題や解決策を考えさせる。
自己形成力	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	・授業の振り返りで、わかるようになったことやこれからもっと調べてみたいことを書かせる。
	②自信を持つ力	・生徒の発表に対して、「よく見つけたね」など評価する。 ・生徒のつぶやきを拾う。



## 数学科 教科構想シート

数学科における主体的な学びとなる子どもの姿（1学年⇒3学年）		
①「なぜ」「どうして」が自然にでてくる生徒 ②情報から必要な情報を選択し、比較・分類・関係付けすることで自分の考えを整理・分析し、数学的用語を用いて積極的に表現しようとする生徒 ③課題解決のために協働して取り組もうとする生徒	①「なぜ」「どうして」「やってみよう」が自然に出てくる生徒 ②情報から必要な情報を選択し、比較・分類・関係付けすることで自分の考えを整理・分析し、数学的用語を用いて自ら積極的に表現する生徒 ③自ら進んで課題解決のために協働して取り組む生徒	
数学科における主体的な学びのための教師の捉える場面（●）とその手立て（○）		
課題発見・解決学習	【課題の設定】 におけるポイント	●単元全体や各本時における目標につながる課題を見出す場面 ○予想や考えの「ずれ」や「隔たり」を意識させ、課題解決に必然性を感じる問題を提示する。 ⇒日常生活における問題や予想と違う結果になるような問題の提示 ⇒実物や写真などの興味を持たせる題材や資料、実験
	【情報の収集】 におけるポイント	●課題解決に向けて、必要な情報を収集（必要な知識を定着）するべき場面 ○知識の習得場面において、課題解決に必要な情報（「用いるもの」、「用い方」）をはっきりさせ、その定着を図る。 ⇒基本的な知識・技能は反復練習（※授業前の振り返り、演習、授業中の生徒との受け答えの場面）により更なる定着を図る。
	【整理・分析】 におけるポイント	●収集した情報（習得した知識）を統合する場面 ○比較・分類・関係付けを意識した指導を行う。 ○分かることを図や表に書きこませ、解決の方針を立てさせる。
	【まとめ・創造・表現】 におけるポイント	●身に付けたスキルを、活用問題で実践する場面 ○思考の過程や他者の考えを必ずノート（ワークシート）に記入させる。 ⇒個人思考で意見をまとめ、集団思考で考えを整理し、再度個人思考で自らの考えを改善する場面を仕組む。《個→集→個の思考過程》
	【実行】 におけるポイント	●学習したことを用いて、日常の場面に置き換えて課題発見し解決する場面 ●単元の終末で設定したパフォーマンス課題に取り組む場面 ○自分の事として課題を捉え、学習により身に付けた力を発揮したくなる問題を提示する。
	【振り返り】 におけるポイント	●学習前、学習後の学びの変容を振り返る場面 ○ノート（ワークシート）に振り返りをさせる。 ⇒「何ができるようになったのか」、「学んだことの要約」、「新たな発見・新たにいただいた課題」を文章でまとめさせる。 ○結果を振り返って改善する力をつける。（説明や解決方法の修正など）
数学科における設定した資質・能力を育成するための手立て		
資質・能力	特に身に付けさせたい力	教科で育成するための手立て
知識・技能	①学習したことを自ら語れる力 (知の構造化)	・数学用語を使って説明することを指導する。 ・キーワード、説明の型を示す。 ・切り返し発問により、適切な説明をさせる。
	①根拠をもとに、正しい判断をする力 (論理的思考力)	・定義・定理や性質を正しく定着させる。 ・「なぜ」等の問いかけにより、理由を常に考えさせる。
思考力・判断力・表現力	②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力(批判的思考力)	・よりよい解(別解、説明)を考えさせる。 ・「本当に？」等の問いかけにより、目の前の事象を疑う視点を持たせる。
	③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力(言語力)	・結論先行など発表の型・パターンを示す。 ・発表者の発言に対する評価を行う。
主体的に学ぶ力	①自ら課題を見だし、解決しようとする力	・身の回りの事象と結びつけた問題を作成する。 ・段階に分けて提示するなど問題提示を工夫する。 ・問題解決に向けて、見通しを持たせる。
他者とかわる力	①他者と協力(協働)し、課題を解決しようとする力	・グループでアイデアや見通しを出し合い、課題の解決に向かうような、一人では解決がやや難しい課題を設定する。 ・教え合い活動後に同様の問題を個人で解かせ、解ける喜びを感じさせる。
	②他者とのかわりを通して、自らの考えを深めたり広げたりしようとする力	・ノートに間違いを残し、なぜ間違えているのか、どうであれば正解なのかを考えさせる。 ・メモ欄に他者の意見、考え方を書く。
社会貢献力	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	・関数領域の単元を中心に、校内のボランティア活動(エコキャップ運動)やシュレッダー紙によるリサイクル活動などの関連を意識させる。
自己形成力	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	・日常場面における活用問題の課題解決を通して、数学の楽しさやよさを実感させる。
	②自信を持つ力	・個々の成長の過程を評価をする。 ・質問をすることを評価する。 ・成功体験を増やす。

## 理科 教科構想シート

### 理科における主体的な学びとなる子どもの姿（1学年⇒3学年）

①科学的な事象に対して興味・関心を持つことのできる生徒 ②科学的な事象に対して解決すべき目標を持った上で、自ら実験・観察を計画し、実験の準備片付けも含めて協力して取り組むことができる生徒 ③課題解決のために協働して取り組もうとする生徒	①科学的な事象に対して、実験・観察を通して、既習事項や日常生活の体験をもとに、考察し、科学的な用語を用いて説明する生徒
---	---

### 教科における主体的な学びのための教師の捉える場面（●）とその手立て（○）

課題発見・解決学習	【課題の設定】 におけるポイント	●生徒から「なぜ？」と疑問が出るような科学的な事象に出会わせ、課題解決に向けて、課題解決に対する強い動機を持たせる場面 ○生徒自らの生活経験や既習事項から蓄積された内部情報から生み出される予想や考えの「ずれ」や「隔たり」に気づかせ、課題解決に必然性を感じる問題を提示する。生徒に強い問題意識（学習課題）、達成欲求を抱かせる。 ⇒日常生活における問題や興味や予想と違う結果になるような問題の提示 ⇒実物や写真などの興味を持たせる題材や資料、実験
	【情報の収集】 におけるポイント	●課題解決に向けて、必要な情報の収集（必要な知識を定着）すべき場面 ○生徒全員が共有できる追究課題が明示されていることや「話し合い、考え、討論する」、「資料で調べる」、「観察・実験」「まとめ」「振り返り」の活動を単元の中に位置づける。
	【整理・分析】 におけるポイント	●実験・観察から得られた情報（習得した知識）を統合する場面 ○『整理・分析』のための思考スキルとして、 <b>比較・分類・関係づけ</b> を意識した指導を行う。
	【まとめ・創造・表現】 におけるポイント	●身に付けたスキルを、活用問題で実践する場面 ○個人思考で説明をまとめ、集団思考で考えを整理し、再度個人思考で自らの考えを改善する場面を仕組む。《個→集→個の思考場面》
	【実行】 におけるポイント	●単元の終末で設定したパフォーマンス課題に取り組む場面 ○自分事として課題を捉え、学習により身に付いた力を発揮したくなるような問題を提示する。
	【振り返り】 におけるポイント	●学習前、学習後の学びの変容を振り返る場面 ○学習前、学習後の振り返りをさせる。 ⇒「何ができるようになったのか」、「学んだことの要約」、「新たな発見・新たに見出した課題」を文章でまとめさせる。

### 各教科における設定した資質・能力を育成するための手立て

資質・能力	特に身に付けさせたい力	教科で育成するための手立て
知識・技能	①学習したことを自ら語れる力 (知の構造化)	・「科学的な用語」を使って、実験の結果をプレゼンテーションさせる場面を設定する。
思考力・判断力・表現力	①根拠をもとに、正しい判断をする力 (論理的思考力)	・ <b>比較・分類・関係づけ</b> を意識した指導を行う。
	②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力 (批判的思考力)	・個人思考で説明をまとめ、集団思考で考えを整理し、再度個人思考で自らの考えを改善する場面を仕組む。
	③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力(言語力)	・プレゼンテーションの場面を設定する。
主体的に学ぶ力	①自ら課題を見だし、解決しようとする力	・強い課題意識を喚起させる課題設定を行う。
他者とかわる力	①他者と協力(協働)し、課題を解決しようとする力	・実験・観察の際に役割を与える。
	②他者とのかかわりを通して、自らの考えを深めたり広げたりしようとする力	・まわりからの意見を交換する場を設ける。
社会貢献力	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	・科学の必要性、有用性を伝える。 ・ふるさと学習を通して、地域の課題などを科学的な視点から考えさせる。
自己形成力	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	・ジグソー学習を取り入れたたり、科学研究の課題を与えたりする。
	②自信を持つ力	・パフォーマンス課題に取り組ませることで、達成感を味わわせる。

## 音楽科 教科構想シート

### 音楽科における主体的な学びとなる子どもの姿（1学年⇒3学年）

- |                                      |                                  |
|--------------------------------------|----------------------------------|
| ①情報から必要な情報を選択し、それらを用いて積極的に表現しようとする生徒 | ①情報から必要な情報を選択し、それらを用いて積極的に表現する生徒 |
| ②課題解決のために、協働して取り組もうとする生徒             | ②課題解決のために、協働して取り組む生徒             |

### 教科における主体的な学びのための教師の捉える場面（●）とその手立て（○）

課題発見・解決学習	<b>【課題の設定】 におけるポイント</b>	● 題材全体や各授業における目標につながる課題を見出す場面 ○ 目標を知り学習の見通しを持たせる。
	<b>【情報の収集】 におけるポイント</b>	● 課題解決に向けて、必要な知識を定着する場面 ○ 知識の習得場面において、繰り返し説明し、課題解決に必要な情報の定着を図る。
	<b>【整理・分析】 におけるポイント</b>	● 個人思考をして集団志向をする場面 ○ ワークシートに考えを整理させる。
	<b>【まとめ・創造・表現】 におけるポイント</b>	● 身に付けたスキルを活用問題で実践する場面 ○ 他の考えをワークシートに書かせる。
	<b>【実行】 におけるポイント</b>	● 学習したことを用いて、課題発見して解決する場面 ○ 学習により身に付けた力を使うことができる問題を提示する。
	<b>【振り返り】 におけるポイント</b>	● 学習前、学習後の学びの変容を振り返る場面 ○ ワークシートに振り返りをさせる。

### 各教科における設定した資質・能力を育成するための手立て

資質・能力	特に身に付けさせたい力	教科で育成するための手立て
知識・技能	①学習したことを自ら語る力 (知の構造化)	・めあてに対するまとめを自分の言葉で書かせる。
思考力・ 判断力・ 表現力	①根拠をもとに、正しい判断をする力 (論理的思考力)	・鑑賞の活動で根拠をもって批評するために、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを正しく理解させる。
	②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力 (批判的思考力)	・自分たちの演奏について、自分なりの感じ方を客観的な理由をあげながら言葉で表す機会を持たせる。
	③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力 (言語力)	・音楽に対する批評などを発表し合う活動を設定する。
主体的に学ぶ力	①自ら課題を見だし、解決しようとする力	・自分たちの演奏を客観的に聴いて、よりよい表現をするために取り組ませる。
他者と かかわる力	①他者と協力（協働）し、課題を解決しようとする力	・自分たちの演奏を客観的に聴き、どうしたらよりよくなるかについて考えさせる。
	②他者とのかかわりを通して、自らの考えを深めたり広げたりしようとする力	・話し合いの場面を設けて、よりよい音楽表現のための工夫について考えさせる。
社会貢献力	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	・学校行事に向けて、意図や思いを持って表現活動に取り組ませる。
自己形成力	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	・音や音楽が生活に果たす役割を考えさせて、音と生活や社会との関わりを実感させる。
	②自信を持つ力	・一つの音楽をつくっていく体験を通して、協働する喜びを感じる指導をする。



## 美術科 教科構想シート

美術科における主体的な学びとなる子どもの姿（1学年⇒3学年）		
①色・形・素材など造形要素に注目して制作することができる生徒 ②自分の作品のよさを知り、他の人の作品のよさを理解しようとする生徒 ③自分の表現を更に深めようとする生徒	①色・形・素材など造形要素を活かし自分の思いと関連させながら制作することができる生徒 ②自分の作品や作家の作品のよさを知り、他の人の作品のよさを理解する生徒 ③自分の表現を更に深め、作品の説明ができる生徒	
教科における主体的な学びのための教師の捉える場面（●）とその手立て（○）		
課題発見・解決学習	<b>【課題の設定】 におけるポイント</b>	●単元のめあてを確認し、それを達成するための必要な条件や優先順位を決定する場面 （例）立体感を表現するには 目立つ配色にするには ●評価の視点を確認し、自分の課題を設定する場面 ○与えられた条件や達成すべき条件の確認をする。 ○自分に必要な技能や知識について見通しを持たせる。
	<b>【情報の収集】 におけるポイント</b>	●自分の作品や鑑賞のために必要な情報を身の回りの生活の中から集める場面 ●参考作品から課題解決のヒントを得る場面 ○参考資料がどこにあるか例を示す。資料の集め方を指導する。 ○参考作品の工夫されている点を、「達成すべき条件」の視点で確認する。
	<b>【整理・分析】 におけるポイント</b>	●自分が用いる技法や用具、材料の性質について理解する場面 ●安全に作業を進めるための知識を整理する場面 ○教科書や資料集から、大事なところを読み取り、学習プリントを整理させる。
	<b>【まとめ・創造・表現】 におけるポイント</b>	●自分の作品の説明文を書く場面 ●制作において、生徒が「できた」と思った段階から、更に見直しをさせ、自分の思いや意図が表現されているか確認する場面 ○自分の表現に対して、選択した技法や配色の意図を説明させる。 ○イメージマップ等を活用し複数のアイデアを出させる。 ○アイデアを発展させるための助言やグループワークを行う。 ○説明文と作品を照らし合わせ、付け加えることがないか吟味させる。
	<b>【実行】 におけるポイント</b>	●最後まであきらめずに取り組む場面 ○一斉指導の中に、班ごとの指導、個別の指導を実施する。 ○努力した所や、工夫した表現をした時に、積極的に評価する。
	<b>【振り返り】 におけるポイント</b>	●めあてに対して自分の達成度を確認する場面 ●自分や仲間の作品や取組の価値づけを行う場面 ○振り返りカードを記入させる。
各教科における設定した資質・能力を育成するための手立て		
資質・能力	特に身に付けさせたい力	教科で育成するための手立て
知識・技能	①学習したことを自ら語る力 （知の構造化）	・毎時間めあての確認と、ワークシートへの記入を行い授業の終わりには達成度、振り返りを記入し提出するよう指示する。
思考力・判断力・表現力	①根拠をもとに、正しい判断をする力 （論理的思考力）	・様々なアイデアや表現方法の中から一番相応しいものを選択できるような参考作品の掲示や声かけを行う。
	②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力（批判的思考力）	・鑑賞では作者の心情を、主題、色、形、筆致、表現から感じ取り班やグループでの話し合いを通して意見の交流を行う。
	③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力（言語力）	・作品制作の途中や完成後に自分の思いや心情、感想を書かせ作品と共に発表させる場面を設定する。
主体的に学ぶ力	①自ら課題を見だし、解決しようとする力	・自分の作りたいものや表現したいもののイメージを描き出すワークシートを活用する。 ・完成をイメージし主体的に制作できるような道具の準備や制作手順を掲示する。
他者とかわる力	①他者と協力（協働）し、課題を解決しようとする力	・発表する、人の発表を聞く場面を設ける。 ・班やグループで話し合う場面を設定する。→役割を持たせる。 ・作品や発表に対して相互評価する場面を設定する。
	②他者とのかわりを通して、自らの考えを深めたり広げたりしようとする力	・個人で考えたものを班や全体で意見交流できるワークシート制作や鑑賞の時間を設ける。
社会貢献力	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	・「大好き！福山～ふるさと学習～」を活用して、地域の文化や郷土品について考える。 ・地域の公募展への出品を行う。
自己形成力	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	・自分の思いや作品進捗などを書く振り返りワークシートや、作品完成後の感想カードなどを利用する。
	②自信を持つ力	・アイデアや作品への肯定的な声かけを行う。 ・完成した作品を学校内に掲示する。 ・公募展に出品し、対外的な評価や鑑賞をしてもらう。



保健体育科 教科構想シート

保健体育科における主体的な学びとなる子どもの姿（1学年⇒3学年）

①授業スタイルが確立されている生徒（規律が徹底された生徒）	①規律を徹底し、自分たちで声かけができる生徒
②他者と関わり合いながら協力できる生徒	②ペアやグループの教え合い学習を通して課題を見つけ、解決に向けた教え合いが主体的にできる生徒
③上手にできるコツを見つけられる生徒	③上手にできるコツを見つけ、自分の言葉で表現できる生徒
④専門的な用語の意味が理解できている生徒	④専門的な用語を理解し、教え合いの中で用いることができる生徒

教科における主体的な学びのための教師の捉える場面（●）とその手立て（○）

課題発見・解決学習	【課題の設定】 におけるポイント	●各単元の導入、毎時間の導入の場面 ●技能をどのように身に付けるか、ポイントを考える場面 ○付けたい力を明確にしたためあて、個の段階に応じた目標値を設定する。 ○課題に対して具体的に考えているところを評価する。
	【情報の収集】 におけるポイント	●達成率30%未満の生徒への手立てが必要な場面 ●視覚的に技能を捉えさせる場面 ○教え合いの時間を毎時間設定し、上手にできるコツを見つける。 ○映像・見本など視覚的教材から学ぶ。
	【整理・分析】 におけるポイント	●どのようにすれば上手にできるか、分析する場面 ●学習した用語を使って、やり方や上手にできる方法を説明する場面 ○互いの技能を見てアドバイスができるよう専門的な用語の定着を図る。 ○学習カードを用いて、場面に分けて評価する。
	【まとめ・創造・表現】 におけるポイント	●整理・分析した情報をもとに、アドバイスをする場面 ●授業の振り返りをする場面 ○ペア学習やグループ学習を通して、互いにアドバイスをしやすい場を設定する。 ○本時のためあてに対する良かった所、次に向けての課題を発表し全員で共有する。
	【実行】 におけるポイント	●単元の終末で設定した課題に取り組む場面 ○学習したことを用いて自分の発揮できる最大の力を出せる場の設定を行う。 支援が必要な生徒には段階を追った場の設定を行う。
	【振り返り】 におけるポイント	●単元の終末時、課題に対して振り返る場面 ●仲間の意見を聞いて自分を振り返る場面 ○単元全体を振り返り、達成したことや良かったことを共有し次の単元につなげる。 ○学習カード等に文章でまとめさせる。

各教科における設定した資質・能力を育成するための手立て

資質・能力	特に身に付けさせたい力	教科で育成するための手立て
知識・技能	①学習したことを自ら語れる力 (知の構造化)	・毎時間めあてに対して、良かったことと課題に分けて発表させる。 ・学習カードにふり返りを記入させる。
思考力・判断力・表現力	①根拠をもとに、正しい判断をする力 (論理的思考力)	・プロや全国レベルの技能を映像で見せ、上手に行うためのコツを見つけさせる。
	②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力 (批判的思考力)	・ペアやグループで意見交流をさせ、相手の意見を認め、違う視点から新たな課題を見つけさせる。 ・映像や上手な人と比べ、何が違うかを考え発表させる。
	③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力 (言語力)	・くり返し練習できる時間を設定する。 ・観るポイント（運動の局面）を設定し、具体的に説明させる。
主体的に学ぶ力	①自ら課題を見だし、解決しようとする力	・自分で課題を発見し、解決方法を既習事項を用いて見つけ、互いにアドバイスをしながら実行させる。
他者とかわる力	①他者と協力（協働）し、課題を解決しようとする力	・ペア学習やグループ学習を毎時間取り入れ、他者と協力しながら課題を解決していく場の設定をする。
	②他者とのかわりを通して、自らの考えを深めたり広げたりしようとする力	・自分の考えを相手に伝え、仲間の意見を取り入れながら本時の振り返りとして発表させる。
社会貢献力	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	・地域の現状と課題を知り、自分ができることを考え発表させる。
自己形成力	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	・声かけシステムを工夫し、「失敗しても大丈夫」と自信を持って取り組むことができる雰囲気づくりを行う。
	②自信を持つ力	・スモールステップで段階を追った指導を行う。 ・個のレベルに応じた課題を設定し、クリアしていくことで達成感を味わわせる。

技術・家庭科 教科構想シート

技術・家庭科における主体的な学びとなる子どもの姿（1学年⇒3学年）

色々な事に興味を持ち自ら学ぼうとする生徒

社会で生きていくために必要な力（技能）が身に付いた生徒

教科における主体的な学びのための教師の捉える場面（●）とその手立て（○）

課題発見・解決学習	【課題の設定】 におけるポイント	●作品制作時における目標につながる課題を見出す場面
		○制作の中に課題を見つけ、課題を解決するための制作物を考えさせる。
	【情報の収集】 におけるポイント	●作品制作のために必要な情報を収集する場面
		○過去の制作物や最新の製品などから制作を行うためのアイデアを収集させる。
	【整理・分析】 におけるポイント	●収集した情報はどの場面で必要かどのように使うか整理する場面
		○ワークシートを活用し、「経済的側面」、「環境的側面」など整理して分析させる。
	【まとめ・創造・表現】 におけるポイント	●知識や技能を使って作品を制作する場面
		○学んだ知識を、制作を通して実践させる。
	【実行】 におけるポイント	●知識や技能を使って作品を制作する場面
		○作業の中で発生した問題に対して、すぐに答えを教えるのではなく、まず生徒に考えさせ、実行させることで、自ら課題を解決する力を身に付けさせる。
	【振り返り】 におけるポイント	●作品制作時に習得した技能や新たに出た課題を振り返る場面
		○制作を振り返り、生活の中での活用について考えさせる。

各教科における設定した資質・能力を育成するための手立て

資質・能力	特に身に付けさせたい力	教科で育成するための手立て
知識・技能	①学習したことを自ら語れる力 (知の構造化)	・毎回の授業で、授業ノートやワークシート、振り返りシートを活用してまとめさせる。
思考力・判断力・表現力	①根拠をもとに、正しい判断をする力 (論理的思考力)	・学習した知識を活用して、正しく判断し、材料や、生活必需品を選択させる。
	②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力(批判的思考力)	・設計や購入の場面で、ペア学習やグループ学習を行い、交流させる。
	③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力 (言語力)	・発表の場面では、作品を活用して根拠や理由をつけて説明させる。
主体的に学ぶ力	①自ら課題を見だし、解決しようとする力	・実習を通して、失敗から学び、自らの力で解決するための方法を工夫する。
他者とかわる力	①他者と協力(協働)し、課題を解決しようとする力	・グループで協力して作業を行い、授業のめあてを達成させる。
	②他者とのかわりを通して、自らの考えを深めたり広げたりしようとする力	・他者の振り返りや実践を参考にして、自らの作業に生かすことができるようにさせる。
社会貢献力	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	・技術の発展や家庭生活と環境の関わりについて考え、工夫して生活できるようにさせる。 ・「大好き！福山～ふるさと学習～」を活用して、地元の産業や、食文化について考えさせる。
自己形成力	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	・他者との交流の中で互いに認め合い、新たな目標を持ち高め合うことができるようにさせる。
	②自信を持つ力	・作品を完成させる。また、作業の過程も含めて相互評価をさせる。

# 英語科 教科構想シート

## 英語科における主体的な学びとなる子どもの姿（1学年⇒3学年）

<p>①コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする生徒</p> <p>②外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現しようとする生徒</p> <p>③外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解しようとする生徒</p> <p>④外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解しようとする生徒</p>	<p>①コミュニケーションに関心をもち、自ら考え積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする生徒</p> <p>②あらゆる場面設定で外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現しようとする生徒</p> <p>③あらゆる場面設定で外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解しようとする生徒</p> <p>④外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを積極的に理解しようとする生徒</p>
--	--

## 教科における主体的な学びのための教師の捉える場面（●）とその手立て（○）

課題発見・解決学習	【課題の設定】 におけるポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本と外国の言語や文化、生活環境の違いについて、気づかせる場面</li> <li>●ネイティブと実際にコミュニケーションをとることを想定させる場面</li> <li>●あるテーマについて自分の意見を書かせる場面</li> </ul> <p>○自分自身の生活に置き換えたり、身の回りのこととしてとらえたりさせるようにする。</p> <p>○相手を実際に設定し、目的意識をもたせる。</p> <p>○文法のミスにこだわらず、一定量を書かせる。△△字以上書けたことを評価する。</p>
	【情報の収集】 におけるポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分自身や周りのことについて英語で表現するために、必要な文法事項を提示する場面</li> <li>●表現したいことについて、日本語でメモを書かせる場面</li> <li>●英文で書かれた記事や文章を読んで、必要な情報を収集する場面</li> </ul> <p>○主語・動詞に線を引かせたり、「いつ」「どこで」「何を」したのかを明確にする。</p> <p>○ブレンストレーミングやマッピングで考えを膨らませる。</p> <p>○辞書を活用させる。</p>
	【整理・分析】 におけるポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習した文法事項を使って、自分自身や周りのことについて英語で表現したり、意見を述べたりする場面</li> <li>●英文を読んで、パラグラフごとの要約をさせる場面</li> </ul> <p>○英語と日本語の語順の違いを意識させる。</p> <p>○既習事項とのつながりを考えさせる。</p>
	【まとめ・創造・表現】 におけるポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>●整理・分析した情報をもとに、自分自身のことなどについて英語で表現する場面</li> <li>●段落ごとの要約をもとに、英文全体の要約を英語で書く場面</li> </ul> <p>○集団思考やペアチェックを交え、読みやすさなどの観点から、表現した内容や構成について再考する場面を与える。</p> <p>○パラグラフごとのキーワードを見付けさせる。</p>
	【実行】 におけるポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>●既習事項を用いた英文を、日常生活や英語話者相手に実際に使う場面</li> <li>●その場に応じた表現ができる場面</li> </ul> <p>○その場にふさわしい表現ができるようにさせる。</p>
	【振り返り】 におけるポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自己表現ができたか振り返る場面</li> <li>●相手の意見を聞いて自分を振り返る場面</li> </ul> <p>○文章でまとめさせる。</p> <p>○自分の意見を発表する場を設定する。</p>

## 各教科における設定した資質・能力を育成するための手立て

資質・能力	特に身に付けさせたい力	教科で育成するための手立て
知識・技能	①学習したことを自ら語れる力 (知の構造化)	・自分の作った自己表現のポスターを提示して、「自分はこの考えに賛成／反対だ。その理由は①～、②～、③～だからである。」と理由をつけて述べさせる。
思考力・ 判断力・ 表現力	①根拠をもとに、正しい判断をする力 (論理的思考力)	・「○○である、なぜなら・・・だから」と根拠をつけて述べさせる。
	②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力 (批判的思考力)	・ペア活動のペアのQ&A内で、相手の意見を相づちを入れつつ聞いたり、自分の意見を述べたりさせる。(英問英答・グループタスク活動など)
	③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力 (言語力)	・効果的なプレゼン方法を指導し、実際にプレゼンテーションをさせる。(結論先行型、ナンバリング、ジェスチャー、視覚機器など) (英問英答・自己紹介など)
主体的に 学ぶ力	①自ら課題を見だし、解決しようとする力	・自分で課題を見つけ、その解決方法を既習事項を使って見つけ出し、実行させる取組をする。
他者と かかわる力	①他者と協力(協働)し、課題を解決しようとする力	・グループタスク活動を取り入れ、他者と協力しながら活動を進めるような取組をする。
	②他者とのかわりを通して、自らの考えを深めたり広げたりしようとする力	・グループワークで、まず自分の意見を準備し、他者と意見をシェアしながらグループとしての意見をまとめる。
社会貢献力	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	・地域の観光地や良さを既習の英語で表現させる。
自己形成力	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	・自分のお気に入りの場所をまとめた英文で書かせる。
	②自信を持つ力	・総合的な学習とリンクさせ、地域の問題や私たちにできることを英語で表現させる。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・難易度を変えるなど問題の出題方法を工夫する。</li> <li>・評価基準を明確にし、A基準を目指して努力するよう声かけをする。</li> <li>・スモールステップで指導していく。</li> <li>・自分の意見や考えを発表する場面を多く設定し、場に慣れさせる。</li> <li>・少し難しい課題に取り組ませ、練習を繰り返させ、達成感を与える。(グループ活動・プレゼンテーション)</li> </ul>

# 国語科 単元構想シート

作成者：廣瀬 浩嗣

- 1 学 年    第2学年
- 2 単元名    論理を捉えて
- 3 単元の目標

- (1) 自分の意見を文章で伝える際の根拠の示し方や、説得力を高めるための工夫について、積極的に考えることができる。
- (2) 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で情報を集め、伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫できる。
- (3) 自分の意見と根拠を明確にして意見文を書き、書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、推敲できる。
- (4) 相手の意見や考えを尊重し、互いの発言を比較・検討しながら自分の考えを広げることができる。

## 4 本校が育成を目指す資質・能力とその手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知-①	自分の意見とその根拠を明確にして、話させる。
思-①	自分の意見とその根拠が、相手に納得してもらえるかを考えさせる。
思-②	個人思考で考えをまとめ、集団思考において考えを広げ、再度個人思考により考えを深める場を設定する。
思-③	根拠を明確にした自分の意見を、交流・評価する場を設定する。
主-①	自分ほどの立場に立つのか、また、その根拠を多様な情報の中から探らせる。
他-①	他者と協力して、自分の意見を、説得力のあるものにしようとさせる。
他-②	根拠を明確にした自分の意見を、交流・評価する場を設定することで、自らの考えを広げさせる。

## 5 単元の計画（全7時間）

学習過程	時	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">○本時のめあて</div> ●学習内容	評 価				
			関	書	言	評価規準 (評価方法) 【資質・能力】	※評価規準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。
課題情報の設定	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">○意見文の説得力を考えようとするができる。</div> ●説得力のある文章を書くための、根拠の示し方や意見との結びつけ方などを、グループごとに話し合い、理解する。	○			A・Bどちらの文章の説得力があるのかを、 <b>根拠づけて考えよう</b> とできる。 (ノート・ワークシート・観察) 【思-①, 知-①】	
まとめ整理・創造・分析表現	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">○意見文の説得力を考えながら、書くことができる。</div> ●「選挙権の年齢引き下げ」というテーマで、自分の立場を決め、根拠となる事実について、自分の考え方や見方を明確にし、説得力を高めるための文章構成を工夫する。		◎		自分の立場を明確にし、 <b>根拠となる事実について、自分の見方や考え方を示す</b> ことができる。 (ノート・ワークシート・観察) 【思-①, 主-①】	

情報の設定	3	<p>【パフォーマンス課題】</p> <p>○自ら設定した課題について、意見や根拠を明確にしなが、主体的に取り組むことができる。</p> <p>●「環境問題」の中から自らの課題を決め、多様な方法で情報を集める。</p>	○		<p>「環境問題」について、自らの課題を設定できる。</p> <p>(ノート・ワークシート・観察)</p> <p>【主-①】</p>
まとめ・整理・創造・分析・表現	4 5 6	<p>○「環境問題」の課題例の中から自らの課題を決め、多様な方法で情報を集め、伝えたい事実や事柄を明確にし、文章の構成を工夫し、自分の意見文を書くことができる。</p> <p>●多様な方法で情報を集める。</p> <p>●自分の意見と根拠を明確にして意見文を書く。</p> <p>●反論を想定し、それに対する意見を考える。</p> <p>●文章の構成を工夫する。</p> <p>●書いた文章を推敲する。</p>	◎	○	<p>課題を決め、多様な方法で情報を集め、伝えたい事実や事柄を明確にし、文章の構成を工夫し、意見文を書くことができる。</p> <p>(ノート・ワークシート・観察)</p> <p>【思-①②, 主-①, 他-①】</p>
振り返り	7	<p>○意見を交流し、意見の明確さ、根拠の適切さ、意見の深まりについて話し合い、自らの考えを広げることができる。</p> <p>●意見を読み合い、助言し合う。</p> <p>●相互評価をし、交流する。</p> <p>●学習を振り返る。</p>	◎		<p>自らの考えを広げることができる。(ノート・ワークシート・観察)</p> <p>【思-③, 他-②】</p>

## 6 単元開発のポイント・学習を終えた生徒の姿

### ○単元開発のポイント

この単元は、「根拠を明確にした説得力のある表現を学ぶ」という内容である。

根拠を明確にした説得力のある意見が書けることを目指して、

- ① 2つの意見文を比較読みさせる。
- ② 説得力のある意見文の条件を自分達で考える。
- ③ 条件を満たした説得力のある意見文を書く。
- ④ 意見文を読み合い、助言し合う。
- ⑤ 他者の意見に学び、自分の考えを広げる。

上記5点をポイントにして、教材をデザインしました。

### ○学習を終えた生徒の姿

- ① 自分の主張を支える根拠となる情報を取捨選択し、説得力のある意見を表現できる生徒。
- ② 他者の意見に学び、自分の考えを広げ深めることができる生徒。



# 社会科 単元構想シート

作成者：貝野 敬益

- 1 学 年 第3学年
- 2 単元名 地方自治と私たち
- 3 単元の目標

- (1) 自分たちが住んでいる地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする意識を高める。
- (2) 国と地方公共団体の比較を通して多面的・多角的に考察させるとともに、主権者としての政治参加のあり方について考えさせる。
- (3) 地方自治について、調査や見学などを通して具体的に理解させるとともに、発表や討論などを通して考えを深めさせる。
- (4) 地方自治の考え方や仕組み、地方財政の仕組みについて理解させる。

## 4 本校が育成を目指す資質・能力とその手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知-①	地方自治の基本的な考え方や仕組みについて、自分の言葉でまとめさせる。
思-①	数値などの具体的なデータをもとに根拠を持って説明させる。
思-②	話し合いや討論などで、他の人の意見に対する質問や自分の意見を述べさせる。
思-③	ディベートやプレゼンテーションなどの言語活動を取り入れ、表現の場を設定し、発言させる。
主-①	学習内容にそった予習を与えて、予習で得た知識をもとに学習課題を解決させる。
他-①	他者と協力して、自分の意見を説得力のあるものにするためにグループ協議を行う。
他-②	根拠を明確にした自分の意見を交流・評価する場を設定することで、実際に実践しようとする力を付けさせる。
社-①	パフォーマンス課題を通して、より良い地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力を身に付けさせる。

## 5 単元の計画（全8時間）

学習過程	時	<input type="radio"/> 本時のめあて <input checked="" type="radio"/> 学習内容	評 価				評価規準 (評価方法) 【資質・能力】	※評価規準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。
			関	思	技	知		
情報の収集	1	<input type="radio"/> すべての人が幸福だと感じる地域社会を考えよう。 <input checked="" type="radio"/> 生活する上で便利なところ <input checked="" type="radio"/> 生活する上で不便なところ	◎				地方自治の基本的な考え方に興味を持ち、地域の課題を自らの課題としてとらえ、改善策について <b>追究しようとしている</b> 。(ワークシート・行動観察)【主-①】	
	2	<input type="radio"/> 地方自治の意義や役割について理解することができる。 <input checked="" type="radio"/> 地方自治とは <input checked="" type="radio"/> 国と地方自治の役割 <input checked="" type="radio"/> 地方分権				◎	国と地方公共団体の役割の違いと地方分権の意義について理解し、 <b>文章でまとめている</b> 。(ワークシート・行動観察)【知-①】	
	3	<input type="radio"/> 地方自治の仕組みについて理解することができる。 <input checked="" type="radio"/> 地方議会 <input checked="" type="radio"/> 首長 <input checked="" type="radio"/> 直接請求権				◎	地方議会の仕組みを首長と議会の関係性から理解するとともに、私たち一人一人に直接請求権が認められ、住民の声が直接、政治に反映することを理解し、 <b>文章にまとめることができる</b> 。(ワークシート・行動観察)【知-①】	
	4	<input type="radio"/> 地方財政の財源とその用途について説明することができる。 <input checked="" type="radio"/> 地方財政の仕組み <input checked="" type="radio"/> 地方公共団体の財政健全化		◎	○		自らが暮らす市町村の財政状況を調べ、何に使用されているかを整理するとともに、その財源について <b>理解し、自分の言葉で説明できる</b> 。(ワークシート・行動観察)【知-①, 思-①】	

情報の収集	5	○住民参加の方法について理解することができる。 ●住民の声を生かす ●住民運動の広がり ●地域社会と私たち	○	◎	○	住民投票の意義や方法を理解するとともに、公共の利益のために行動する人やそのような人々を支える法律が存在することを知り、 <b>理解する</b> 。(ワークシート・行動観察)【主-①, 思-①, 知-①】。
整理・分析	6	○パフォーマンス課題に取り組むことができる。 【パフォーマンス課題】 あなたは、福山市の市長に立候補します。これまでに福山市の市長選に立候補した候補者のマニフェストを比較・分析したうえで、有権者の心に響くマニフェストを作成し、発表しよう。 ●福山市の課題（福祉、財政、人口移動など）について資料をもとに整理する。 ●グループ協議から施設面だけではなく、制度や自分たちの力で改善することのできることを考える。	○	◎		具体的な事象から、課題を見出し、自らの力でその課題を解決するために意欲的に追究し、思考している。またグループ学習から <b>他者の意見をふまえ、自らの思考を深めている</b> 。(ワークシート・行動観察)【思-②, 他-①, 社-①】
振り返り	7	○パフォーマンス課題を完成することができる。 ●グループ協議のもと、一人一人が説得力のあるマニフェストを作成する。	○	◎		具体的な事象から、課題を見出し、自らの力でその課題を解決するために意欲的に追究し、思考している。またグループ学習から <b>他者の意見をふまえ、自らの思考を深めている</b> 。(ワークシート・行動観察)【思-②, 他-①】
	8	○パフォーマンス課題について、自らの意見を深めることができる。 ●パフォーマンス課題について、有権者が納得できるプレゼンテーションを行う。		◎	○	有権者が理解できるように発表を工夫するとともに、 <b>友達のプレゼンテーションに対しての意見を積極的に発言し、思考の深まりがみられる</b> 。(ワークシート・行動観察)【思-③, 他-②】

## 6 単元開発のポイント・学習を終えた生徒の姿

### ○単元開発のポイント

この単元では「自治とは何か」、「民主政治をより良く運営していくためにはどのようなことが必要か」、「主権者として政治に参加することの意義について考えさせる」ことなどをねらいとしている。地方自治の考え方を基礎的な知識として理解させようとして、自分たちが暮らす地方公共団体の施策を具体的に調べ、私たちの生活にどのような恩恵を与えてくれているかを学ばせる。また、地方自治の基本はその地域に暮らす住民一人一人が地域の課題を見つめ、解決策を考え実行するところにある。

#### 《手立てのポイント》

- ①福山市長選に立候補した候補者のマニフェストを収集・整理。
- ②既存の知識を利用し、マニフェストを比較・分析。
- ③福山市の課題やその改善策を見だし、オリジナルのマニフェストを作成
- ④マニフェストを基にした、プレゼンテーションの実施。

### ○学習を終えた生徒の姿

公民的資質を身に付け、日常生活の中で自分たちの暮らす地域について考え、市民の一員として行動できる生徒。

1 学 年 第2学年

2 単元名 1次関数

3 単元の目標

- (1) 事象の中には1次関数として捉えられるものがあることを理解することができる。
- (2) 1次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解することができる。
- (3) 2元1次方程式を、関数を表す式とみることができる。
- (4) 1次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明することができる。

4 本校が育成を目指す資質・能力とその手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知-①	本単元で学習した数学的用語や方法を説明の際に使わせるようにする。
思-①	複数の表やグラフ、式などを比べることで $y = ax + b$ の特徴を見出し、その特徴を根拠にした説明をさせる。
思-②	個人思考と集団思考により、考えを深める場面を設定する。
思-③	表・式・グラフを用いて説明する場面を設定する。
主-①	「なぜ?」「やってみよう」と必然性を感じさせるような課題設定を行う。
他-①	教え合い活動を通して他者とのかかわる場面を設定する。
他-②	周りから意見を求めたり、集団思考において他者と協力したりする場面を設定する。

5 単元の計画 (全18時間)

学習過程	時	<div style="text-align: center;">○ 本時のめあて</div> <div style="text-align: center;">● 学習内容</div>	評 価					評価規準 (評価方法) 【資質・能力】 ※評価規準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。
			関	考	技	知		
課題の設定        整理・分析	1	○ 1次関数についてのイメージをつかむことができる。 ● 1次関数の意味	○					ブラックボックスを用いているいろいろな関数に関心を持ち、その関係を <b>自ら見出し</b> そうとしている。 (ワークシート・行動観察) 【主-①】
	2	○ 1次関数の表と式について理解することができる。 ● 1次関数の表と式		○				具体的な事象の中から、1次関数の表や式を調べ、比例との共通点や相違点について、 <b>説明することができる</b> 。 (ノート・発言内容) 【思-①】
	3	○ 1次関数の変化の割合を理解することができる。 ● 1次関数の変化の割合				○		比例、反比例、1次関数について調べて比較し、 <b>その特徴を説明することができる</b> 。 (ノート・行動観察) 【知-①】
	4	○ 1次関数のグラフをかき、特徴を理解することができる。 ● 1次関数のグラフの特徴		○				表を基にグラフをかき、その特徴を整理して、 <b>説明することができる</b> 。 (ワークシート・発言内容) 【知-①】
	5	○ 切片と傾きをもとに、グラフをかくことができる。 ● 1次関数のグラフ、切片と傾き				◎		式とグラフの関連から、 <b>かき方を説明することができる</b> 。 (行動観察・発言内容) 【思-①】
	6	○ 1次関数のグラフをマスターしよう! ● 1次関数のグラフのかき方				○		1次関数のグラフをかくことができる。また、 <b>教え合いを通して</b> 、グラフのかき方を身に付けることができる。 (行動観察) 【他-①】
	7	○ 変域とそのグラフについて理解することができる。 ● 1次関数の変域とグラフ				○		変域のあるグラフのかき方を理解し、 <b>変域を読み取ることができる</b> 。 (ノート・行動観察) 【知-①】
	8	○ 1次関数の式を求めることができる。 ● 1次関数の式の求め方				◎		与えられた情報の中から、 $y = ax + b$ の式を求めたり、求め方を <b>説明したりすることができる</b> 。 (ノート・発言内容) 【知-①】



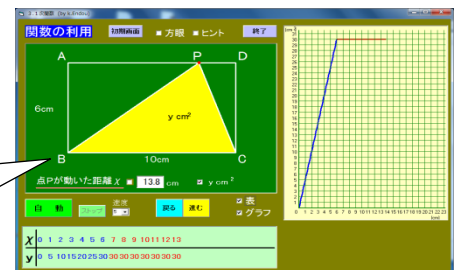
情報・分析の収集	9	○2点の座標から、1次関数の式を求めることができる。 ●1次関数の式の求め方		◎	与えられた情報の中から、 $y = ax + b$ の式を求めたり、求め方を説明したりすることができる。 (ノート・発言内容)【知-①】
	10	○2元1次方程式のグラフをかきことができる。 ●2元1次方程式と1次関数の関係		○	2元1次方程式の解の集まりを1次関数とみなすことができる、かき方を説明することができる。 (発言内容・行動観察)【思-①】
	11	○ $x = 2$ , $y = 3$ のグラフを理解することができる。 ●特別な2元1次方程式のグラフ		○	特別な2元1次方程式のグラフのかき方を考え、説明することができる。 (発言内容・行動観察)【思-①】
	12	○連立方程式の解とグラフの交点との関係を理解することができる。 ●連立方程式の解とグラフの交点との関係		◎	連立方程式と1次関数の関係を整理し、関連付けることができる。 (行動観察・ノート)【知-①】
まとめ・創造・表現	13	○1次関数を活用して、身のまわりの事象を説明することができる。 ●1次関数の利用		○	具体的な事象を、1次関数を用いて考察し、自らの考えで結論を導くことができる。(行動観察・ワークシート)【主-①, 思-①】
	14	○図形で、点が動く問題の考え方を理解することができる。 ●1次関数の図形における利用		○	時間にもともなう変化の様子について考察し、表・式・グラフを用いて説明することができる。 (行動観察・ワークシート)【思-③】
	15	○グラフを読み取って、道のりの問題を解くことができる。 ●グラフの読み取りとその利用		○	具体的な事象を、1次関数を用いて考察し、表・式・グラフを用いて説明することができる。 (行動観察・ワークシート)【思-③】
実行	16	【パフォーマンス課題①】 ○おすすめの携帯電話料金プランについて提案することができる。 ●1次関数の利用		◎	課題解決のために、他者の考えも踏まえて、よりよいプレゼンテーションをすることができる。 (行動観察・発表)【思-②, ③, 他-②】
	17	【パフォーマンス課題②】 ○おすすめの車について提案することができる。 ●1次関数の利用		◎	課題解決のために、他者の考えも踏まえて、よりよいプレゼンテーションをすることができる。 (行動観察・発表)【思-②, ③, 他-②】
振り返り	18	○学習内容を整理し、問題を解くことができる。 ●単元の学習の振り返り		○	単元を振り返り、問題演習を通して教え合い学習を行い、理解を深めることができる。 (行動観察)【他-①】

## 6 単元開発のポイント・学習を終えた生徒の姿

### ○単元開発のポイント

- ① 1次関数の表、式、グラフを関連付けて理解させることと
- ② 1次関数を利用して問題解決に生かすことを意識して単元をデザインしました。

視覚支援としてICTを活用し、点が動く問題では、図と表とグラフが連動して理解できるように工夫をしています。



《振り返りノート》

No.	頁/日	学習の振り返り	反省・感想・課題
1	9/21	有域のあるグラフのかき方がわかる。	A A A c
2	9/26	1次関数の式を求めることができる。	A A A c

授業では、毎時間振り返りを書かせることで、めあてと対応した自己評価と反省を記録しています。単元の流れも振り返ることができ、前時との関連も図ることができます。

### ○学習を終えた生徒の姿

これらの学習を通して、グラフの交点の意味やグラフ同士を比較することができるスキルを身に付け、事象の変化の様子や2つ以上の事象を比較し、表や式、グラフを使って説明することができる生徒。

# 理科 単元構想シート

作成者：井上 大輔

- 1 学 年 第2学年
- 2 単元名 天気の変化と大気の動き
- 3 単元の目標

- (1) 自分達の生活している場所の気温や湿度などが何によって決定されているかを主体的に考え、興味を持って調べようとする姿勢・態度を身に付ける。
- (2) 観測方法や記録の仕方を身に付ける。
- (3) 記録データから、天気と気象要素との関係性を見出し、より快適に過ごすための手立てや改善策を自分のこととして考えることができる。
- (4) 科学的な用語を使って、自分の考えを发表或記述できる力を身に付ける。

## 4 本校が育成を目指す資質・能力とその手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知-①	「科学的な用語」を使って、観測の結果をプレゼンテーションさせる場面を設定する。
思-①	場所による気象要素の比較や、観測結果と建物の位置や材質の熱吸収量などを関連付けながら、根拠をもって説明させる。
思-②	個人思考で考えをまとめ、集団思考において考えを広げ、再度個人思考により考えを深める場を設定する。
思-③	4人班と、全体の中でデータやグラフを活用し、根拠を持ってプレゼンテーションをする場を設定する。
主-①	自分達が生活している場所の気象状況を調べ、建物内の環境や、より快適に過ごすための改善策を考えることで、自らの必然性を強く感じさせる課題設定をする。
他-①	気象観測を4人班で行い、データを収集する上で、他者と協力して自分の責任を果たすように役割分担を行う。
社-①	社会の中で、生活する場所や建物の中の環境をどう改善し、快適にしていくかを考えていくことの重要性に気付かせる。

## 5 単元の計画（全6時間）

学習過程	時	<input type="radio"/> 本時のめあて <input checked="" type="radio"/> 学習内容	評 価				
			関	考	技	知	
課題の設定	1	<input type="radio"/> 自分達が生活している場所の気象状況を調べ、気温・湿度が何に左右されているか明らかにしよう！ ●研究目的・概要の説明（ガイダンス） ●実験測器の操作方法（練習）・観測位置・記録用紙・記録の仕方などの説明	◎				身近な場所の気象状況を、普段の生活から考え、城北中学校の環境についての <b>問題点や課題を、自ら見出し</b> ようとしている。 （ワークシート・行動観察）【主-①】
情報の収集	2	<input type="radio"/> 気象観測を行い、データを収集しよう！ ●城北中学校のきめられた観測場所で、気温・湿度・風向・風速・路面（壁面）温度を観測			◎		気象観測の方法を正しく理解し、 <b>役割を決めて観測を行うことができる。</b> （ワークシート・行動観察）【他-①】
整理・分析	3	<input type="radio"/> データを分析・整理し、考察する準備をしよう！ ●データの共有 ●4人班で分析・まとめ ●温度分布図作成、風の流れ、サーモグラフィ、材質の熱吸収量の表などを活用				◎	気象観測データを、 <b>数量的・時系列的に表やグラフにまとめ、観測地点ごとに比較することができる。</b> （発言内容・行動観察）【知-①、思-③】

まとめ・創造・表現	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分析した結果を使って、さまざまな資料やデータから、北校舎がなぜ暑く感じるのかを考え、原因を究明し科学的に説明しよう！</li> <li>●3Dプリンタで作成した校舎の模型を活用</li> <li>●温度分布図や、風の流れを示した図、サーモグラフィの写真や動画、材質の熱吸収量の表を活用</li> <li>●プレゼンテーションを行い、根拠を持って説明</li> </ul>	◎	◎	<p>既習事項と観測データを地点ごとや、気象要素ごとに整理し、関連付けることができる。</p> <p>(発言内容・ワークシート) 【思-①, 思-②】</p>
実行	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境工学の観点から、自分達の出来る範囲で建物内の状況をどう改善すれば、より快適に過ごせるかの手立てを考えよう！</li> <li>●4人班で協議</li> <li>●改善策の提案</li> </ul>	○	◎	<p>自ら改善策を見つけ出し、自分のこととして考え、社会のために貢献しようとしている態度が見られる。</p> <p>(発言内容・ワークシート) 【思-②, 社-①】</p>
振り返り	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の過程を振り返ろう！</li> <li>●コンセプトマップを作成</li> <li>●学んだことをまとめ、改善策を自分の言葉や図を使って説明</li> </ul>			◎ <p>単元で学習した内容を、自分の言葉や考えで表現し、まとめることができる。</p> <p>(発言内容・ワークシート)【思-③】</p>

## 6 単元開発のポイント・学習を終えた生徒の姿

### ○単元開発のポイント

- ①自分達が生活している場所において、気象学的な観点から考えられる課題や、問題点に着目させることで、科学というものをより身近に感じ取らせるための題材選びをした。
- ②データを収集する方法を習得させ、自ら気象観測を行い、データを関連付けながら、科学的に説明できるワークシートを作成した。
- ③より快適に生活していくための手立てや改善策を根拠をもって提案させる場を設けた。

### 《手立てのポイント》

- ①3Dプリンタで立体的に物を見させ、鉛直方向の温度分布を考えさせる。
- ②学習した事を見直したり、きちんとまとめたりしていく力を付けさせるために、ワークシートを冊子にして作成する。
- ③プレゼンテーションソフトを活用して生徒に興味関心を持たせるようなプレゼンテーションを行う。

### ○学習を終えた生徒の姿

既習事項とあらゆるデータを関連付け、さまざまな視点から物事を科学的に分析し、考察できる力が身に付いた生徒。

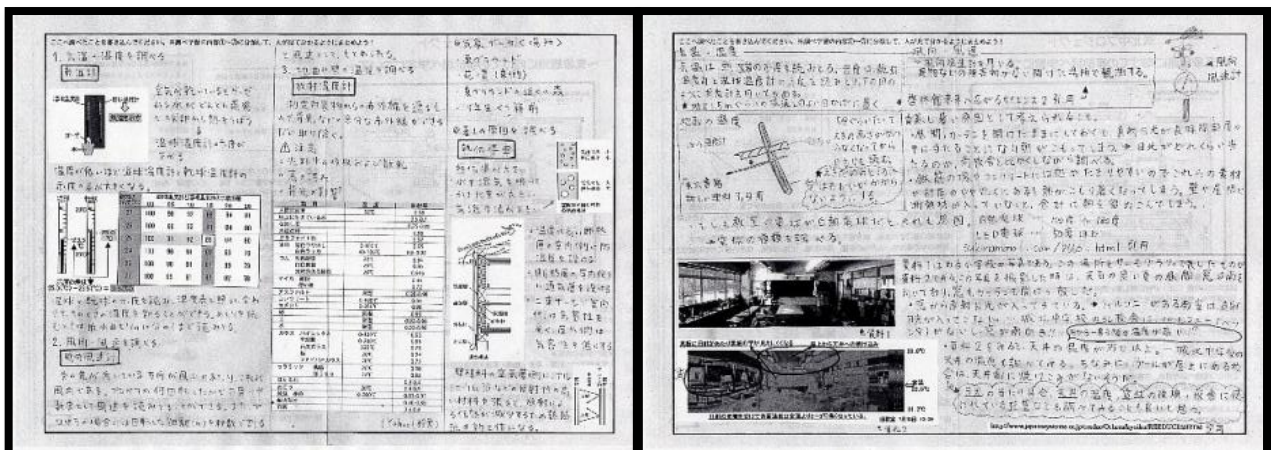


図 事前学習の成果物 (気象観測の仕方や、考察の手立てになるもの)

# 音楽科 単元構想シート

作成者：中井 雅子

- 1 学 年 第1学年
- 2 題材名 詩と音楽とのかかわりを感じ取ろう
- 3 題材の目標

- (1) 『魔王』の音楽を形づくっている「音色」「旋律」「強弱」や、構造と曲想とのかかわりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組むことができる。
- (2) 知覚・感受しながら『魔王』の音楽を形づくっている「音色」「旋律」「強弱」の要素や構造とのかかわりを感じ取って聴き、主体的に解釈したりして、よさや美しさを味わうことができる。

## 4 本校が育成を目指す資質・能力とその手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
思一①	音楽の諸要素なども含めて、根拠をもとに考えさせる。
思一③	「紹介文」を書く場を設定する。
他一①	他者と協力して課題を解決する場を設定する。
他一②	意見交流の場を設定する。

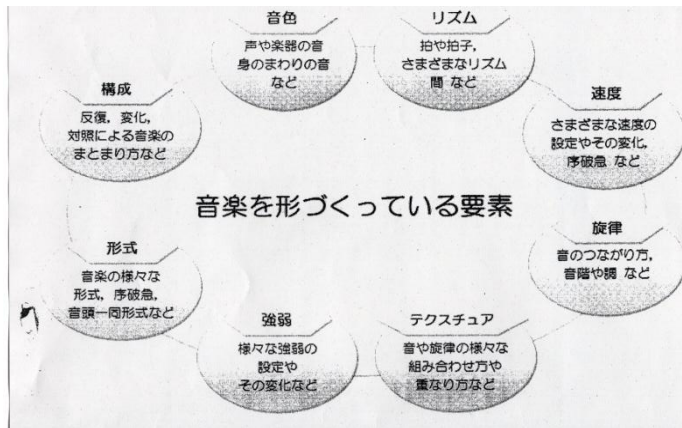
## 5 題材の計画（全3時間）

学習過程	時	<input type="radio"/> 本時のめあて <input checked="" type="radio"/> 学習内容	評 価		評価規準 (評価方法) 【資質・能力】 ※評価規準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。
			関	鑑	
課題の設定	1	<input type="radio"/> 情景を想像しながら聴くことができる。 <input checked="" type="radio"/> 『魔王』を鑑賞する。	○		音楽を形づくっている「音色」「旋律」「強弱」を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受している。 (行動観察・ワークシート) 【思一①】
情報の収集	2	<input type="radio"/> 作曲者の工夫点を見つけ出すことができる。 <input checked="" type="radio"/> 『魔王』を鑑賞する。 <input checked="" type="radio"/> ワークシートに記入する。 <input checked="" type="radio"/> 意見交流する。	○		意見交流を通して、音楽を形づくっている「音色」「旋律」「強弱」や、構造と曲想のかかわりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。(行動観察・ワークシート) 【他一①・他一②】
整理・分析					
創造・表現	3	<input type="radio"/> 学習したことを活用して、パフォーマンス課題ができる。 <input checked="" type="radio"/> パフォーマンス課題に取り組む。 <input checked="" type="radio"/> 題材を振り返り、まとめを書く。	◎		『魔王』の音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って、解釈したり価値を考えたこと説明できる。 (パフォーマンステスト・振り返り) 【思一③】
振り返り					

## 6 題材開発のポイント・学習を終えた生徒の姿

### ○題材開発のポイント

①鑑賞活動で、“音楽を形づくっている要素を手がかりとして聴き取らせる”ことで、曲を聴いて、ただ感想を書くのではなく、鑑賞曲の魅力を自分の言葉で伝える力を付ける。



②「紹介文」を書く力をつける。

音楽の良さや価値を伝える相手を、来年度の入学生と設定する。また、どのように書いたら音楽のよさや価値が伝わるかを工夫させる。

(わかりやすい言葉・音楽を形づくっている要素)

**感じシート《保存版》**

( ) R ( ) 番 名前 ( )

感じ	気分	感じ	気分	感じ
元気な	おもしろい	おもしろい	おそろしい	悲しい
力強い		忙しそう		さびしい
激しい		おどけた		暗い
迫力のある				弱々しい
弾むような	落ち着いた	美しい	おそろしい	おそろしい
走るような		ゆったりとした		あやしい
飛ぶ(跳ぶ)ような		なめらかな		不気味な
		どっしりとした		激しい
楽しい	やさしい	おだやかな	あたたかい	あたたかい
明るい				つめたい
さわやかな		うっとりとした		ふわふわした
幸せな		夢見るような		
歌うような	やさしい			

表だけでなく、オリジナルの言葉をつくってOK

### ○学習を終えた生徒の姿

自分なりに、曲がもつよさや曲としての価値、また、演奏する時の難しさを感じ取って、紹介する対象にわかりやすく伝えることができる生徒。



1 学 年 第3学年

2 題材名 自画像，今を生きるあなたへ ～点描の自画像 鑑賞から表現～

3 題材の目標

- (1) 点描法の点の粗密による陰影の表し方に関心を持ち，自画像の陰影表現に活用している。
- (2) 自画像作品から，作品解説文と20年後の自分をイメージして，未来の私に向けての手紙を書くことができる。
- (3) 自己を深く見つめ，夢や目標，想像や感情など心の世界を基にした点描表現の工夫から主題を生み出している。
- (4) 自分の顔の骨格や人体構造をよく観察し，マーキングペンや色鉛筆の特性を生かし，表現意図に合う陰影の表し方を工夫して，創造的に描いている。
- (5) 点描作品のよさや美しさ，作者の心情や意図を感じ取り，自分の見方を深め，根拠を持って説明している。

4 本校が育成を目指す資質・能力とその手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知-①	本題材で学習した造形要素の意味や使い方を解説文を書いて説明させる。
思-①	表現の工夫を技法や用具，材料の性質の表現効果を比べて説明し合う。
思-②	ウェビングマップ等を活用し複数のアイデアを出させる。
思-③	話し合う内容の視点を決めて，説明させる。
主-①	「つくりたい」「身近な」「なぜ？」と自ら必然性を考える強い課題設定を行う。
自-①	自分が制作した作品や学んだことに対して，自分の思いや意図を話し合わせる。
自-②	努力した所や工夫した表現をした時に，積極的に評価する。 丁寧に作品を完成させる。

5 題材の計画（全12時間）

学習過程	時	<input type="radio"/> 本時のめあて <input checked="" type="radio"/> 学習内容	評 価				
			関	発	創	鑑	
課題の設定   整理・分析	1	○様々な自画像を鑑賞し，作者の心情や意図と表現の工夫について話し合い，自画像制作に向けて今の自分の心情を言葉で書き出すことができる。 ●教科書や教師が準備した自画像作品を鑑賞し，作品に込められている作者の心情が多様な方法で表現されていることを知る。 ●自分の心情を言葉で書き出す。				◎	評価規準 (評価方法) 【資質・能力】 ※評価規準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。 表情，動作，色づかい，筆づかい，描画材料などが多様な作品から，作者の心情を感じ取っている。自分を見つめるためのウェビングマップを使って，心に浮かぶ言葉を書いているいろいろな見方・考え方を持とうとしている。 (ワークシート)【思-②】
	2	○自分の顔の骨格を意識して，鏡を見て観察し，どういった位置で顔が写るのか，どういったポーズがよいのか検討できる。 ●胸像になる鏡の位置やポーズについて考える。 ●光の方向に注意させ，骨格を意識させて，立体感を感じ取る。 ●教師に胸像になるようにデジタルカメラで撮影してもらう。			○	自画像制作の材料や用具，表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって表現できるように <b>根拠をもとに，正しい判断をしようとしている。</b> (ワークシート)【思-①】	
	3	○作家作品の鑑賞活動から作者の表現の工夫と表現意図を根拠をもとに説明することができる。 ●ジョルジュ・ピエール・スーラの『グランドジャッド島の日曜日の午後』を視点を決めて鑑賞し，自分の考えや感じたことや作者の意図や表現の工夫を見つけ，根拠を示しながら，説明し合う。 ●スーラは光の作用による色彩現象を並置混色による点の筆触分割で表現していることを知識として学び，陰影で表す自画像制作にも活用できることを理解する。				◎	点描作品から， <b>作者の心情や意図，創造的な表現の工夫などを感じ取り理解し，根拠を持って説明し合う中で，見方を深めて，自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝えようとしている。</b> (ワークシート)【思-③】
	4	○デジタルカメラの写真を使用して観察し，固定された陰影の形や自分の顔の外形を補助線やトレーシングペーパーを使って写し取ることができる。 ●正中線を引かせ，人体の動きを意識する。 ●顔の外形を描き，三段階の明度分割をする。			○	自画像制作の材料や用具，表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら， <b>見通しをもって表現できるようにしている</b> (行動観察)(作品)【主-①】	

整理・分析	5	<p>○骨格を意識し、大まかな立体感をつかみ、光の方向による明暗を観察し、目や鼻、口などの細部の面のつながりを意識して、明度分割して描くことができる。</p> <p>●顔全体の中で目や鼻、口の位置が適切であるか、鉛筆やペンを使って測っていく。</p> <p>●鉛筆で同じ明るさの部分にくくるように描き、6段階の明るさまで明度分割を行う。同じ明るさの所に番号をふるなどの明度の違いが分かる工夫をする。</p>				○	自分の顔の骨格や人体構造をよく観察し、自分の表現意図に合う <b>新たな表現方法を工夫するなど自ら課題を見出し、解決しようとしている。</b> (行動観察) (作品) 【主-①】
	6	<p>○マーキングペンや色鉛筆を使って、陰影を点の粗密で表現することができる。</p> <p>●点描法の陰影の表し方を作品から知る。</p> <p>●マーキングペンや色鉛筆などの描画材を使って点描法の練習を行い、表現効果について知る。</p> <p>●6段階に明度分割した自画像を、どんな描画材を使って、どのように点描するのかを考え、自画像制作の構想を練る。</p>				○	点の粗密による陰影の表し方の単純化や省略、強調、構成の仕方、描画材料の組み合わせなどを工夫して心豊かな表現の構想を練ろうと <b>学習したことを自ら活用しようとしている。</b> (ワークシート) 【知-①】
まとめ・創造・表現	7 8 9	<p>○点の粗密による陰影の表し方を工夫して、立体感のある自画像を描くことができる。</p> <p>●目の表現は、頭蓋骨のへこみに球体である眼球が入っている構造をとらえる。まぶたから指先で触ってみて、立体感を意識させ、白目にまぶたの影が落ちていたり、黒目に反射で光っている部分があるなど。</p> <p>●顔の鼻とあご、頬などの骨の硬い部分と口の筋肉など柔らかい部分を描き分けるようにする。</p> <p>●常に部分と全体を見ながら、進めていき必要な部分を強調したり、省略しながら描き進めていき、自分らしさが出ている表現を追究していく。</p> <p>●骨格標本や人体解剖図を利用する。</p>				◎	自分の顔の骨格や人体構造をよく観察し、マーキングペンや色鉛筆などの描画材料の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表して、 <b>根拠をもとに、正しい判断をしようとしている。</b> (行動観察) (作品) 【思-①】
	10	<p>○自分らしさを表現する背景の工夫をすることができる。</p> <p>●事前にワークシートのウェビングマップで自己分析した自分の内面を、色彩や形で表現し、架空の空間を設定していく。</p> <p>●書き出した言葉を基に、アイデアスケッチをしながら主題を明確にし、画面を構成する。</p> <p>●背景と自画像との関係で描いていることを注意しながら表現する。</p>				◎	自己を深く見つめ、夢や想像や感情などの心の世界などを基に点描表現の工夫から、 <b>主題を生成して、自ら課題を見だし、解決しようとしている。</b> (ワークシート) (作品) 【主-①】
実行	11	<p>【パフォーマンス課題】</p> <p>○パフォーマンス課題に取り組むことができる。</p> <p>●自分の自画像作品を見て、解説文を書くことができる。</p> <p>●自分の自画像作品を見て、20年後の自分に向けて手紙を書くことができる。</p>				◎	自分の自画像の造形的なよさや美しさや表現の工夫などに興味をもち、感性や想像力を働かせて、 <b>自分の価値意識を大切にしながら作品の良さや美しさなどを批評して解説文を書くことができる。</b> (ワークシート) 【知-①, 思-①, ③】 未来の私に向けて手紙を書き、自己の内面を主体的に感じ取ろうとするなど前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとしている。 (手紙) (作品) 【自-①, ②】
振り返り	12	<p>○学びの過程を振り返ることができる。</p> <p>●題材の学習の振り返り</p> <p>●作品鑑賞</p>				◎	<b>本題材を学習して、何を学習したのか、どんな知識・技能を得たのかを振り返ることができる。</b> (ワークシート・振り返りシート) 【知-①】

## 6 題材開発のポイント・学習を終えた生徒の姿

### ○題材開発のポイント

本題材では、鑑賞と表現の一体化を行う。鑑賞を通して習得した表現の工夫を活用して、自画像作品を描く。スーラの絵画鑑賞において、自分が感じたことや考えたことを、根拠をもって伝え合う。スーラの点描画法を活用して自画像作品を制作し、話型を活用して作品の工夫点を作品解説文にまとめる。自分の自画像作品を見て、20年後の自分への手紙を書くことで美術科の中で、キャリア教育を進める。

### ○学習を終えた生徒の姿

造形的な良さや美しさ、作者の心情や意図や表現の工夫を感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、造形的な「見方・考え方」を広げることができる。形や色彩などの表し方を身に付け、材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現する創造的思考力を高めることができる生徒。自己評価で未来の自分への手紙を書くことで、肯定的自己理解と自己有用感の獲得することができる生徒。

# 保健体育科 単元構想シート

作成者：有本 千裕

- 1 学 年    第1学年
- 2 単元名    バレーボール
- 3 単元の目標

- (1) ペアやグループで課題を見つけ、積極的に声をかけ合い学び合いができる。
- (2) ペアやグループの課題を見つけ、改善策を考え、自分の言葉で表現することができる。
- (3) 声かけやアドバイスをを行い、パスやサーブなどの基本技能を習得し、ラリーを続けることができる。
- (4) バレーボールの技術の名称や技能ポイント、試合の進め方やルールを理解することができる。

## 4 本校が育成を目指す資質・能力とその手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知-①	めあてに対する成果と課題を発表させる。学習カードにふり返りを記入させる。
思-①	お手本や映像から上手く行うためのポイントを見つけさせる。
思-②	お手本と比較してペアやグループの課題を見つけ、改善策を考えさせる。
思-③	見るポイントを指定し、ポイントを踏まえて説明させる。
主-①	自分で課題を発見し、既習事項を用いて解決方法を見つけさせる。コツをアドバイスしながら解決方法を実行させる。
他-①	ペア学習やグループ学習を毎時間取り入れ、他者と協力しながら課題を解決していく場の設定をする。
他-②	仲間と意見を交流して自分の考えを深めさせ、振り返りを発表させる。

## 5 単元の計画（全9時間）

学習過程	時	<input type="radio"/> 本時のめあて <input checked="" type="radio"/> 学習内容	評 価					
			関	考	技	知	評価規準 (評価方法) 【資質・能力】	※評価規準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。
整情報・の 分析集	1	<input type="radio"/> バレーボールの特性や基本技能を知り、 <input type="radio"/> バレーボールに慣れよう。 <input checked="" type="radio"/> ボールを使った体づくり運動をする。 <input checked="" type="radio"/> バレーボールで身に付ける基本技能の確認をする。	◎				運動に積極的に取り組み、ペアに声かけやアドバイスをを行うことができる。 (ワークシート・行動観察)	
	2	<input type="radio"/> ペアでポイントの声かけをしながらパス練習をしよう。 <input checked="" type="radio"/> オーバーハンドパス <input checked="" type="radio"/> アンダーハンドパス <input checked="" type="radio"/> グループでラリー		○		◎	・パスのポイントを意識して仲間と協力して意欲的に練習することができる。 ・ <b>ポイントとなる言葉を用いて声かけや振り返りができる。</b> 【思-①】【知-①】 (ワークシート・行動観察)	
	3	<input type="radio"/> ペアやグループでポイントの声かけをしながらパス練習をしよう。 <input checked="" type="radio"/> オーバーハンドパス <input checked="" type="radio"/> アンダーハンドパス <input checked="" type="radio"/> アンダーハンドサービス				◎	・ペアやグループで協力して声かけを行い意欲的に練習し、 <b>ポイントを意識してパスの技能を向上させることができる。</b> 【主-①】(ワークシート・行動観察)	



情報 の 分析	4	○ペアでポイントの声かけをしながら基本 技能を確認しよう。 ●パスゲーム ●アンダーハンドサービス ●レシーブ		◎	○	・お手本や技術ポイントと比較してペアの 課題についてアドバイスをすることがで きる。【思-②】 ・自己の課題を考え、技能を向上させるこ とができる。 (ワークシート・行動観察)
課題 の 設定	5	○練習した技能を使って試合形式でラリー を続けよう。 ●試合の行い方を知る。 ●ボール投げ入れのゲーム ●前回見つけたポイントを生かしながらゲ ームを行う。	◎		○	試合の進め方を理解し、意欲的にゲームに 参加することができる。また、仲間に声を かけ合って練習ができる。 【知-①】 (ワークシート・行動観察)
情報 の 分析	6	○チームでラリーを続けるためのポイント を見つけて、ポイントを共有しよう。 ●色々なポジションを試してみる。 ●サーブ、キャッチありのゲーム ●各チームの意見交流で理由をつけて説明 する。		◎	○	・めあてに対する考えを根拠を持って説明 し、グループで意見を交流することができ る。【思-③】 ・ラリーを続けるために基本技能を安定し て行うことができる。 (ワークシート・行動観察)
	7	○他グループの意見を参考にしてラリーを 続けよう。 ●各チームの意見を参考にラリーを続ける ポイントを見つける。 ●色々な意見を取り入れながら、工夫して ゲームを行う。		◎	○	・交流した意見から考えを深め、自分のグ ループに活用して課題を解決することが できる。【他-②】 ・ラリーを続けるために基本技能を安定し て行うことができる。 (ワークシート・行動観察)
まとめ ・ 創造 ・ 表現	8	○チームの課題から目標を持ってゲームを 楽しもう。 ●ラリーを続けるためのチームの課題から 目標を持ってゲームを行う。 ●ポイントを意識しながらゲームを楽し む。	○		◎	・チームの課題から目標を設定し、目標に 向けてチームで協力しながら課題を解決 していくことができる。【他-①】 ・仲間と意見を交わしながら学習を進める ことができる。【他-②】 (ワークシート・行動観察)
振り 実 返 行 り	9	○ペアやグループで協力して身に付けた技 能を發揮しよう。 ●技能テスト ●バレーの授業の振り返り			◎	技能ポイントを意識して技能テストに取り 組み、力を發揮することができる。 (行動観察)

## 6 単元開発のポイント・学習を終えた生徒の姿

### ○単元開発のポイント

- ①ペアやグループでの学習を通して声かけやアドバイスを積極的に行い、基本技能（パス、サーブ）とポイント等の知識を習得させる。
- ②コート広さの工夫やサーブのキャッチ、バウンドOKなどのルール工夫によって、ラリーを続ける目標に意欲的に取り組ませる。

### ○学習を終えた生徒の姿

- ①自己やグループの課題を把握し、改善に向けて仲間と協力して意欲的に活動に取り組むことができる生徒。
- ②ポイントを踏まえたアドバイスや声かけ、振り返りができる生徒。

# 技術・家庭科 単元構想シート

作成者：溝口 陽子

- 1 学 年    第2学年
- 2 題材名    環境に配慮した消費生活
- 3 題材の目標

- (1) 自分や家族のエネルギー消費が環境に与える影響を理解できる。
- (2) エネルギー消費を減らす方法を考え、実践できる。
- (3) これからの生活を展望して、環境に配慮した生活を工夫することができる。

## 4 本校が育成を目指す資質・能力とその手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知一①	図表を活用し理解を深めさせる。
思一①	地球環境について、過去や現状のデータやニュースを提示する。
思一②	具体的にイメージさせる。
思一③	自分の考えを発表する場を設ける。
主一①	自分や家族の生活に直結していることを認識させるために実習・実践を取り入れる。
他一①	環境に配慮した生活の在り方や工夫について、意見交流する場を設ける。
社一①	資料を活用し、自然との共存の必要性に気付かせる。

## 5 題材の計画（全3時間）

学習過程	時	<input type="radio"/> 本時のめあて <input checked="" type="radio"/> 学習内容	評 価				※評価規準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。
			関	考	技	知	
課題の設定	1	<input type="radio"/> 「環境に配慮した生活」について考えよう。 <input checked="" type="radio"/> 地球環境の現状「南極の氷が溶けたらどうなるだろう？」 <input checked="" type="radio"/> 循環型社会と江戸時代の暮らし				◎	地球環境の現状に関心を持ち、循環型社会の仕組みについて <b>自分の言葉で説明できる。</b> (小テスト・行動観察)【知一①, 社一①】
情報の収集							
整理・分析	2	<input type="radio"/> 10年後の福山市をイメージしよう。 <input checked="" type="radio"/> 福山市の現状「ゴミの埋立地があと10年しかもたない!？」 <input checked="" type="radio"/> 福山市民としての「環境に配慮した生活」とは？	◎				地球環境や福山市の現状に関心を持ち、埋立地がなくなった状況を <b>具体的にイメージしようとしている。</b> (ワークシート・行動観察)【思一①②③, 他一①】

実行	実践	<input type="checkbox"/> 「環境に配慮した生活」を実践する。 <input checked="" type="checkbox"/> 環境にかかわる「我が家の課題」 <input checked="" type="checkbox"/> その解決方法 <input checked="" type="checkbox"/> 実践（1週間）				◎	「我が家の課題」を発見し、 <b>解決方法を考え、行動している。</b> （実践記録）【主-①】
まとめ・創造・表現	3	【パフォーマンス課題】 <input type="checkbox"/> 発信しよう！我が家のエコ生活 <input checked="" type="checkbox"/> 「我が家の課題」実践の振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 循環型社会の仕組み（確認） <input checked="" type="checkbox"/> 循環型社会を推進するための「我が家の工夫」ポスター作成				◎	循環型社会を推進するための「我が家の方法」を <b>具体的に工夫しようとしている。</b> （ワークシート・ポスター）【思-②③，他-①】
振り返り							

## 6 題材開発のポイント・学習を終えた生徒の姿

### ○単元開発のポイント

- ① この題材はESDを意識してデザインした。「自らの消費生活を見直し、循環型社会を推進していくことで持続可能な社会を目指そう」という内容である。
- ② 環境に対する意識や意欲を高めるためには資料選定が重要である。
  - 地球環境 : 「南極の現状」「地球温暖化」「ゴミ問題」「循環型社会」「江戸時代のリサイクル（着物編）」「水」「食品ロス」その他異常気象に関する新聞記事など
  - 福山市の現状 : 「ゴミ問題」「芦田川」「福山市の環境プロジェクト」など
  - 循環型社会 : 教科書や福山市作成の副読本等の図の利用など

### ○学習を終えた生徒の姿

環境に配慮した生活を継続して実践できる生徒。

ほんの少しでも環境に配慮した生活を継続する、または、ほんの少しでもみんなが環境に配慮した生活を実践することにより、大きな効果が得られる。

「ちりも積もれば山となる」作戦である。生活はこれからも続いていく。何より継続することと、できるだけ多くの人実践することの重要性に気づき、主体的に実践できる生徒を育成したい。

# 英語科 単元構想シート

作成者：富田 千春

- 1 学 年    第3学年
- 2 単元名    Daily Scene2 手紙
- 3 単元の目標

- (1) 好きな有名人へのファンレターを10文以上の正しい英語で書く。
- (2) 間違いを恐れず積極的に英語で手紙を書く。
- (3) 自分の気持ちを相手に分かりやすく伝えている。
- (4) 手紙の構成に関する知識を身に付けている。

### 4 本校が育成を目指す資質・能力とその手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知一①	手紙の構成に関する知識を身に付けさせる。
思一③	相手に伝えたいことや自分の気持ちをまとめさせる。
主一①	マッピングで考えを膨らませ、表現したいことを日本語でメモさせる。 自分の気持ちを伝える英語表現を理解させる。
他一②	グループで意見を交流し、自分自身の意見を客観的にとらえさせたり、他者の意見を取り入れたりする。

### 5 単元の計画（全5時間）

学習過程	時	<input type="radio"/> 本時のめあて <input checked="" type="radio"/> 学習内容	評 価				
			関	表	知	評価規準 (評価方法) 【資質・能力】	※評価規準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。
課題の設定	1	<input type="radio"/> ファンレターの内容を理解することができる。 <input checked="" type="radio"/> モデル文の構成を理解する。 <input checked="" type="radio"/> ファンレターに使える英語表現を理解する。			○	モデル文を読み、 <b>手紙の構成を理解している。</b> (行動観察) 【知一①】	
情報の収集	2	<input type="radio"/> ファンレターを書くために内容をまとめることができる。 <input checked="" type="radio"/> 自分の気持ちを伝える英語表現を理解する。 <input checked="" type="radio"/> 好きな有名人にファンレターを書く内容をマッピングする。 <input checked="" type="radio"/> マッピングをもとに自分でファンレターの構成を考える。	○			好きな有名人に自分の気持ちを伝えられるように手紙を書こうとしている。 (行動観察)	
整理・分析		<input type="radio"/> ファンレターの本文を書くことができる。 <input checked="" type="radio"/> 本文を個人で書く。 <input checked="" type="radio"/> グループでよりよいファンレターのために意見を交流する。 <input checked="" type="radio"/> 自分のファンレターを修正する。			○	好きな有名人に自分の気持ちを伝えるために <b>相手に伝えたいことや自分の気持ちをまとめている。</b> (ワークシート) 【主一①】	
まとめ・創造・表現	3	<input type="radio"/> ファンレターの本文を書くことができる。 <input checked="" type="radio"/> 本文を個人で書く。 <input checked="" type="radio"/> グループでよりよいファンレターのために意見を交流する。 <input checked="" type="radio"/> 自分のファンレターを修正する。	○			<b>グループでよりよいファンレターにするために意見交流をしている。</b> (グループ活動) 【他一②】	
					◎	グループで交流したことをもとによりよい <b>英文を書くことができる。</b> (ワークシート) 【思一③】	

実行	4	○自分の気持ちを含めてファンレターを書くことができる。 ●自分の気持ちを含めて英文10文以上の英語でファンレターを書く。 (パフォーマンス課題)	◎	好きな有名人へのファンレターを10文以上の英語で書くことができる。 (ワークシート) 【思-③】
振り返り	5	●単元テスト	◎	手紙の構成に関する知識を理解している。 (ペーパーテスト) 【知-①】

## 6 単元開発のポイント・学習を終えた生徒の姿

### ○単元開発のポイント

生徒が既習事項を使ってファンレターを書くという、ネイティブスピーカーと実際にコミュニケーションをとることを想定させる場面を取り入れ、自分の思いを相手に分かりやすく英語で表現する力を育成するところにポイントをおいてデザインしました。

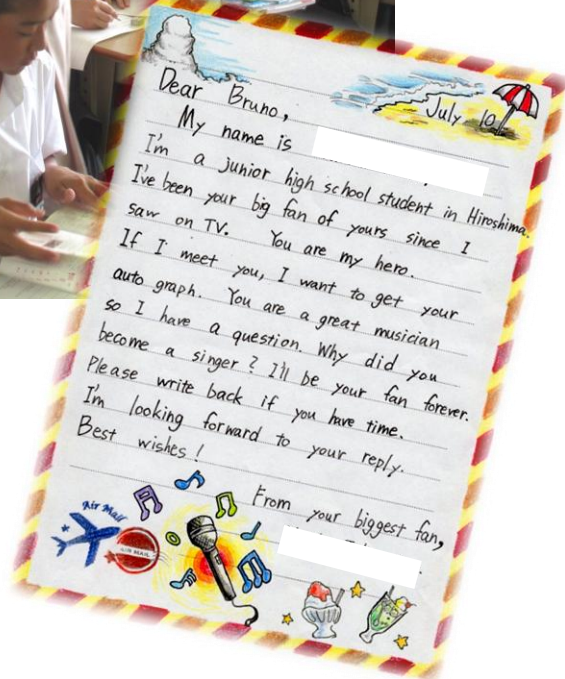
#### 《手立てのポイント》

書く活動においてまず、個人作業（英文を書く）→ペア・グループ交流（自分の意見を発表する）→グループ作業（添削し合ったり、文を付け加えたりする）→再度個人作業（修正したものを再度書き直す）を行う中で伝え合う活動も取り入る。積極的に他者と協力する中で表現力の定着を図る。



### ○学習を終えた生徒の姿

自分の気持ちや感想などを含めた10文以上の正しい英語で相手にわかりやすいファンレターを書くことができる生徒。



#### (4) 総合的な学習の時間の単元開発について

##### ①総合的な学習の時間の単元開発の視点

総合的な学習の時間では、次の8つの視点を踏まえ単元開発を行う必要があると考える。

視点1	: 教科と横断的で、より探究的な学習となること	
視点2	: 地域へ貢献・参画・協働できる単元となること	⇒地域理解・社会貢献
視点3	: 自己を深く見つめることのできる単元となること	⇒自己探究
視点4	: 本校が設定した資質・能力の育成が図れる単元となること	
視点5	: キャリア教育の充実が図れる単元となること	
視点6	: 小中一貫教育（福山100NEN教育）を踏まえた単元となること	
視点7	: ESD2観点（福山100NEN教育）を踏まえた単元となること	
視点8	: 実行（行動化）できる単元となること	

##### ②単元開発の各視点におけるポイント（総合的な学習の時間）

###### ア視点1【キーワード：「横断的」「探究的」】

中央教育審議会答申において、学習指導要領等改訂の基本的な方向性が示されるとともに、各教科等における改訂の具体的な方向性も示された。今回の総合的な学習の時間の改訂は、これらを踏まえて行われたものである。総合的な学習の時間は、学校が地域や学校、児童生徒の実態等に応じて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習とすることと同時に、探究的な学習や協働的な学習とすることが重要であるとしてきた。特に、探究的な学習を実現するため、「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」の探究のプロセス（※図5参照）を明示し、学習活動を発展的に繰り返していくことを重視してきた。

・・・ 中略 ・・・

その上で、課題と更なる期待として、以下の点が示された。

- ・総合的な学習の時間を通してどのような資質・能力を育成するのかということや、総合的な学習の時間と各教科等との関連を明らかにすることについては学校により差がある。これまで以上に総合的な学習の時間と各教科等の相互の関わりを意識しながら、学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントが行われるようにすることが求められている。
- ・探究のプロセスの中でも「整理・分析」，「まとめ・表現」に対する取組が十分ではないという課題がある。探究のプロセスを通じた一人一人の資質・能力の向上をより一層意識することが求められる。

【引用：次期学習指導要領（総合的な学習の時間編）『改訂の趣旨』】

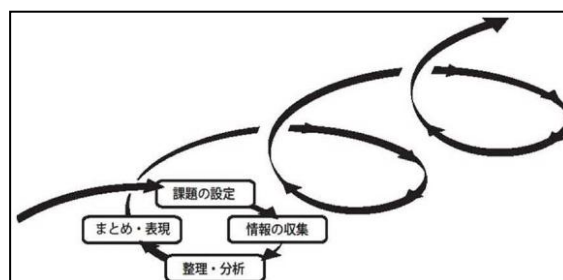


図5 総合的な学習の時間における生徒の学習の姿



## イ 視点2 【キーワード：地域への貢献・参画・協働】

本校では、総合的な学習の時間が、地域へ貢献・参画・協働できる単元となることを目指し、各学年の前期の単元において、「地域理解・社会貢献」学習（図6）を柱とした学習を行っている。この学習を通して、地域の理解をさらに深めるとともに、学習した事を3年間スパイラルのように重なり合わせることで、その学習において必要な資質・能力を高めていくことをねらっている。

また、この単元により、本校が育成を目指す資質・能力の一つである「社会貢献力」についてもこの単元では重点的に育成を図る。

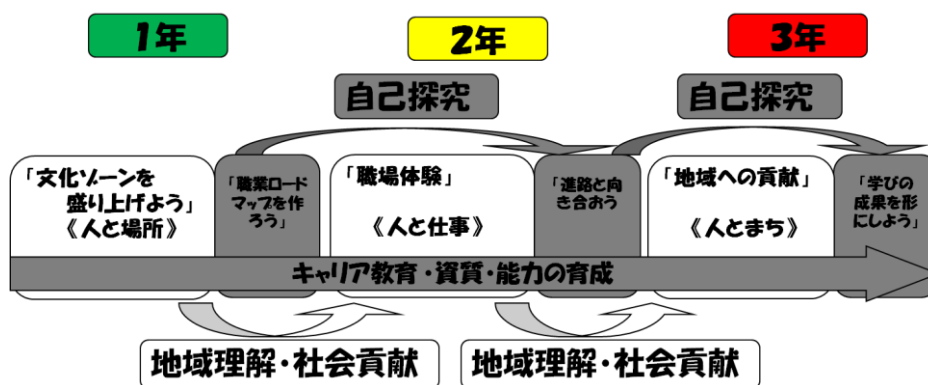


図6 3年間の単元構成イメージ（「地域理解・社会貢献」学習編）

## ウ 視点3 【キーワード：自己を深く見つめる】

本校では、総合的な学習の時間が、自己を深く見つめることのできる単元となることを目指し、各学年の後期の単元において、「自己探究」学習（図7）を柱とした学習を行っている。前期「地域理解・社会貢献」の単元の間この単元を入れているのは、前期の単元で、生徒たちが地域の課題を見出しその課題に対して探究的に学習してきたことを、後期の「自己探究」学習で振り返ることで、自ら経験した事や学習した事を、しっかりと整理し、自らのスキルの高まりや価値観の変容に目を向けることで、自己形成をさらに高めていくことをめざしている。そして、この「自己探究」学習によって見出した課題が、次年度の前期の単元の学習につながっていく。このような3年間の総合的な学習の時間の学びを外と内で見つめていくことをねらっている。

また、この単元により、本校が育成を目指す資質・能力の一つである「自己形成力」についてもこの単元では重点的に育成を図る。

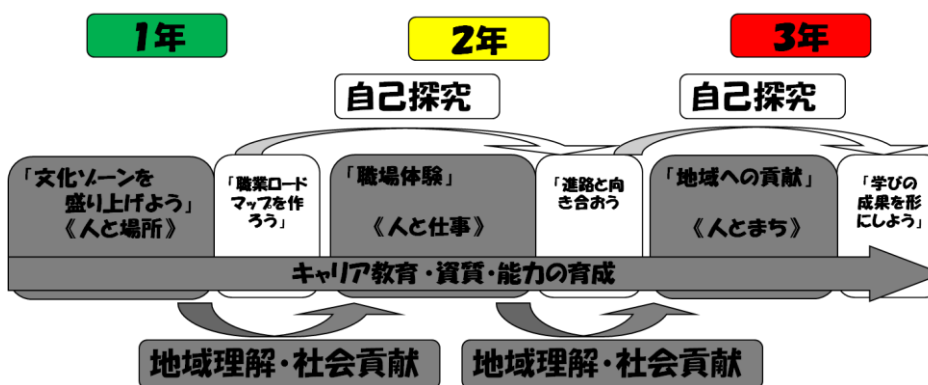


図7 3年間の単元構成イメージ（「自己探究」学習編）

エ 視点4 【キーワード：資質・能力の育成】

総合的な学習の時間では、育てようとする資質や能力及び態度については、例えば、学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関することと等の視点に配慮する必要がある。

①学習方法に関すること

生徒が横断的・総合的な学習や探究的な学習を主体的、創造的に進めていくために必要な資質や能力及び態度の関する視点

②自分自身に関すること

生徒自身の生活や行為のあり方、あるいは自己理解や自己省察に必要な資質や能力及び態度の関する視点

③他者や社会とのかかわりに関すること

他者との協同や社会とのかかわりに必要な資質や能力及び態度の関する視点

【引用：今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）】

上記のことを踏まえ、本校では、育成を目指す資質・能力との関連を図8のように整理した。本校の育成を目指す資質・能力が総合的な学習の時間において配慮すべき視点をバランスよく配置されていることが分かる。これにより、総合的な学習の時間においても、本校では育成を目指す資質・能力を評価の観点と位置付け、それぞれの学習活動に応じた観点に対する評価規準を作成している。

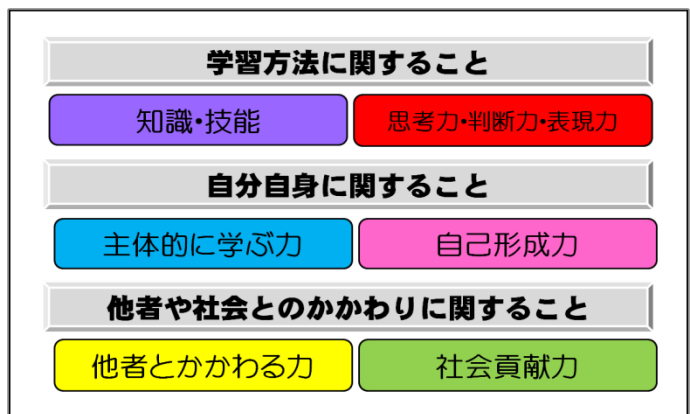


図8 育成を目指す資質・能力の視点の整理

オ 視点5 【キーワード：キャリア教育】

「キャリア教育」とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」である（中教審）と示されている。キャリア教育については、これまでも図9のような「4領域8能力」や「基礎的・汎用的な能力」が示されているが、本校が育成を目指す資質・能力も同様のものであることが分かる。

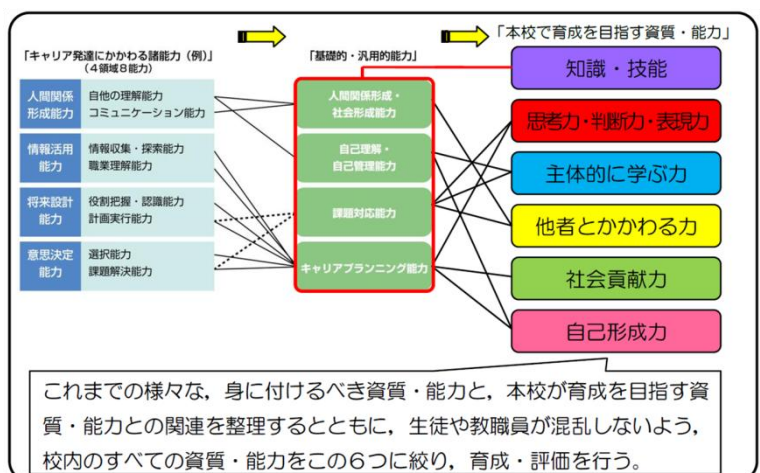


図9 キャリア教育で育成する力の関わり

したがって、指導者側としては、本校が育成を目指す資質・能力をキャリア教育の視点で捉えておくことも大切にながら、生徒には、様々な資質・能力のことが混在することで混乱しないよう、校内では、本校で育成を目指す資質・能力（図9右側）のみを表現として扱うようにしている。

カ 視点6 【キーワード：小中一貫教育】

福山市では、「福山100NEN教育」2年目を迎えている。その取組の2つの柱の1つが「小中一貫教育」である。総合的な学習の時間においても、図10のような視点を持って、体系的に、そして意図的に単元を開発実践していくことが求められている。

本校区では、年5回の小中合同の研修会を行っている。教職員同士による総合的な学習の時間の単元の交流や児童・生徒同士の総合的な学習の時間の交流会等も行っている。

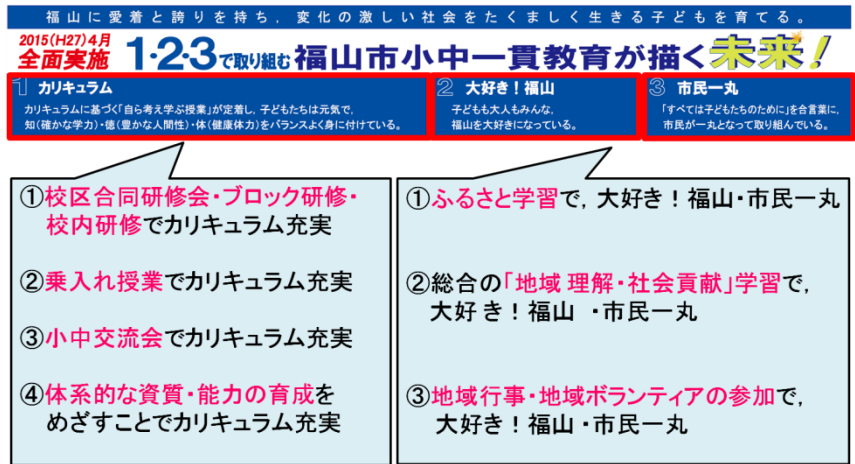


図10 小中一貫教育と本校の取組の関連

キ 視点7 【キーワード：ESD2観点】

「福山100NEN教育」の取組の柱の2つ目が「ESD2観点」(図11)である。持続可能な社会づくりをめざして本校では、特に総合的な学習の時間では、この視点も大切にしている。

この「ESD2観点」にある、  
 ①人格の発達や自律心、判断力、責任感等の人間性を育む  
 や②「他人・社会・自然環境」との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育む

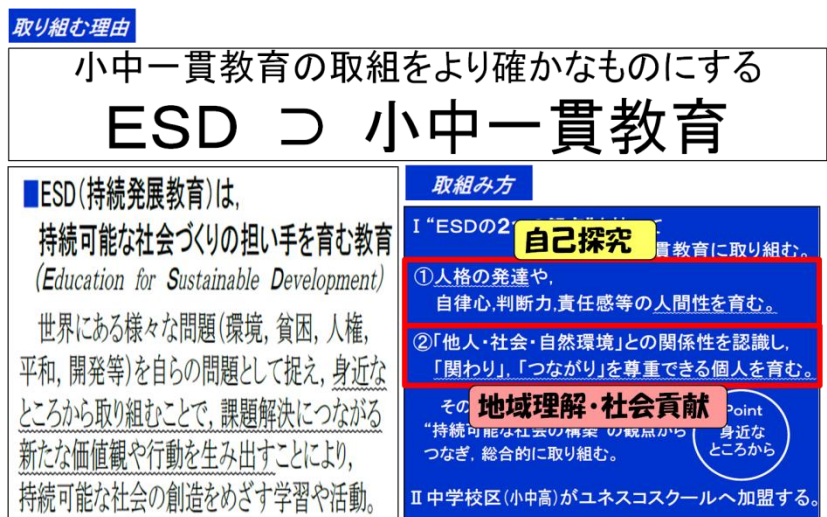


図11 ESD2観点と総合的な学習の時間との関連

「地域理解・社会貢献」「自己探究」学習においても深く関わりのある内容であり、この2観点を踏まえた単元になるよう単元開発・実践を行っている。

ク 視点8 【キーワード：実行(行動化)】

今までの視点1～視点7を踏まえた総合的な学習の時間となるような単元を開発するためには、これまでの本校の総合的な学習の時間で行っていた、調べたことをまとめて終わったり、学習したことを掲示して終わったりするような学習活動ではなく、学習した事が、校内だけにとどまらず、地域や社会と大きく関わり、その経験が自らの成長につながっていくものでなければならない。そのため、その単元の学習がより深い学びとなるために、単元のゴール(アウトプット)のレベルをどこに設定するかが重要となる。その一つの目安が、実行(行動化)の場面の設定である。本校では、特に前期の単元において、この実行(行動化)の場面を大切にしている。つま



り、校内だけで成果物をまとめたり、提案を考えたりするだけではなく、その成果物や提案をその関わりのあった地域や社会にアウトプットし、評価をしていただく。そして、自らの学習を振り返る。こういった学習活動を行っていくことを本校の総合的な学習の時間では目指している。(図12、図13参照)



図12 平成28年度 総合的な学習の時間前期単元(1学年:学習の足跡)



1学年

地域の文化施設について学習し、その魅力を広げるための方策を考え、実行しました。



2学年

職場体験でお世話になった事業所に対し、自らがそこで経験した事を生かし、お礼を形(左はスーパーの食材を使ったレシピ、右は保育園の玩具)にして実行しました。



3学年

校区を福祉の視点で調べ、そこから見出した課題をもとによりよい地域となるための企画を関係機関や校区の介護施設の方たちをお招きして提案しました。

図13 平成28年度 総合的な学習の時間における各学年の実行場面

## 5 検証結果

### (1) 意識調査の結果

#### ①生徒の意識に係る調査

##### ア「資質・能力」に関わる調査（生徒）

資質・能力	特に身に付けさせたい力	調査結果（グレートの評価の割合：％） ※本校が育成を目指す資質・能力のルーブリック表参照		
知識・技能	学習した事を自ら語れる力 (知の構造化)		H29	29.2
			H28	26.5
思考力・ 判断力・ 表現力	根拠をもとに、正しい判断をする力 (論理的思考力)		H29	33.9
	よりよい解決のため、いろいろな見 方・考え方を持つ力 (批判的な視点を持つ力)		H29	39.4
			H28	32.8
	自分の考えを相手が納得できるよ う分かりやすく伝える力 (言語力)		H29	29.1
H28			24.5	
主体的に 学ぶ力	自ら課題を見だし、解決しようと する力		H29	37.5
			H28	37.4
他者と かかわる力	他者と協力（協働：きょうどう）し て、課題を解決しようとする力		H29	48.5
	他者とのかかわりを通して、自分の 考えを深めたり広げたりする力		H29	44.0
社会貢献力	よりよい地域社会のために、何をす べきかを考え実行しようとする力		H29	32.6
			H28	32.4
自己形成力	前向きにチャレンジし、より自律・ 自立した人間になろうとする力		H29	35.9
			H28	30.3
	自信を持つ力		H29	42.8
			H28	37.1



イ「課題発見・解決学習」に関わる調査（生徒）

学習過程	質問内容	調査結果（肯定的評価の割合：％）		
課題の設定	授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみたい」と思います。		H29	<b>87.0</b>
			H28	83.3
			H27	77.9
	授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないか」と予想しています。		H29	<b>87.9</b>
			H28	83.9
			H27	81.1
情報の収集	授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。		H29	<b>63.8</b>
			H28	57.6
			H27	49.6
	授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。		H29	<b>69.1</b>
			H28	67.0
			H27	58.1
整理・分析	授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。		H29	<b>67.5</b>
			H28	62.5
			H27	49.6
	授業では、情報を比べたり（比較）、仲間分けしたり（分類）、関係を見付けたり（関係付け）して、何が分かるかを考えています。		H29	<b>78.0</b>
			H28	72.2
			H27	69.8
まとめ・創造・表現	授業では、自分の考えを積極的に伝えています。		H29	<b>70.2</b>
			H28	66.1
			H27	65.6
	授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。		H29	<b>72.6</b>
			H28	69.4
			H27	64.9
実行	授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組んでいます。		H29	<b>77.7</b>
			H28	75.9
			H27	68.2
振り返り	学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことをなどの理由」を考えています。		H29	<b>79.6</b>
			H28	74.6
			H27	68.3
	学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。		H29	<b>77.3</b>
			H28	71.8
			H27	64.7

②教職員の意識に係る調査

ア「資質・能力」に関わる調査（教職員）

資質・能力	特に身に付けさせたい力 ⇒質問内容	調査結果（肯定的評価の割合：％）		
知識・技能	学習した事を自ら語れる力（知の構造化） ⇒学習した事（用語・技能・方法）を使って、生徒に考えをまとめさせている。		H29	94.6
			H28	80.0
思考力・判断力・表現力	根拠をもとに、正しい判断をする力（論理的思考力） ⇒正しい判断をさせるために、生徒の出した結論に対して理由を言わせるようにしている。		H29	94.6
	よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力（批判的な視点を持つ力） ⇒建設的な解決をめざし、生徒に批判的な視点を持たせるため、一つの意見や考えに対して、他の生徒に付け加えや別の意見や考えを求めるような場面を意図的に仕組んでいる。		H29	81.1
			H28	88.6
	自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力（言語力） ⇒生徒の発表時には、相手に伝わりやすい簡潔な表現をさせるよう意識して指導している。		H29	89.2
H28			88.6	
主体的に学ぶ力	自ら課題を見だし、解決しようとする力 ⇒生徒が主体的に学ぶための「課題発見・解決学習」の6つの学習過程を意識して指導に当たっている。		H29	89.2
			H28	85.7
他者とのかかわる力	他者と協力（協働：きょうどう）して、課題を解決しようとする力 ⇒生徒が他者と協力（協働：きょうどう）して、課題を解決したり、目標に向かって取り組んだりする場面を意図的に仕組んでいる。		H29	89.2
	他者とのかわりを通して、自分の考えを深めたり広げたりする力 ⇒他者の意見をもとに自分の考えを深めたり広げたりする場面を意図的に仕組んでいる。		H29	78.4
社会貢献力	よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力 ⇒総合や教科等の指導において、生徒が他者や地域社会に向けて課題を見だし、主体的・協働的にその課題を解決するような単元開発・実践を行っている。		H29	83.8
			H28	80.0
自己形成力	前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力 ⇒総合や教科等の指導において、生徒が自らの人生設計や自己実現に向けて、自らを探究するような単元開発・実践を行っている。		H29	78.4
	自信を持つ力 ⇒生徒の自己肯定感が高まるように、生徒の頑張りや成果を見逃すことなく、その個々の生徒の能力に応じて適切な評価・声かけを行うことができている。		H29	91.9
			H28	97.1

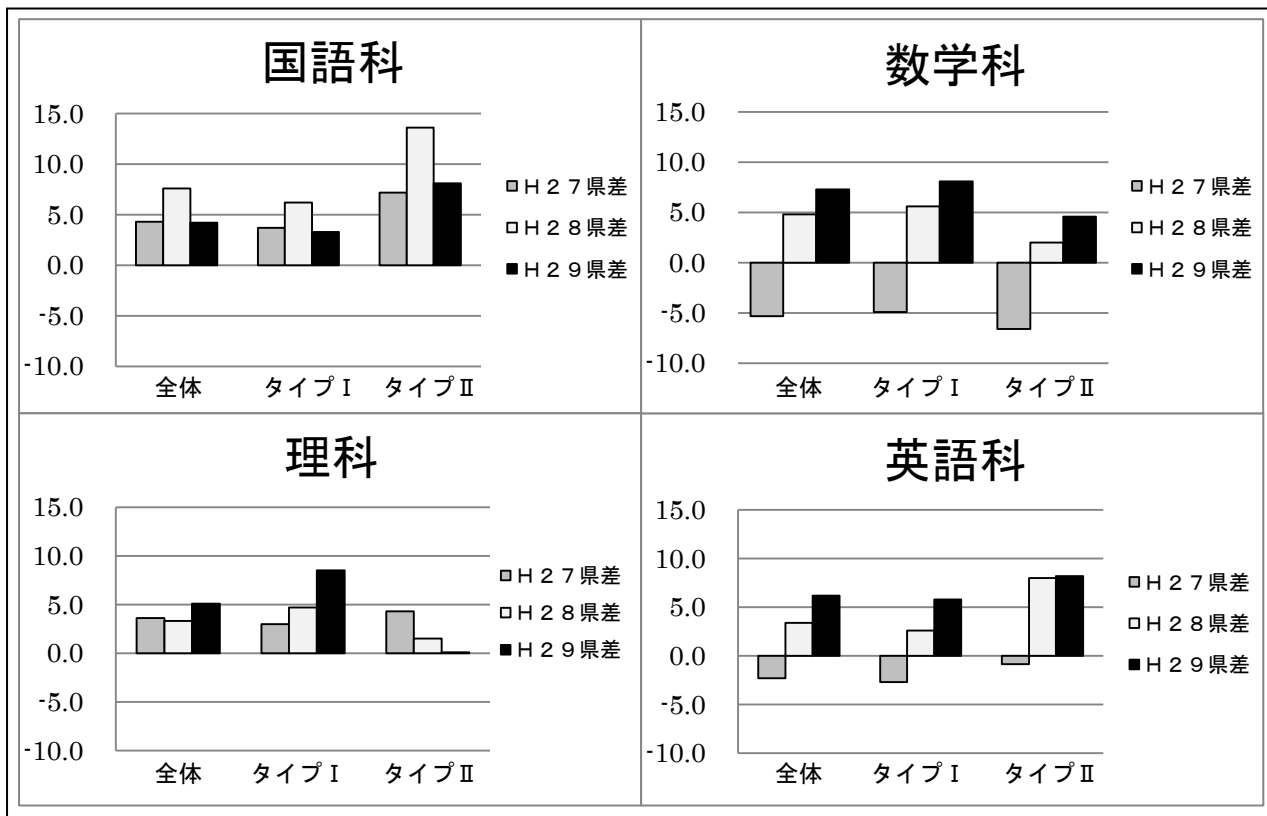
イ「課題発見・解決学習」に関わる調査（教職員）

学習過程	質問内容	調査結果（肯定的評価の割合：％）		
課題の設定	「なぜだろう」、「やってみたい」と生徒が思うような課題設定を意識している。		H29	89.2
			H28	88.6
	課題に対して、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないか」と生徒に予想させている。		H29	94.6
			H28	82.4
情報の収集	課題を解決するために、生徒が進んで、資料を集めたり取材をしたりする活動の場を設定している。		H29	64.9
			H28	74.3
	課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えさせている。		H29	70.3
			H28	60.0
整理・分析	調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめる活動の場を設定している。		H29	59.5
			H28	57.1
	考えを整理・分析するために、比較・分類・関係付けするための手立てを行っている。		H29	73.0
			H28	65.7
まとめ・創造・表現	生徒の考えが、しっかりと交流できるような環境が整えられている。		H29	91.9
			H28	91.4
	どう説明すれば、自分の考えをはっきりと相手に分かりやすく伝えることができるのかを生徒に考えさせたり、指導したりすることができる。		H29	86.5
			H28	88.6
実行	生徒が、考えたり提案したりしたことを実際に取りまわせる活動ができている。		H29	75.7
			H28	77.1
振り返り	学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことをなどの理由」を考えさせている。		H29	83.8
			H28	71.4
	生徒が「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などのように、生徒が追究課題をもてるような、学習の振り返りを仕組むことができている。		H29	75.7
			H28	62.9

## (2) 学力調査の結果

### ①広島県「基礎・基本」定着状況調査

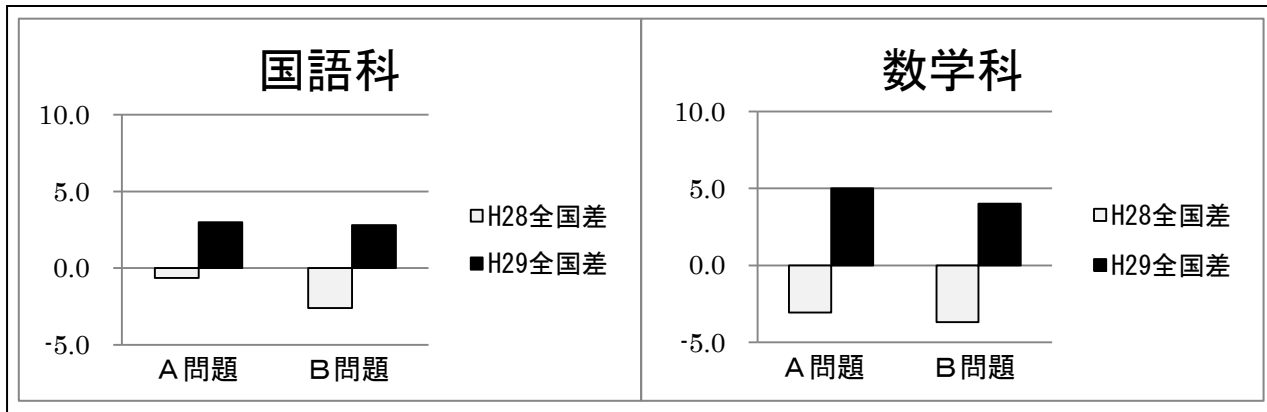
	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
	本校	広島県	県差	本校	広島県	県差	本校	広島県	県差
国語	77.9	73.6	4.3	77.3	69.7	7.6	73.4	69.2	4.2
数学	65.1	70.4	-5.3	71.6	66.8	4.8	74.2	66.9	7.3
理科	53.8	50.2	3.6	55.1	51.8	3.3	55.9	50.8	5.1
英語	65.9	68.2	-2.3	73.0	69.6	3.4	78.6	72.4	6.2



### ②全国学力・学習状況調査

	平成28年度				平成29年度			
	本校	広島県	全国	全国差	本校	広島県	全国	全国差
国語A	75.0	76.6	75.6	-0.6	80	78	77.4	3
国語B	63.9	67.9	66.5	-2.6	75	73	72.2	3
数学A	59.1	62.1	62.2	-3.1	70	64	64.6	5
数学B	40.4	44.8	44.1	-3.7	52	48	48.1	4

(※平成29年度は、全国平均の値を四捨五入により整数値にしたもので全国差を計算しています。)



### (3) 成果と課題及び改善に向けて

#### ①成果

##### ア「資質・能力の育成」について

- 生徒アンケートから、資質・能力に対する意識の高まりが見られた。
- 生徒・教職員の中で、資質・能力を意識した授業や会話が日常的に増えてきた。

##### イ「主体的な学びの創造（「課題発見・解決学習」における取組）」について

- 教職員アンケートから、特に充実を図ることが求められている〔課題の設定〕〔整理・分析〕〔振り返り〕（※広島県教育資料 p.101 参照）においては、意識の向上が見られた。
- 「課題発見・解決学習」を踏まえた単元開発を全職員が1単元以上行い実践した。
- 取組の成果として、開発した指導案を全てHP等に公開した。

##### ウ「学力の向上」について

- 学力調査により現れた本校の課題について、計画的にその年度内に学び直しをすることができた。
- 学力調査で課題となった問題を分析し、小学校とも連携しながら、対策を講じることができた。
- 広島県「基礎・基本」定着状況調査では、この3年間概ねどの教科においても向上した。
- 全国学力・学習状況調査では、全国平均及び、昨年度の結果を上回った。

#### ②課題

##### ア「資質・能力の育成」について

- 重点的に取り組む内容を十分に焦点化しきれなかったため、全体の取組が浅いものとなった。
- 教科における資質・能力の評価については、次期学習指導要領による評価の在り方を注視し、今後も検討を進める必要がある。

##### イ「主体的な学びの創造（「課題発見・解決学習」における取組）」について

- 全教職員で、「課題発見・解決学習」を位置付けた単元開発を行ってきているが、全ての実践で、生徒のより主体的で探究的な学習が実現できているとはいえない状況である。
- 教職員アンケートでは、〔情報の収集〕〔まとめ・創造・表現〕〔実行〕場面で課題があった。

##### ウ「学力の向上」について

- 30%未満の生徒への対策が十分ではなかった。担任や教科担同士の連携や「学び直し」の機会を今後は増やしていく必要がある。
- 学力分析やその対策を教科担が中心に行っており、学年としての取組の充実も今後模索していく必要がある。

#### ③今後の改善に向けて

##### ア「資質・能力の育成」について

- 次年度からは、これまでの取組を基に、本校で育成を目指す資質・能力の中から、特に課題となる項目をリストアップし、それを重点的に強化していくような取組が必要である。

##### イ「主体的な学びの創造（「課題発見・解決学習」における取組）」について

- 更なる授業実践及び開発した単元のブラッシュアップを常に積み上げることが必要である。

##### ウ「学力の向上」について

- 目先の点数にとらわれず、絶えず身に付けさせたい力を意識した指導を継続して行っていくことが必要である。



# 「学びの変革」による学校内外での生徒の活躍

学校教育目標：生徒の主体性を育み、一人一人の願いをかなえる城北教育

自ら  
考え

判断し

行動  
する

めざす生徒像

- ・夢や目標を持ち、自ら考え学ぶ意欲的な生徒
- ・主体的に活動し、ルールや時間を守る生徒
- ・豊かな心を持ち、人を大切にする生徒

## 夢や目標

### 部活動における統一した取組

- 生徒の夢や目標を明確にした部活動
- 生徒主体による部活動運営（練習メニュー）
- 勝利至上主義ではなく、人間性の育成



### 平成29年度広島県選手権大会出場者数 138名

- ・ 団体の部  
バスケット男女、サッカー、バレーボール女子、ソフトテニス男子、バドミントン男子、柔道男子、剣道男女
- ・ 個人の部  
陸上男女、体操男子、卓球男子、バドミントン男子、柔道男子、剣道女子、水泳男女、硬式テニス男女

## 主体的な活動

体育大会、文化発表会、マラソン大会

- 各学年応援リーダーの育成
- 縦割りでの活動（学年間の相互交流）
- 応援リーダーを中心としたクラス協議
- 生徒主導による行事運営



マラソン大会での縦割り応援



## 豊かな心

校内のボランティア活動や市民活動に参加

- 生徒会を中心にボランティアの企画・運営
  - 全校集会、校内放送等での広報と啓発
  - 多くの生徒が自主的にボランティアに参加
- ※福山市教育委員会主催「中学生の主張大会」  
で最優秀賞受賞



ボランティア活動の企画





# 6 指導案様式について

## (1) 教科の指導案様式について (p. 62~65参照)

本校では、教科の指導案の様式を下記の4つの構成で作成している。

数学 第〇学年 福山市立城北中学校 指導者 〇〇 〇〇

単元名 「〇〇〇しよう」

知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力  
本単元で育成する資質・能力 他者とかわる力 社会貢献力 自己形成力

### ① 単元について(単元観・生徒観・指導観)

1 単元観  
本単元は、

2 生徒観

3 指導観  
指導にあたっては、

まず、単元全体について、単元観、生徒観、指導観の視点で説明する。

### ③ 単元計画

1 単元の全体像 (I:学習内容, II:学習活動, III:単元として生徒に身に付けさせたい力)

I 〇〇を, II △△を通して,  
III □□のような力を身に付ける。

2 単元の終末で見取るパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準	
あなたは、〇〇です。	A	
	B	
	C	

3 学習内容と評価の計画

学習過程	時	○本時のめあて ●学習内容	評 価			※評価規準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。
			関	考	技 知	
課題の設定	1					
情報の収集	2		◎			
整理・分析	3				○	
まとめ・表現	4					
実行	5					
振り返り	6					

単元計画では、単元で身に付けるべき力をどの学習過程でどのように育成し評価するのかを整理する。

### ② 単元の目標と身に付けさせたい力について

1 単元の目標  
(1)  
(2)  
(3)

2 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 見方や考え方	ウ 技能	エ 知識・理解

3 本単元で育成を目指す資質・能力  
(1) 本校の設定した資質・能力と本単元との関わり

資質・能力	特に身に付けさせたい力	本単元での育成・評価
知識・技能	知 ①学習したことを自ら語れる力 (知の構造化)	○
思考力・判断力・表現力	思 ①根拠をもとに、正しい判断をする力 (論理的思考力)	○
	②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つか (批判的思考力)	○
	③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力 (言語力)	○
主体的に学ぶ力	主 ①自ら課題を見だし、解決しようとする力	○
他者とかわる力	他 ①他者と協力して、課題を解決したり、目標に向かって取り組んだりする力	○
	②他者とのかわりを通して、自分の考えを深めたり広げたりしようとする力	○
社会貢献力	社 ①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	-
自己形成力	自 ①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	-
	②自信を持つ力	-

(2) 本単元で本校の設定した資質・能力を身に付けさせるための手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知-①	
思-①	
思-②	
思-③	
主	
他	
社	
自	

本単元で生徒に身に付けさせたい力を単元における学習内容と本校が育成する資質・能力の視点とで整理する。

### ④ 本時の学習

1 本時の目標  
〇〇

2 本時の評価

評価規準 (評価の観点)	評価基準	
ア	A	
.....	B	
(評価方法) 【資質・能力】	C	

3 準備物  
〇〇〇

4 学習展開 (○限目/△)

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り
導入 (○分)	学 習 活 動				指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 (評価方法) 【資質・能力】
展開 (○分)	【本時のめあて】					
まとめ	【ア】..じっくり考える 【イ】..はっきり表現する 【ウ】..くり返し挑戦する					ア ..... ..... (評価方法) 【資質・能力】

最後に本時の学習について、学習展開と指導上の留意点、評価規準及び評価基準、評価方法を明示する。

単元名

# 「○○○しよう」

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力  
他者とのかかわる力 社会貢献力 自己形成力

## ① 単元について

本校が育成を目指す資質・能力のうち、本単元で育成・評価するものを記載する。  
(※該当しないものは削除)

- 1 単元観  
本単元は、

この単元について、学習指導要領の位置づけや学習内容、目標、また他学年との系統やつながりを具体的に記述する。

- 2 生徒観

この単元に関する、これまでの既習事項やその定着状況を、前単元までの評価、事前テスト、アンケート結果などで分析し、生徒の現状や課題を具体的に記述する。

- 3 指導観  
指導にあたっては、

生徒の学習状況を踏まえて、本単元で確実に基礎・基本を身に付けさせるため、学習展開や指導方法の工夫、評価の進め方、指導のポイントなどを具体的に記述する。

## ② 単元の目標と身に付けさせたい力について

### 1 単元の目標

- (1) 学習指導要領に示された目標を踏まえて、  
 (2) 本単元での到達目標を具体的に記述する。  
 (3)

観点の表記は、各教科の観点に合わせて修正する。

### 2 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 見方や考え方	ウ 技能	エ 知識・理解
<p>生徒がどのような学習状況であれば、単元目標が達成できたと判断するのか、その拠り所となる規準を、年間計画に基づいて観点ごとに簡潔に記述する。</p> <p>※各時における具体的な評価規準は、単元計画で示す</p> <p>※評価規準については、国立教育政策研究所HPの“<u>評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料</u>”も参考にする。</p>			

### 3 本単元で育成を目指す資質・能力

#### (1) 本校の設定した資質・能力と本単元との関わり

資質・能力	特に身に付けさせたい力	本単元での育成・評価
知識・技能	知 ①自ら学習したことを自ら語る力（知の構造化）	○
思考力・判断力・表現力	思 ①根拠をもとに、正しい判断をする力（論理的思考力）	○
	②よりよい解決のため、	○
	③自分の考えを相手に	○
主体的に学ぶ力	主 ①自ら課題を見いだし	○
他者とのかかわる力	他 ①他者と協力（協働）し、課題を解決しようとする力	○
	②他者とのかかわりを通して、自分の考えを深めたり広げたりしようとする力	○
社会貢献力	社 ①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	—
自己形成力	自 ①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	—
	②自信を持つ力	—

本校で身に付けさせたい資質・能力を本単元で育成し評価ができるかどうかを“○”“—”で記載する。

#### (2) 本単元で本校の設定した資質・能力を身に付けさせるための手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知ー①	
思ー①	
思ー②	
思ー③	
主ー①	
他ー①	
他ー②	

この単元で育成することのできる資質・能力について、教科として具体的にどのような場面でのような手だてを講じるのかを説明する。

※カリキュラムマップを踏まえる。

※教科構想シートを踏まえる。



### ③ 単元計画

1 単元の全体像（Ⅰ：学習内容，Ⅱ：学習活動，Ⅲ：単元として生徒に身に付けさせたい力）

Ⅰ ○○を，	Ⅱ △△を	①「単元について」と②「単元の目標と身に付けさせたい力について」で整理したことを踏まえ，単元全体をどのように捉えているのかを，上記のⅠ～Ⅲの視点を踏まえ文章で記載する。
Ⅲ □□のような力を		

2 単元の終末で見取るパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準
あなたは，○○です。	A

単元の終末において，生徒のあるべき姿や生徒たちにどのような力を身に付けさせたいのかを想定し，それを見取るためのパフォーマンス課題と評価基準（ルーブリック）を作成する。

3 学習内容と評価の計画

学習過程	時	○本時のめあて ●学習内容	評 価					※評価規準のゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。
			関	考	技	知	評価規準 (評価方法) 【資質・能力】	
課題の設定	1							「単元の目標と身に付けさせたい力」をもとに評価規準を具体的に文章表記で記載する。 文章中に本校が育成する資質・能力を評価する部分については，ゴシック体で表記する。 ※毎時間本校が育成する資質・能力の評価をする必要はありません ※1時に2つ以上の評価を行う場合は，評価の欄を点線で区切る。
情報の収集	2	「課題発見・解決学習」の6つの過程のどの段階にあたるのかが分かるようにする。※教科構想シートも参考にする。	◎					
整理・分析								
創造・表現	まとめ							○…評価規準に照らして、「おおむね満足できる」状況（B）であるかどうかを把握し，「努力を要する」状況（C）になりそうな生徒に対して，適切な指導を行うとともに，「十分満足できる」状況（A）にあると判断できる生徒を把握し，必要に応じて単元における総括の資料とする。→必ずしも生徒全員を対象としていない （机間指導や観察，ノートなど） ◎…評価規準に照らして，「十分満足できる」状況（A），「おおむね満足できる」状況（B），「努力を要する」状況（C）のいずれかを判断し，把握することを意味するもので，単元における総括の資料とする。→生徒全員を対象として必ず一人1回は評価する場面 （机間指導や観察，ノートや小テストの回収・点検） （※教科の特性に応じて，◎または○の表記のみでも可）
実行								
振り返り	6	本時は太枠で囲む。 ※1.5pt ※学習内容の後に“【本時】”と入れる。						

## ④ 本時の学習

1 本時の目標  
○○○

※③単元計画の「3 学習内容と評価の計画」とリンクさせる。  
 ※④本時の学習の「4 学習展開」の評価規準と同じ文章にする。  
 ※右の評価基準は各段階を文章で示す。

2 本時の評価

評価規準	評価基準	
ア	A	
.....	B	
(評価方法)【資質・能力】	C	

3 準備物  
○○○

本時が、「課題発見・解決学習」の6つの過程のうちどの過程にあたるのかを選択し□で囲む。

4 学習展開 (○限目/△)

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り
学習活動		指導上の留意点			評価規準 (評価方法) 【資質・能力】	
導入 (○分)	【本時のめあて】					
展開 (○分)	(J)…じっくり考える) (H)…はっきり表現する) (K)…くり返し挑戦する)	本時のめあてを記載する。 ※めあてには、この“額縁” タイプを使用する			ア ..... ..... (評価方法) 【資質・能力】	
まとめ (○分)	設定時間も含め導入・展開・ まどめの流れが分かるよう にする。					

(2) 総合的な学習の時間の指導案様式について (p. 67～69参照)

本校では、総合的な学習の時間の指導案の様式を下記の4つの構成で作成している。

総合的な学習の時間		第〇学年		福山市立城北中学校		指導者 ○〇 ○〇						
単元名	「〇〇〇しよう」 ～ △△△ ～											
本単元で育成する資質・能力	知識・技能 他者とかわる力		思考力・判断力・表現力 社会貢献力		主体的に学ぶ力 自己形成力							
単元について												
1 生徒観												
2 単元観 本単元は、												
3 指導観 指導にあたっては、												
<p>まず、単元全体について、生徒観、単元観、指導観の視点で説明をする。</p>												
単元と評価の計画												
1 年間の指導計画												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元	「〇〇〇 〇〇〇」 (〇〇時間)						「〇〇〇 〇〇〇」 (〇〇時間)					
	地域理解・社会貢献						自己探究					
2 単元と評価の計画												
小単元名	学習過程	時数	学習内容・学習活動	評価規準(評価方法)	教科との関連							
「〇〇〇 〇〇〇」	課題の設定	2	○地域の文化や文化施設、文化ゾーンについて交流する。 ・単元ガイドランスを聞き、文化ゾーンの施設などについて知っていることを交流する。(1) ・現状を把握し、どの文化施設やテーマについて調査・研究したいか考える。(1)	【思-②】 (行動観察) (自己評価表)	⇒【英語】 福山市の好きな場所の紹介							
	情報の収集	6	○活性化の案を考える。	【思-①】 (行動観察) (自己評価表)	⇒【数学】 情報を表やグラフを用いて整理する							
	整理・分析											
	まとめ・創造・表現											
<p>ここで、単元の学習内容及び各学習過程における評価規準、教科との関連を整理している。</p>												

単元の目標						
育てたい資質・能力及び態度における評価規準						
資質・能力及び態度	評価規準					
知識・技能	知					
思考力・判断力・表現力	思					
主体的に学ぶ力	主					
他者とかわる力	他					
社会貢献力	社					
自己形成力	自					
<p>本単元の目標とともに、本校が育成を目指す資質・能力について本単元の学習活動に沿った評価規準を明示する。 (※総合的な学習の時間では、本校が育成を目指す資質・能力を評価の観点として位置付けている。)</p>						
本時の学習展開						
1 本時の目標						
2 本時の評価						
評価規準	評価基準					
.....	A					
【他-①】(行動観察) (自己評価表)	B					
	C					
3 学習展開 (〇限目〇)						
学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り
導入	学習活動		指導上の留意点		評価規準(評価方法)	
	1 本時のめあてと学習の流れを確認する。 ①本時の活動の見通しをもつ。 ・実地調査を受け、〇〇〇する。		①前回までの調査結果、資料を準備させる。			
【本時のめあて】						
展開①	2 ①					【他-①】 (行動観察) (自己評価表)
	②					
展開②						
<p>最後に本時の学習について、学習展開と指導上の留意点、評価規準及び評価基準、評価方法も明示する。</p>						

単元名

「〇〇〇しよう」 ～ △△△ ～

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力  
他者とかかわる力 社会貢献力 自己形成力

## 単元について

## 1 生徒観

この単元に関する、これまでの生徒の活動や思いや願い、実態をアンケート等をもとに具体的に記述する。

## 2 単元観

本単元は、

学習指導要領を踏まえ、単元の目標や内容に即して具体的に記述し、全体像がイメージできるようにする。また、なぜこの単元を設定したのか、この単元を通してどんな力を生徒に付けさせたいのかも記述する。

## 3 指導観

指導にあたっては、

生徒の学習状況を踏まえて、本単元でどのような活動を通じてどのような力を付けさせるのかを、学習展開や指導方法の工夫、評価の進め方、指導上の留意点などを踏まえ具体的に記述する。

また、それぞれの学習過程（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・創造・表現、実行、振り返り）の各場面ごとについて、指導のポイントも文章で記載する。

⇒ 例：課題設定の場面では、…、情報の収集の場面では、… など

## 単元の目標

本単元の目標を、文章で記載する。

## 育てたい資質・能力及び態度における評価規準

資質・能力及び態度		評価規準
知識・技能	知	
思考力・判断力・表現力	思	
主体的に学ぶ力	主	
他者とかかわる力	他	
社会貢献力	社	
自己形成力	自	

①評価規準については、本単元に即した内容で、文章で作成すること。その際、作成した評価規準が、本校で設定した資質・能力の定義に沿う内容であるかも確認すること。

②評価しない項目については、で色を付け評価項目ではないことを示すこと。

# 単元と評価の計画

## 1 年間の指導計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元	「〇〇〇 〇〇〇」 (〇〇時間) 地域理解・社会貢献							「〇〇〇 〇〇〇」 (〇〇時間) 自己探究				

年間計画の概要をここで記載する。

- ① 単元名を記載すること
- ② 各単元の総時数を記載すること
- ③ 指導単元に色をつけること

## 2 単元と評価の計画

小単元名	学習過程	時数	学習内容 学習活動	評価規準 (評価方法)	教科との関連	
「〇〇〇 〇〇〇」	課題の設定	2	○地域の文化や文化施設，文化ゾーンについて交流する。 ・単元ガイダンスを聞き，文化ゾーンの施設などについて知っていることを交流する。(1) ・現状を把握し，どの文化施設やテーマについて調査・研究したいか考える。(1)	【思-②】 (行動観察) (自己評価表)	⇒【英語】 福山市の好きな場所の紹介	
	情報の収集	6	○活性化の案を ・ ○学習内容 ・学習活動(時数) を記載する	【思-①】 (企画書) (自己評価表)	⇔【数学】 情報を表やグラフを用いて整理する	
	整理・分析			単元と評価の計画」をもとに記載する。 資質・能力の評価を行う場合は，【 】 の中に評価する資質・能力を記号で記載し，( )の中に評価方法を記載する。		
	まとめ・創造・表現			「課題発見・解決学習」の6つの過程のどの段階にあたるのかが分かるようにする。		
	実行				① ⇒ 総合の内容が後で学習する教科の内容に関連する ⇔ 総合と教科の内容がリアルタイムに関連する ② 【 】の中に関連する教科，【 】の下に内容を記載する。	
	振り返り					



# 本時の学習展開

1 本時の目標

2 本時の評価

評価規準	評価基準	
	A	
	B	
	C	

3 学習展開 (○限目/○)

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り
学習活動						評価規準 (評価方法)
導入	1 本時のめあてと学習の流れを確認する。 ①本時の活動の見通しをもつ。 ・実地調査を受け、○○○する。		①前回までの調査結果、資料を準備させる。			
	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【本時のめあて】</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;">本時のめあてを記載する。</div> </div>					
展開①	2 ① ②		① ②		..... ..... 【社-①】 (行動観察) (自己評価表)	
	導入・展開・まとめの流れが分かるように記載する。		「単元と評価の計画」をもとに記載する。 資質・能力の評価を行う場合は、【 】の中に評価する資質・能力を記号で記載する。			
展開②						
まとめ						

## 7 公開授業の指導案

	教科等 (指導案掲載ページ)	単元等	授業者	学級 (授業会場)
1	社会科 (p.72~76)	アジア州 ～急速に進む成長と変化～	佐藤 将文	1年6組 (106R教室)
2	数学科 (p.78~83)	関数 $y = ax^2$ ～関数の見方や考え方を広げよう～	菅 隆幸	3年6組 (306R教室)
3	理科 (p.84~88)	身の回りの物質とその性質 ～金属Xを推定せよ～	久保木 淳士	1年3組 (第1理科室)
4	英語科 (p.90~93)	Daily Scene 4 ～電話での会話～	溝部 良子	2年3組 (203R教室)
5	総合的な学習の時間 (p.94~98)	城北学区を盛り上げよう ～何もないとは言わせない! 私たちの城北学区～	松林 剛史	1年4組 (104R教室)
6	総合的な学習の時間 (p.100~104)	「働くこと」について考えを深めよう ～議論を通して～	石原 佑子	2年2組 (103R教室)
7	総合的な学習の時間 (p.106~111)	城北中夢プロジェクト ～私たちが描く未来のふくやま～	三登 千稔	3年5組 (102R教室)

13:30～14:20

※授業会場の場所は p.2 及び封筒裏をご覧ください。

※分科会は会場が変わりますのでご注意ください。

※1～4の教科については、分科会において、以下の視点で研究協議を行いますので、この視点で授業をご参観頂きますようよろしくお願いいたします。

**視点①：観察授業からの学び**  
**視点②：授業改善すべき内容**

## アジア州 ～急速に進む成長と変化～

本単元で育成する資質・能力

思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力  
他者とかがわる力 社会貢献力

## ① 単元について(単元観・生徒観・指導観)

## 1 単元観

本単元は、学習指導要領の地理的分野「(1)世界の様々な地域」の「ウ 世界の諸地域」に関わる単元である。この項目は、「州ごとにさまざまな面から地域的特色を大観させる」ことを通して「それぞれの州の地域的特色を理解させる」ことをねらいとしている。

このねらいを達成するため、羅列的な知識を身に付けるのではなく主題を設け探究する中で、地域的特色を明らかにしていくような学習を行う。また、アジア州の中でも地域ごとに特徴があることを理解させる。

小学校社会科では、学習指導要領に『「主な国」については、近隣の諸国を含めて取り上げるものとする』とあり、アジア州の中でもいくつかの国に特化して学習を行っている。本単元は、小学校での既習事項をさらに深めるとともに、アジア州という地域を大観することにより、より広く学習することができる単元である。

## 2 生徒観

課題の設定	解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみたい」と思います。	91.6%
	解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないか」と予想しています。	88.3%
情報の収集	課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。	66.5%
	課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。	67.9%
整理・分析	調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	67.4%
	情報を比べたり(比較)、仲間わけしたり(分類)、関係を見つめたり(関係付け)して、何がわかるかを考えています。	79.5%
まとめ・創造・表現	自分の考えを積極的に伝えています。	68.6%
	自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	70.5%
その他	授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	87.6%

生徒アンケートの結果から、「課題の設定」に対する意識は高いものの、「情報の収集」や情報を図、グラフ、表などにまとめるといった「整理・分析」、また自分の考えを伝えるといった「まとめ・創造・表現」における学習過程に課題がある。このことから、主体的に課題に取り組もうとする意欲は高いが、情報の収集方法や施行した結果の伝え方のような問題解決の方法を習得することに課題がある。

## 3 指導観

指導にあたっては、主体的な学習となるように、個人思考やグループ討議、ジグソー学習を積極的に取り入れる。

アジア州の学習では、主題を経済成長に設定することで、アジア州の経済成長の特徴をとらえることを通して、世界の地域に共通する普遍的な知識を身に付けていくことができるようにする。

まず、アジア州の基本的知識をおさえることを通してアジア州を大観させる。また、アジア州の中の各地域についてジグソー学習を用いて学び合いにより理解を深める。また、主題の設定については、生徒が自ら考えることができるように、身の回りにあるアジア州でつくられたものを探ることにより、アジアの工業化を身近に感じさせるようにする。事前に工場を建設する際にどのようなことに考慮すればよいかを具体的に示す。さらに、「なぜアジア州の国の中に経済成長を遂げた国があるのか。また、アジア州の中の各地域が今後どのような成長を遂げていくと考えられるのか」ということについて根拠をもとに説明することのできる力を身に付けさせることにより、アジアだけではなく今後学習するさまざまな「世界の諸地域に関する地理的認識を養う」ことができる。

授業の中で「情報の収集」、「整理・分析」の時間を十分に確保することにより、「情報の収集」や「整理・分析」、「まとめ・創造・表現」を行う力を伸ばしていくことが必要である。また、相手に分かりやすく伝える力を育成するためにも、発表の機会を確保し、お互いに評価しあうことで力を伸ばしていく。学習の過程で根拠をもとに自分なりの考えを発表するという思考力・判断力・表現力を高めることができるようにする。

## ② 単元の目標と身に付けさせたい力について

### 1 単元の目標

- (1) 自然環境，産業，生活，文化といったアジア州の特徴を理解することができる。
- (2) アジア州の中で，経済成長が著しい地域が多くあることを理解する。さらにその理由も理解することができる。
- (3) アジア州の調査を通して，様々な資料を適切に選択，活用してアジア州について多面的・多角的に考察することができる。
- (4) アジア州の中の特徴を捉え，今後アジア州がどのような成長を遂げていくことになるのかを考察することができる。

### 2 単元の評価規準

ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な 思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象について の知識・理解
①アジア州の自然環境，産業，生活・文化，歴史的背景などの特色について概観する中で，特に経済成長に関心をもち，設定された学習テーマを意欲的に追及している。 ②日常よく見かけるアジア製品などから，アジア州と自分たちの生活との関わりに関心を持っている。	①アジア州の経済成長について，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。 ②広範なアジア州の経済成長の過程を，地域ごとに理解するとともに，州全体の地域的特色を考察している。	①アジア州の人口増加，都市と農村の変化，国家間の結びつきなどについて表した主題図や写真などの資料を収集している。 ②収集した資料から，アジア州の地域的特色について有用な情報を適切に選択して，それを基に読み取ったり，図表などにまとめたりしている。	①アジア州について，変化に富む自然環境と，都市化が急速に進む様子を概観し，それぞれの基礎的・基本的な知識を理解している。 ②アジア州について，「経済の成長」の学習テーマを基に地域的特色を理解し，その知識を身に付けている。

3 本単元で育成を目指す資質・能力  
 (1) 本校の設定した資質・能力と本単元との関わり

資質・能力		特に身に付けさせたい力	本単元での育成・評価
知識・技能	知	①学習したことを自ら語れる力 (知の構造化)	—
思考力・判断力・表現力	思	①根拠をもとに、正しい判断をする力 (論理的思考力)	○
		②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力 (批判的思考力)	○
		③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力 (言語力)	○
主体的に学ぶ力	主	①自ら課題を見だし、解決しようとする力	○
他者とのかかわる力	他	①他者と協力して、課題を解決したり、目標に向かって取り組んだりする力	○
		②他者とのかわりを通して、自分の考えを深めたり広げたりしようとする力	○
社会貢献力	社	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	○
自己形成力	自	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	—
		②自信を持つ力	—

(2) 本単元で本校の設定した資質・能力を身に付けさせるための手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
思一①	根拠をもとにレポートを作成させる。
思一②	複数の根拠をもとに意見を作らせる。
思一③	レポートをまとめ、クラスでの発表を受けて、自分の意見を決定させる。
主一①	「どうしたらいいのだろうか」と感じることでできる課題を設定する。
他一①	グループでレポートを作成させる。
他一②	他のグループの発表を聞いて、個人思考の場を設定する。
社一①	今後発展するのはどのような地域なのか理解させる。

### ③ 単元計画

1 単元の全体像 (Ⅰ：学習内容、Ⅱ：学習活動、Ⅲ：単元として生徒に身に付けさせたい力)

Ⅰ アジア州について、Ⅱ アジアの産業の成長と変化を調べることを通して、  
 Ⅲ アジア州の地域的特色を理解を深め表現する力を身に付ける。

2 単元の終末で見取るパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準
あなたは、車とテレビと衣服を作る会社の新規工場建設チームの一員です。あなたの会社では新たに工場を建設することになりました。あなたは、どこに何を作る工場を建設することを提案しますか。社長を説得できるレポートを作成しなさい。	A 複数の根拠をもとに自らの結論を導き、聴き手に納得してもらうことのできるレポートを作成し発表することができている。
	B 根拠を基に自らの結論を導き、聴き手に分かりやすいレポートを作成して発表することができている。
	C グループと協力して、レポートを作成し、発表することができている。



### 3 学習内容と評価の計画

学習過程	時	○本時のめあて ●学習内容	評 価				
			関	思	技	知	
課題の設定	1	○アジアの国名や地形を調べることができる。 ●身の回りにあるアジア州で作られたものを探す。 ●アジア州にある国の名前を調べる。 ●アジアの地図に、山脈や川の名前などを記入する。 ●アジア各国にある建築物や名所を調べる。	◎			○	ア, エ-① アジア州の地図を完成させることができる。 (ワークシート)
情報の収集	2	○東アジア, 東南アジア, 南アジア, 西アジア, 中央アジアについて調べてまとめる。 ●同じ地域を調べる生徒で集まってまとめる。	○		◎		ウ-② それぞれが調べた情報をもちより <b>グループで協力してまとめようとしている。</b> (行動観察)【他-①】
整理・分析	3	○アジアの各地域の特徴について発表する。 ●各グループで発表する。 ●なぜ, 多くのものがアジアで作られているのか考える。 ●工場がどのようなところに立っているのか理解する。		○	○		イ-② アジアが成長している理由を <b>複数の視点から考えることができる。</b> (発表)【思-②】
整理・分析	4	○工場建設計画をたてることができる。 ●グループで考えて, 根拠となる資料を収集する。		○	○		ウ-② どこに工場を建てるのが現在最も有効なことなのか, <b>複数の根拠を用いて説明する資料を作ることができる。</b> (レポート)【思-①, ②】【主-①】
創造・まとめ・表現	5	○レポートを作成することができる。 ●資料をもとにグループで考え, レポートを作成する。		○	○		イ-① <b>グループで協力して</b> レポートを作成することができる。 (レポート・行動観察)【他-①, ②】
実行	6	○企画を説明し, 各グループの企画の中からより良い企画を決定しよう。 ●グループごとに発表を行い, グループで考えをまとめる。【本時】		◎	○		イ-① <b>聴き手が納得することができるように根拠をもとにした資料を用いてプレゼンテーションを行うことができる。</b> (発表)【思-③】
振り返り	7	○自分の考えを企画にまとめる。 ●すべてのグループの発表を聞いて, どこに工場を建設することが最も有効なのか, 自分の意見をまとめる。 ●今後, アジアの各地域がどのような発展を遂げることになるのかについて自分の意見をまとめる。		○			イ-① <b>聴き手が納得することができるように根拠をもとにした資料を用いてプレゼンテーションを行うことができる。</b> (行動観察)【思-③】 イ-① 今後, アジアの各地域がどのように発展していくのか <b>学習してきたことをもとに自分の意見をまとめることができる。</b> (ワークシート)【社-①】

## ④ 本時の学習

### 1 本時の目標

企画を説明し、各グループの企画の中からより良い企画を決定する。

### 2 本時の評価

評価規準（評価の観点）	評価基準	
ウ 聴き手が納得することができるように根拠をもとにした資料を用いてプレゼンテーションを行うことができる。【思-③】	A	複数の根拠をもとに自らの結論を導き、聴き手に納得してもらうことのできるレポートを作成し発表することができる。
	B	根拠を基に自らの結論を導き、聴き手に分かりやすいレポートを作成して発表することができる。
	C	レポートを作成し、発表することができる。

### 3 準備物

教科書，資料集，ワークシート

### 4 学習展開（6 限目/7）

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り
学 習 活 動			指導上の留意点			評価規準 (評価方法) 【資質・能力】
導入 (3分)	<b>【本時のめあて】</b> 企画を説明し、各グループの企画の中からより良い企画を決定しよう。					
	・本時のめあてを確認する。					
	展開① (10分)	・テレビ・自動車・衣服のグループをそれぞれ三つずつに分かれ、自分たちの企画の概略を発表する。(1グループ5分程度)  (H)…はっきり表現する	・聴き手が聴きやすいように、声や資料の提示の仕方などを工夫する。 ・聴き手は、メモを取りながら聞かせる。	ウ 聴き手が納得することができるように根拠をもとにした資料を用いてプレゼンテーションを行うことができる。(発表) 【思-③】		
	(10分)②	・グループ(4人)で質疑応答を行う。	・質問は、次の項目に注目しながら行うようにする。 項目 ①労働者のようす ②原材料の入手 ③市場			
	(15分)③	・グループでの考えを他の意見を参考に修正する。 (J)…じっくり考える	・自分の結論を導き出した根拠を明確にする。(どの資料からどのように考えたのか) ・別の視点から見ると、様々な考えがあることに気づかせる。			
(12分)まとめ	・グループの考えを発表する。 (K)…くり返し挑戦する	・グループの考えを根拠を明確にして発表する。				

# 関数 $y = ax^2$ ～関数の見方や考え方を広げよう～

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 思考力・判断力・表現力  
主体的に学ぶ力 他者とかわる力

## ① 単元について(単元観・生徒観・指導観)

### 1 単元観

本単元は、学習指導要領のC-(1)の、具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、関数 $y = ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見出し表現し考察する能力を伸ばすことをねらいとする。

第1学年では、比例、反比例、第2学年では、一次関数を取り扱っている。いずれも具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して関数関係を見出し表現し考察する能力を漸次高めてきている。

第3学年では、これまでと同様に、具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べることを通して、関数 $y = ax^2$ を考察する。その際、表、式、グラフを相互に関連付けながら、変化の割合やグラフの特徴など関数の理解を一層深める。また、比例、反比例、一次関数、関数 $y = ax^2$ 以外に、交通機関や宅配便の料金のように二つの数量の関係を式で表すことが困難な場合についても学習していくことで、関数関係の理解をさらに深める。

### 2 生徒観

下記の表は、本年度の全国学力・学習状況調査の結果の一部である。

項目	問題番号	問題の概要	正答率(%)		
			本校	広島県	全国
①	A問題 9	長方形の縦の長さや面積の関係を、「・・・は・・・の関数である」という形で表現する	24.2	21.9	20.6
②	A問題 12	線香が燃えるときの時間と長さの関係を表したグラフを基に、2cm燃えるときの時間を選ぶ	65.5	66.6	67.6
③	B問題 3(2)	与えられた表やグラフを用いて、貯水量が1500万 $m^3$ になるまでに5月31日から経過した日数を求める方法を説明する	23.8	19.2	18.4

特に表の①については、「縦の長さは面積の関数である」と回答した生徒が30.0%おり、関数関係を正確に捉えられていない生徒が多いことが分かった。また、②では「グラフの読み取り」、③では「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力」にもそれぞれ課題が見られた。

### 3 指導観

本単元の指導にあたっては、単元の導入やパフォーマンス課題においてなじみの深い図形や日常にある事象の数量関係に注目し、実験活動を通して、 $y = ax^2$ という関数を身近に感じさせるとともに、関心・意欲を持って学習に臨ませる。また、単元を通して、「問題解決的な学習」を基本にしながら、学習した事や思考の過程を整理させるなど書く活動に重点を置き、論理的思考力や表現力の向上を図る。さらに、全員が課題解決できることを目指し、意図的に4人班やペアワークを仕組み、教え合いの場や考えを共有する場を設定する。また、本単元の学習に対する「学びの足跡」が残せるよう、コンセプトマップやワークシート、思考ツール等の工夫・提示を行う。このことによって、関数に対する意味や理解を深めさせる。

また単元全体を通して、特に以下の2点をポイントに置き指導を行う。

- ①日常的な事象の考察のために表や式、グラフを用いたり活用したりする場面を仕組む。
- ②問題解決の手法を数学的な表現を用いて的確に説明する場面を仕組む。

## ② 単元の目標と身に付けさせたい力について

### 1 単元の目標

- (1) 事象の中には関数  $y = ax^2$  としてとらえられるものがあることを知ることができる。
- (2) 関数  $y = ax^2$  について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解することができる。
- (3) 関数  $y = ax^2$  を用いて具体的な事象をとらえ説明することができる。
- (4) いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解することができる。

### 2 単元の評価規準

ア 数学への 関心・意欲・態度	イ 数学的な見方や考え方	ウ 数学的な技能	エ 数量や図形などについて の知識・理解
様々な事象を関数 $y = ax^2$ などとして捉えたり、表、式、グラフなどで表したりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題解決に活用して考えたり判断したりしようとしている。	関数 $y = ax^2$ などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象に潜む関係や法則を見い出したり、数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	関数 $y = ax^2$ の関係などを、表、式、グラフを用いて的確に表現したり、数学的に処理したりするなど、技能を身に付けている。	事象の中には関数 $y = ax^2$ などとして捉えられるものがあることや、関数 $y = ax^2$ の表、式、グラフの関連などを理解し、知識を身に付けている。

### 3 本単元で育成を目指す資質・能力

#### (1) 本校の設定した資質・能力と本単元との関わり

資質・能力	特に身に付けさせたい力	本単元での 育成・評価
知識・技能	知 ①学習したことを自ら語れる力（知の構造化）	○
思考力・ 判断力・ 表現力	思 ①根拠をもとに、正しい判断をする力（論理的思考力）	○
	②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力（批判的思考力）	○
	③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力（言語力）	○
主体的に学ぶ力	主 ①自ら課題を見いだし、解決しようとする力	○
他者とのかかわる力	他 ①他者と協力（協働）し、課題を解決しようとする力	○
	②他者とのかかわりを通して、自分の考えを深めたり広げたりしようとする力	○
社会貢献力	社 ①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	—
自己形成力	自 ①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	—
	②自信を持つ力	—

#### (2) 本単元で本校の設定した資質・能力を身に付けさせるための手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知一①	数学的用語を使った表現を常に心がけさせる。 コンセプトマップ（自作の単元構造図）により学習したことを構造的に整理させる。
思一①	表、式、グラフの特徴から関数 $y = ax^2$ の特徴を見い出し、その特徴を根拠にした説明をさせる。
思一②	課題解決のための見通しを持たせ、共有する場を設定する。
思一③	グループ内で全員が表・式・グラフ等を用いて考えを発表する場を設定する。
主一①	「なぜ？」「やってみよう」などと、自らが課題解決のための必然性を感じさせるようなパフォーマンス課題を設定する。
他一①	難易度の高い課題を設定するとともに、他者と協働（協力）して解決する場を設定する。
他一②	学習したことのまとめや振り返りを他者と交流する場を設定する。

### ③ 単元計画

1 単元の全体像（Ⅰ：学習内容、Ⅱ：学習活動、Ⅲ：単元として生徒に身に付けさせたい力）

Ⅰ 具体的な事象の中にある2つの数量関係について、Ⅱ それらの変化や対応を調べることを通して、Ⅲ 関数の理解を深めるとともに、関数関係を見出し表現し考察する能力を一層伸ばす。

2 単元の終末で見取るパフォーマンス評価

パフォーマンス課題①	評価基準	
<p>あなたは、ブランコの設計者です。ビルのオーナーから「アルプスの少女ハイジが乗っているブランコと同じブランコを私のビルに作ってくれ」と言われました。ハイジが乗っているロープの「長さ」を調べ、依頼者のビルに同じブランコが設置可能かどうか考察しなさい。</p>	A	他者と協力して、「長さ」と「周期」の関係を見だし、表、式、グラフのいずれかを用いて「長さ」を求め、考察をまとめることができている。
	B	他者と協力して、表、式、グラフ等から「長さ」を求める方法を理解し、その結果をもとに考察をまとめることができている。
	C	他者と協力して、ハイジのブランコのロープの長さを求め、考察をまとめようとしている。
パフォーマンス課題②	評価基準	
<p>陸上部のあなたはマラソンの練習をしています。あなたが一定の速さで走り、地点Aを通過した瞬間に、あなたを追い越そうと菅先生が地点Aから自転車であなたと同じ方向に走り出しました。菅先生はあなたに追いつくことができるかできないか教えてください。</p>	A	他者と協力して結論を導き、その結論を表や式、グラフ等の数学的な表現を用いて、的確に説明することができる。
	B	他者と協力して、資料から必要な情報を取り出し、それを表や式、グラフ等で整理・分析して結論を導き出すことができている。
	C	他者と協力して、資料から必要な情報を取り出し、課題を解決しようとしている。

3 学習内容と評価の計画

学習過程	時	<input type="radio"/> 本時のめあて <input checked="" type="radio"/> 学習内容	評 価				
			関	考	技	知	
課題の設定	1	<input type="radio"/> 2つの数量関係を調べることができる <input checked="" type="radio"/> 2乗に比例する関数の存在 <input checked="" type="radio"/> 既習した関数との比較	○				評価基準 (評価方法) 【資質・能力】 ※評価基準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。 いろいろな事象と関数に関心を持ち、比例でも一次関数でもない <b>関数があることを自ら見いだそうとしている。</b> (行動観察) 【主-①】
情報の収集	2	<input type="radio"/> 関数 $y = ax^2$ の値の変化と対応について調べることができる <input checked="" type="radio"/> 関数 $y = ax^2$ の値の変化と対応		○			具体的な事象の中から関数 $y = ax^2$ の値の変化や対応の仕方について、 <b>表を使って調べ、説明することができる。</b> (ノート・発言内容) 【思-③】
	3	<input type="radio"/> 関数 $y = ax^2$ の式を求めることができる <input checked="" type="radio"/> 関数 $y = ax^2$ の式の求め方とその使い方			◎		与えられた情報から、関数 $y = ax^2$ の式を求めることができる。 (ノート・行動観察)
	4 5	<input type="radio"/> 関数 $y = ax^2$ のグラフをかくことができる <input checked="" type="radio"/> 関数 $y = ax^2$ のグラフの特徴とかき方				◎	
整理・分析	6	<input type="radio"/> 関数 $y = ax^2$ の表・式・グラフの関係を整理することができる <input checked="" type="radio"/> 表・式・グラフの関係の整理				◎	関数 $y = ax^2$ の表・式・グラフとの関係を <b>整理し、関連付けることができる。</b> (コンセプトマップ・行動観察) 【知-①】



情報の収集	7	<input type="radio"/> $y = ax^2$ の値の変化について調べることができる① <input checked="" type="radio"/> $y = ax^2$ の値の変化 (最大値・最小値・変域)				<input type="radio"/> 関数 $y = ax^2$ のグラフについて、最大値と最小値の意味を理解し、変域のあるグラフの最大値・最小値を読み取ることができる。(発言内容・行動観察)
	8	<input type="radio"/> $y = ax^2$ の値の変化について調べることができる② <input checked="" type="radio"/> $y = ax^2$ の値の変化 (変化の割合)				<input checked="" type="radio"/> 関数 $y = ax^2$ の変化の割合の意味を理解し、 <b>変化の割合が一定でないことを、表やグラフをもとに説明することができる。</b> (ノート・行動観察) 【知-①】
	9	<input type="radio"/> $y = ax^2$ の値の変化について調べることができる③ <input checked="" type="radio"/> $y = ax^2$ の値の変化 (変化の割合)			<input type="radio"/>	関数 $y = ax^2$ の変化の割合を求めることができる。(ノート・行動観察)
整理・分析	10	<input type="radio"/> これまで学習した関数の値の変化について、特徴を整理することができる <input checked="" type="radio"/> 比例・反比例・一次関数・関数 $y = ax^2$ の値の変化における特徴の整理				<input checked="" type="radio"/> 今まで学習してきた関数における値の変化の仕方について、 <b>グラフや表を使って、整理することができる。</b> (コンセプトマップ) 【知-①】
まとめ・創造・表現	11	<input type="radio"/> 学習したことを使って、図形の測量できる <input checked="" type="radio"/> 関数の活用 (図形の測量)			<input checked="" type="radio"/>	具体的な事象を、 <b>関数 <math>y = ax^2</math> を利用して考察し、自らの考えで結論を導くことができる。</b> (ワークシート・行動観察) 【思-①, ②, ③】
	12	<b>【パフォーマンス課題①】</b> <input type="radio"/> パフォーマンス課題①の解決方法を考えることができる <input checked="" type="radio"/> 関数の活用 (振り子の長さとの関係)			<input type="radio"/>	具体的な事象から取り出した2つの数量の関係について調べ、 <b>協動的に情報収集することができる。</b> (行動観察) 【主-①, 他-①】
	13	<input type="radio"/> 学習したことを使って、パフォーマンス課題①を解決することができる <input checked="" type="radio"/> 関数の活用 (振り子の長さとの関係) <b>【本時】</b>			<input checked="" type="radio"/>	<b>見いだした解決方法を使って、協動的に課題を解決することができる。</b> (ワークシート・行動観察) 【思-①, 他-①】
	14	<input type="radio"/> グラフを読み取ることができる <input checked="" type="radio"/> 関数の活用 (直線と放物線)			<input checked="" type="radio"/>	具体的な事象から、 <b>既習の関数関係を見いだし、その変化や対応の特徴を捉え、表や式、グラフなどを用いて課題解決することができる。</b> (ワークシート) 【思-①, ②, ③】
実行	15	<b>【パフォーマンス課題②】</b> <input type="radio"/> 学習したことを使って、パフォーマンス課題②を解決することができる <input checked="" type="radio"/> 関数の活用 (直線と放物線)			<input checked="" type="radio"/>	具体的な事象から、既習の関数関係を見いだし、関係について、 <b>自ら課題を設定し、協働して課題解決することができる。</b> (ワークシート) 【主-①, 他-①】
課題情報の設定集	16	<input type="radio"/> 未知の関数について調べることができる <input checked="" type="radio"/> これまでに学習してことのない、いろいろな関数 (三角関数・指数関数・対数関数・階段関数等) の存在を知る。			<input type="radio"/>	これまでに学習していない関数の存在に気づき、それらの特徴を自ら見いだそうとしている。(ワークシート・行動観察)
	17	<input type="radio"/> 階段関数を用いて問題を解決することができる <input checked="" type="radio"/> いろいろな関数 (階段関数)			<input checked="" type="radio"/>	具体的な事象から、2つの数量関係を表やグラフで整理し、そこから <b>必要な情報を表やグラフから読み取ることができる。</b> (ワークシート) 【思-①, ②, ③】
振り返り	18	<input type="radio"/> 学びの過程を振り返り学習した事をまとめることができる。 <input checked="" type="radio"/> 単元の学習の振り返り <input checked="" type="radio"/> 「関数」とは何か			<input checked="" type="radio"/>	<b>本単元を学習して、何を学習したのか、どんな知識・技能を得たのかを振り返ることができる。</b> (コンセプトマップ, 振り返りシート) 【知-①, 他-②】

## ④ 本時の学習

### 1 本時の目標

振り子の「長さ」と「周期」の関係に着目し、「長さ」が周期の2乗に比例する関係であることを見出し、表や式、グラフ等を用いて、協働的に課題解決をすることを通して、関数の意味やそれを活用することの楽しさを実感させることができる。


### 2 本時の評価

評価規準	評価基準	
イ 見いだした解決方法を使って、協働的に課題を解決することができる。  (ワークシート)【思-①, 他-①】	A	他者と協力して、「長さ」と「周期」の関係を見だし、表、式、グラフのいずれかを用いて「長さ」を求め、考察をまとめることができている。
	B	他者と協力して、表、式、グラフ等から「長さ」を求める方法を理解し、その結果をもとに考察をまとめることができている。
	C	他者と協力して、ハイジのブランコのロープの長さを求め、考察をまとめようとしている。

### 3 準備物

プロジェクター、パソコン、カメラ、ワークシート

### 4 学習展開 (13限目/18)

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り														
	学 習 活 動 ○予想される生徒の思考		指導上の留意点			評価規準 (評価方法) 【資質・能力】														
導 入 (10分)	<p><b>【パフォーマンス課題①】</b> あなたは、ブランコの設計者です。ビルのオーナーから「アルプスの少女ハイジが乗っているブランコと同じブランコを私のビルに作ってくれ」と言われました。 ハイジが乗っているロープの「長さ」を調べ、依頼者のビルに同じブランコが設置可能かどうか考察しなさい。</p>																			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のめあての確認をする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○「長さ」ってどうやって調べたらよいのだろうか。</div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>「アルプスの少女ハイジ」のオープニングの映像を流し、本時の課題とめあてを確認させる。</li> </ul>																	
<p><b>【本時のめあて】</b> 学習したことを使って、パフォーマンス課題①を解決することができる</p>																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の振り返りをする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○そういえば、「長さ」を変えたときだけ、「周期」が変化していたな。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>「長さ」と「周期」の関係を調べた結果を確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○「長さ」と「周期」にはどんな関係があるのかな。</div> <p>《提示する実験結果(イメージ)》</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>長さ(m)</td> <td>0.2</td> <td>0.4</td> <td>0.8</td> <td>1.2</td> <td>1.6</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>周期(秒)</td> <td>0.9</td> <td>1.3</td> <td>1.8</td> <td>2.2</td> <td>2.5</td> <td>2.8</td> </tr> </table>		長さ(m)	0.2	0.4	0.8	1.2	1.6	2.0	周期(秒)	0.9	1.3	1.8	2.2	2.5	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り子運動では、「周期」は「重さ」や「振れ幅」には、関係性がないことと、「長さ」と「周期」の間には、関係性がありそうということなどを実験により調べたことを確認させる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>あらかじめ「長さ」と「周期」の関係について、実験をしておき、その結果を表にまとめておく。</li> <li>「長さ」と「周期」の関係について実験結果を提示する。課題解決のためには、この表からどのようにして関係を調べたらよいかを考えさせる。</li> </ul>		
長さ(m)	0.2	0.4	0.8	1.2	1.6	2.0														
周期(秒)	0.9	1.3	1.8	2.2	2.5	2.8														

<p>展開① (25分)</p>	<p>◆個人思考 (4人グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験結果(表)をもとに、「長さ」と「周期」の関係を調べる。 (J)…じっくり考える)</li> </ul> <p>○「長さ」と「周期」は今まで学習してきた関数で表せるのかな。</p> <p>○式やグラフにして考えることはできるのかな。</p> <p>○「長さ」と「周期」の関係は、今まで学習した関数で表せそうにないぞ。</p> <p>○変化の仕方を調べると、「長さ」が4倍、9倍になると「周期」が2倍、3倍になっていそうだけど、これは2乗に比例しているといえるのかな。</p> <p>◆集団思考 (H)…はっきり表現する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「長さ」が「周期」の2乗に比例していることを確認する。</li> </ul> <p>○なるほど、「周期」が2倍、3倍になると、「長さ」が4倍、9倍になるという見方をすれば、「長さ」が「周期」の2乗に比例する関係だといえるんだね。</p> <p>○ということは、ハイジの乗っているブランコの「周期」が分かれば「長さ」が求められそう。</p> <p>○「長さ」は分かったけど、この結果を踏まえて、どのように考察を書けばいいのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以下のような視点を持たせ、「長さ」と「周期」との間にはどのような関係があるのかを見いださせる。  <b>視点1</b>: 何をx, 何をyとして変化と対応の仕方を調べればよいのかを確認させる。  <b>視点2</b>: 見いだした関数関係は、既習事項(比例・反比例・1次関数・関数<math>y = ax^2</math>)なのか、未習事項なのかを確認させる。  ※既習している関数(比例・反比例・1次関数・関数<math>y = ax^2</math>)の特徴や判別について前時までにはしっかりと定着させる。</li> <li>・関係を調べるために、表以外にもグラフや式を用いて考えてもよいことを伝える。</li> <li>・机間指導により、「長さ」が「周期」の2乗に比例する関係であることを見いだすことができているグループがあれば、そのグループの生徒に代表して説明させる。  また、式やグラフを使って関係を見い出そうとしたり、結論を導こうとする生徒がいれば、その考えについても、全体へ紹介し、共有するようにする。</li> <li>・「長さ」を求める際に、表だけでなく他の方法で求める考え方なども生徒の考え等も拾いながら提示し、共有する。</li> <li>・パフォーマンス課題の中にある、ビルに関わる情報を再度確認し、何を根拠にブランコを設置するのかを考えた上で考察を書くように指示する。</li> </ul>	<p>イ 見いだした解決方法を使って、協働的に課題を解決することができる。 (ワークシート) 【思-①, 他-①】</p>
<p>展開② (5分)</p>	<p>◆個人思考</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考察をワークシートにまとめる。 (H)…はっきり表現する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで整理した自らの考えと全体で共有した事गरら踏まえ、自らの考察をワークシートにまとめさせる。</li> <li>・机間指導により、個人でまとめることが難しい生徒については、他の生徒に説明を求めに移動してもよいことを指示する。</li> </ul>	
<p>まとめ (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめ、振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価及び本時の学習についての振り返りを書かせる。</li> </ul>	

## 身の回りの物質とその性質 ～金属Xを推定せよ～

本単元で育成する資質・能力

知識・技能  
主体的に学ぶ力思考力・判断力・表現力  
他者とのかかわる力

## ① 単元について(単元観・生徒観・指導観)

## 1 単元観

本単元は、中学校学習指導要領〔第1分野〕(2)「身の回りの物質」の「ア 物質のすがた (ア) 身の回りの物質とその性質」における『身の回りの物質の性質を様々な方法で調べ、物質には密度や加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを見い出すとともに、実験器具の操作、記録の仕方などの技能を身に付ける。』を受けて設定している。学習指導要領解説では、『観察・実験を行い、結果を分析して解釈し、物質の性質を見い出させることが主なねらいである。』という記述がある。

本単元の中では、小学校で扱った物質や金属・非金属など生徒にとって身近な物質について、その性質と変化に着目させながら、様々な異なる方法を用いた場合でも同一の物質が決定できる実験を十分経験させ理解させる。その経験から、物質の固有の性質や共通の性質についての知識や、その実験器具の操作、記録の仕方などの技能を習得させる。そして、単元の終末では、金属Xという未知の金属を徹底的に調べる探究活動を通して、学習した物質の確認方法について正確に実験を行い、結果から金属Xの正体を考察し、他者に説明できる科学的な思考力、表現力を付けさせる指導を行う。

## 2 生徒観

本単元の学習に入る前に、学習への取り組みに関するアンケート調査を行った。「理科で、自分の予想をもとに観察や実験の計画する」と肯定的な回答した割合は77.4%、「理科で、観察や実験の結果をもとに考察をする」と肯定的な回答した割合は88.8%であった。

また、平成29年度広島県「基礎・基本」定着状況調査の「課題発見・解決学習」に関する質問紙調査についてのアンケート調査を行った。ただし、以下の対象の生徒のデータは、本校による生徒アンケート(2017年6月実施)時の数値を示している。

項目	肯定的な回答した割合 (%)		
	生徒	広島県	平成29年度 本校2年生
授業では、解決しようとする課題について、『たぶんこうではないか』、『こうすればできるのではないか』と予想しています。	91.7	74.3	76.0
授業では、情報を、比べたり(比較)、仲間分けしたり(分類)、関係を見付けたりして(関係付け)、何が分かるのかを考えています。	86.1	66.0	73.8
学習の振り返りをするときには、『どこまで分かったか』、『学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由』を考えています。	82.9	59.0	69.8

さらに、活用に関する問題の実態調査を行った。平成24年度に実施された全国学力・学習状況調査の中学校理科における「知識を活用して、指摘することができるかどうか」をみる『活用』の類似問題(久保木改題)に取り組みさせたところ、正答率は69.4%であった。(広島県65.5%、全国66.0%)

この結果から、1つ目は「課題発見・解決学習」に関する意識についてはおおむね定着が図られているものの、2つ目は互いにその探究の内容を説明し結論を導き出すという過程から、結果を分析して解釈し、性質を見いだす力は、まだまだ不十分であると考えられる。

### 3 指導観

指導にあたっては、単元を通して日常の中で身近な物質の性質に関する興味・関心の高い生徒、さらには、物質の性質やその変化による特性を見い出すための知識と、物質を判別させるための実験などの技能を確実に習得している生徒の育成が必要であると考え。そのために、単元の指導にあたっては次の4点の指導に重点を置いた指導を行う。

1点目は、実験器具を正しく扱える技能の確実な習得をさせる。パフォーマンステストなどを通して、ガスバーナー、電子てんびん、メスシリンダーなどの器具を生徒一人一人が実験に安全に、かつ正確に取り組めるよう指導を行う。

2点目は、物質の性質を説明するための用語などの正確な意味を理解させる。そのために、フラッシュカードや語句とイラストが併記してあるカルタを使用して、授業のはじめに既習内容の確認を繰り返し行うことや小テストを継続的に取り組むことで、知識の定着を図る。

3点目は、目の前の事物・事象について「なぜ?」「どうして?」という疑問を抱き、知的欲求を持たせるような授業の展開から、生徒同士の交流・討論が生まれ、探究し、納得解を出す経験をさせるような問題解決的な探究学習を、本単元では2時間仕組む。生徒全員が共有できる追究課題を明示し、「話し合い、考え、討論する」「資料で調べる」「観察・実験」「まとめ」「振り返り」などの活動を単元の中に位置づける。理科における探究学習は、課題発見・解決学習が中心となるもので、従来の学習に比べて、より一層、個別或いは小グループによる主体的・意欲的な学習展開となることが期待できる。探究的な授業展開を行うために、導入で生徒に強い問題意識、達成欲求を抱かせる仕掛けを工夫して行う。

4点目は、生徒一人一人が主体的に学習に取り組み理解を深めるために、学習内容に応じて各自でレポートでのまとめを行い、その調べたことを他人に伝える活動を通して、既習事項の整理・分析をさせ、さらには表現力の向上も目指す。

単元の終末には、有機物・無機物・プラスチック・金属・非金属などの物質について習得させた上で、2時間程度、科学的に探究する過程を踏みながら未知の金属Xを調べる実験をさせる授業展開を行う。パフォーマンス課題として未知の金属を徹底的に調べる探究活動を行い、確認方法を密度という概念から正確に実験でき、結果からその金属の正体を考察させる学習活動を展開し、未知の金属を推定できるようになることをねらったものである。最終的には実験の過程や得られた結果、考察、まとめをレポートとしてまとめさせる。

互いにその探究の内容を説明し結論を導き出すという過程を通して、結果を分析して解釈し、物質の性質を見いだす経験をさせることで、科学的思考力・表現力の向上を目指す。

## ② 単元の目標と身に付けさせたい力について

### 1 単元の目標

- (1) 物質の性質を見いだす実験を行い、物質のもつ固有の性質や共通な性質について関心をもつことができる。
- (2) 物質の性質を見いだす実験の結果などに基づいて、性質について考察し、説明することができる。
- (3) 物質を判別する実験方法における基礎的操作や技能を身に付けることができる。
- (4) 物質の特性の基本的な概念について理解することができる。

### 2 単元の評価規準

ア 自然現象への 関心・意欲・態度	イ 科学的な思考・表現	ウ 観察・実験の技能	エ 自然現象についての 知識・理解
①いろいろな物質の性質に関する事物・現象に進んで関わり、意欲的に観察、実験を行っている。 ②それらの事象に関して進んで探究しようとしたり、人間生活との関わりでみたりしようとしている。	①物質の性質に関する事物・現象の中に問題を見だし、目的意識を持って観察・実験などを行っている。 ②事象や結果を分析して解釈し、自らの考えを持って、ワークシート、レポート、発表・討論などで表現している。	①実験器具の操作、物質を判別させるための観察、実験の基本操作を習得している。 ②観察・実験の計画的な実施や、過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	①いろいろな物質性質に関する事物・現象について基本的な概念や規則性を理解し、知識を身に付けている。



### 3 本単元で育成を目指す資質・能力

#### (1) 本校の設定した資質・能力と本単元との関わり

資質・能力		特に身に付けさせたい力	本単元での育成・評価
知識・技能	知	①学習したことを自ら語れる力（知の構造化）	○
思考力・判断力・表現力	思	①根拠をもとに、正しい判断をする力（論理的思考力）	○
		②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力（批判的思考力）	○
		③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力（言語力）	○
主体的に学ぶ力	主	①自ら課題を見だし、解決しようとする力	○
他者とのかかわる力	他	①他者と協力して、課題を解決したり、目標に向かって取り組んだりする力	○
		②他者とのかかわりを通して、自分の考えを深めたり広げたりしようとする力	○
社会貢献力	社	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	—
自己形成力	自	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	—
		②自信を持つ力	—

#### (2) 本単元で本校の設定した資質・能力を身に付けさせるための手立て


資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知ー①	物質の種類による特性をまとめ体系化する際、分類の視点を与える。
思ー①	実験の結果どのようなことが言えるのかという、実験結果と結論の相関関係を明確にする。
思ー②	物質の性質を確かめるための実験方法について既習事項からいくつか考えさせる。
思ー③	結論先行型で、理由も含めて相手に伝えるように促す。
主ー①	単元を通して、物質のもつ特性について判断するための視点を持つことの大切さを伝え、単元のゴールイメージを持たせる。
他ー①	生徒一人一人に役割を持たせ、分担をすることで責任をもって実験を行えるようにする。
他ー②	自分と考えと他者の考えの共通点・相違点について意識して話を聞くように促す。

## ③ 単元計画

### 1 単元の全体像（Ⅰ：学習内容、Ⅱ：学習活動、Ⅲ：単元として生徒に身に付けさせたい力）

Ⅰ物質の固有の性質や共通の性質を見出すことについて、Ⅱ予想を立て物質の性質を調べる実験を行い、結果を整理・分析し解釈することを通して、Ⅲ科学的に探究する能力の基礎と態度を身に付ける。

### 2 単元の終末で見取るパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準
<p><b>Science Mission</b> ～江戸時代の小判は純金か調べよ～</p>  <p>未知の金属Xについての予想を立て、どのような点に着目し調べればよいかという実験方法を考え、目的意識をもって観察、実験を行い、未知の金属Xを推定しよう。</p>	<p>A 未知の金属の検証実験を立案・実行しており、実験の結果を整理・分析し解釈し、複数の情報から金属の物質名を推定し、その過程をレポートにまとめている。</p> <p>B 未知の金属の検証実験を立案・実行しており、実験の結果を整理・分析し解釈し、金属の物質名を推定している。</p> <p>C 未知の金属の検証実験を行い、金属の物質名を推定している。</p>

3 学習内容と評価の計画

学習過程	時	○ 本時のめあて ● 学習内容	評 価			
			関	考	技	知
			評価規準 (評価方法) 【資質・能力】		※評価規準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。	
課題の設定	1	○江戸時代の小判は純金か？金属Xを見分けるにはどのような方法があるか？ ●江戸時代の小判であると思われる金属Xについて、どのような実験により確かめるか検討を行い、次時以降の実験の内容を理解する。	◎			ア② 物質の性質に関する事物・現象に関して <b>進んで探究しよう</b> したり、人間生活との関わりでみたりしようとしている。 (行動観察) 【主-①】
						イ① 物質の見分け方について自らの考えを導き、表現することができる。その際、 <b>自分の考えについて相手を意識して伝え、他者の意見と自分の考えの共通点・相違点を意識して聞き、自分の考えを深めたり、広めたりすることができる。</b> (行動観察, ワークシート) 【思-③, 他-②】
情報・の 分析	2	○金属を分類する視点を持つ！ ●数種類の金属についてさまざまな実験を行い、実験結果を記録する。 ●金属には特有の性質があることを知り、それらを分類する実験をもとに、さまざまな金属と比較しながら金属・非金属の特性について整理することができる。			◎	ウ① 金属を分類する実験を安全に正確に計画的に実施し、 <b>結果の記録や整理などの仕方を身に付けることができる。</b> (レポート, 行動観察) 【知-①】
まとめ・ 創造・ 表現	3	○金属の見分け方を追究しよう。その1 ●金属には密度があることを知り、それらを分類する実験をもとに、さまざまな金属と比較しながら金属の密度について整理することができる。			◎	エ① 金属を密度の概念を用いて分類することを通して、それらの基本的な概念を理解し、 <b>知識を身に付け学習したことを自ら説明することができる。</b> (行動観察, ワークシート) 【知-①】
	4	○金属の見分け方を追究しよう。その2 ●身近にある金属について密度を用いて判別する実験から、それぞれの金属がもつ密度の違いを比較し、金属を分類する視点を知る。 ●密度についての基本的な概念を理解する。			◎	ウ② 金属を密度の概念を用いて分類することを通して、それらの基本的な概念を理解し、 <b>実験の計画的な実施や、過程や結果を的確に記録・整理できる。</b> (行動観察, ワークシート) 【知-①】
実行	5	Science Mission ○江戸時代の小判は純金か！？ ～金属Xを推定せよ！～ ●江戸時代の小判であると思われる金属Xについて仮説を立て、これまで学習した物質の調べ方を参考にし、検証実験の計画を立てることができる。 ●計画した検証実験を行い、実験から得た複数の情報や、他者の行った結果の情報をもとに金属Xの正体を推定できる。	○			ア① 金属Xを調べることについて自ら進んで実験を行うことができる。また、 <b>自ら課題を見だし、解決しようとしている。</b> (行動観察, ワークシート) 【主-①, 他-①】
						イ② 物質を特定するための実験結果を整理・分析し解釈することを通して、その物質の特性などについて <b>正しい根拠のもと判断した考えを導き出し、表現することができる。</b> (ワークシート) 【思-①, ②】
振り返り	6	○探究活動を振り返ろう。 ●これまで行った検証実験の結果、考察、結論をレポートにまとめ、物質を調べた活動を通して自分の考えを記述し、探究活動を振り返ることができる。			◎	イ② 物質を調べるための実験を計画的に班の仲間と実施できたかや、結果の記録や整理の仕方などをふり返り、これまで学習した物質の調べ方について <b>自分の考えを記述することができる。</b> (レポート) 【他-②】

## ④ 本時の学習

### 1 本時の目標

未知の金属の正体を確かめる実験を実行し、その金属を推定することができる。

### 2 本時の評価

評価規準 (評価の観点)	評価基準	
イ② 物質を特定するための実験結果を整理・分析し解釈することを通して、その物質の特性などについて <b>正しい根拠のもと判断した考えを導き出し、表現</b> することができる。 (ワークシート) 【思-①, ②】	A	未知の金属の検証実験を立案・実行しており、実験の結果を整理・分析し解釈し、その過程を課題と考察・結論が正対した形で正確にノートに記録している。また、複数の情報から未知の金属を推定している。
	B	未知の金属の検証実験を立案・実行しており、実験の結果を整理・分析し解釈し、その過程をノートに記録している。また、発生する金属を推定している。
	C	未知の金属の検証実験を行っている。

### 3 準備物

小判, メスシリンダー, スポイド, 電子天秤, 電卓, ホワイトボード, マジック

### 4 学習展開 (5 限目/6)

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り
	学 習 活 動		指導上の留意点			評価規準 (評価方法) 【資質・能力】
導入 (5分)	1. 小判 (未知の金属) を提示する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>小判を提示し、小判は何で出来ているかを質問することで小判の物質に注目させる。</li> <li>「金は1gで約5千円、この量だと百万円以上」など物体の価値に注目させる。</li> </ul>			
【本時のめあて】江戸時代の小判は純金か！？ ～金属Xを推定せよ！～						
展開 (40分)	2. 予想し、実験の計画を考える。 (J)…じっくり考える <実験計画の例> ①小判一枚あたりの質量を電子天びんで測定する ②小判を数枚用いて、メスシリンダーの体積を測定する。 ③密度を計算して求める。 ※②～③を繰り返して行い、平均値を求める。 (K)…繰り返し挑戦する		<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を解決するために、金属の種類やその特性を示した表を提示する。</li> <li>机間指導をし、質量と体積を測定し、密度を算出する実験を想起させる。</li> <li>道具の準備や実験の分担などの役割分担を明確にさせる。</li> </ul> A: 小判の準備 ⇒班で計画した実験に応じて、最大10枚まで貸し出す。 B: メスシリンダー ⇒割らないように注意する。 C: 電子天秤 ⇒使用方法を教え、目盛の読み方を指導する。 D: ムードメーカー (リーダー) ⇒実験の記録や電卓などの使用			ア① 金属Xを調べることについて自ら進んで実験を行うことができる。また、 <b>自ら課題を見だし、解決しようしている。</b> (行動観察, ワークシート) 【主-①, 他-①】
	3. 実験する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>結果を整理し、考察、結論を個人で考えさせる。</li> <li>各班の結果を比較し、数値に差がある原因を考えさせる。</li> <li>ホワイトボードを活用し、各班の実験結果を整理させる。</li> </ul>			イ② 物質を特定するための実験結果を整理・分析し解釈することを通して、その物質の特性などについて <b>正しい根拠のもと判断した考えを導き出し、表現</b> することができる。 (ワークシート) 【思-①, ②】
(5分) まとめ	4. 交流する。 (H)…はっきり表現する		<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的に探究する過程で用いた考え方や実験などの<b>技能の振り返りを行わせる。</b></li> </ul> ①班や全体の場で、自分の考えを発言できましたか。 ②仮説 (予想) を立て、実験の計画を立てることができましたか。 ③課題と考察が正対している実験ノートを書けましたか。 ④今日の授業は楽しかったですか。			
	5. 結果を確認する。					
	6. 振り返りを行う。					

## Daily Scene 4 ～電話での会話～

本単元で育成する資質・能力

思考力・判断力・表現力

## ① 単元について(単元観・生徒観・指導観)

## 1 単元観

本単元は、電話での会話を場面設定としている。電話の場面は全学年を通して取り上げられており、レベルアップをしながら繰り返し学習することになっている。本単元は、友だちを遊びに誘うという内容で、電話特有の表現だけでなく既習事項を活用して友だちを誘うという実際の言語使用場面である。友だちを誘う時や誘いを断る時も理由をつけて表現するといったように、電話の表現だけでなく、自分自身のことを伝える表現力のレベルアップも求められており、学習指導要領の「ア 聞くこと」の「(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること」と「イ 話すこと」の「(イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること」ができる生徒の育成を目標とした単元でもある。

## 3年間を通しての電話での会話表現

	電話表現	
	電話をかける側	電話を受ける側
1 学年	・ Hello, Erika? This is Yun-ho.	・ Hello?
2 学年	・ Hello? This is Meg. ・ May I speak to Erika, please? ・ Is this Mrs. Takigawa? ・ I'll call back later. ・ Oh, I'm sorry.	・ Hello? ・ Sure. Just a second. ・ Yes. ・ Speaking. ・ Sorry. But she's out right now ・ Sorry. You have the wrong number.
3 学年	・ 1・2 学年次での既習事項 ・ No, it's OK. Can I leave a message? ・ Could you tell her to call me back?	・ 1・2 学年次での既習事項 ・ Do you want her to call you back? ・ Would you like to leave a message?

## 2 生徒観

今年度の「基礎・基本」定着状況調査における英語の通過率は次の通りである。

## 「基礎・基本」定着状況調査 英語

全体平均通過率		78.6	タイプ I	80.5	タイプ II	68.1
		項目				通過率
タイプ I	会話の場面に応じて適切に英文を書く					56.4
	自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるように話す					46.8
タイプ II	根拠となる英文の読み取り					56.4
		項目				肯定的回答
生徒 質問紙	英語の授業では自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。					71.1
	英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについてメモを取ったり、感想や意見などを話したり、書いたりしています。					68.9
校内アンケート	授業では、自分の考えを積極的に伝えています。					69.6

課題は次の2つである。

- ①調査問題の「場面に適した表現で自分の意見を相手に正しく伝える」ことの通過率が目標値である70より下回っている。
- ②生徒質問紙、校内生徒アンケート項目の、「積極的に自分の感想や意見などを話したり、書いたりしている。」の肯定的回答の割合が少ない。

### 3 指導観

平成29年度広島県高等学校入試は、活用の問題に重点が置かれ、表現力を問うものが約4割程度出題されている。このことから、生徒が興味を持って、そして目標を持って意欲的に自己表現活動することを繰り返すことを通して、基礎基本事項の定着を図るような授業づくり、実践を継続していくことがさらに必要である。本単元では、「電話で福山観光にALTを誘おう。」という終末課題（パフォーマンス課題）を設定している。終末課題に向けて、電話の場面での会話練習を繰り返し行うことを通して、状況に応じた適切な表現を使って、自分の考えや気持ち、事実などを正しい英語で相手に伝える力を育成することを目標に次の2つに重点を置いて指導をしていきたい。

- ① 基本表現の定着のために、話し手からの様々な働きかけを想定した活動を繰り返し行う。
- ② 全ての生徒が授業内容を理解し、授業に参加できるようにペアワークを中心にした授業展開をする。

また、以上のことを踏まえ、本時では、電話で友だちを遊びに誘う活動をペアワークで繰り返し行うことを通して、電話の基本表現の定着を図り、質問や依頼などを聞いて適切に応じることができるように指導していきたい。

## ② 単元の目標と身に付けさせたい力について

### 1 単元の目標

- (1) 電話の場面や状況に応じた適切な表現を考えて、自分の考えや気持ち、事実などを相手に正しく伝える。(外国語表現の能力)
- (2) 電話の場面での質問や依頼などを聞いて適切に応じる。(外国語理解の能力)
- (3) 取り次ぎや伝言を頼むなど、電話の場面での会話に積極的に取り組んでいる。  
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (4) 電話の場面で使用する表現の使い方に関する知識を身に付けている。(言語や文化についての知識・理解)

### 2 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの意欲・態度・関心	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
①取り次ぎや伝言を頼むなど、電話の場面での会話に積極的に取り組んでいる。	①電話の場面や状況に応じて、自分の考えや気持ち、事実などを相手に正しく伝えることができる。	①電話の場面での質問や依頼などを聞いて適切に応じることができる。	①電話の場面で使用する表現の使い方に関する知識を身に付けている。

### 3 本単元で育成を目指す資質・能力

#### (1) 本校の設定した資質・能力と本単元との関わり

資質・能力	特に身に付けさせたい力	本単元での育成・評価
知識・技能	知 ①学習したことを自ら語れる力 (知の構造化)	—
思考力・判断力・表現力	思 ①根拠をもとに、正しい判断をする力 (論理的思考力)	—
	②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力 (批判的思考力)	○
	③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力 (言語力)	○
主体的に学ぶ力	主 ①自ら課題を見だし、解決しようとする力	—
他者とのかかわる力	他 ①他者と協力して、課題を解決したり、目標に向かって取り組んだりする力	—
	②他者とのかわりを通して、自分の考えを深めたり広げたりしようとする力	—
社会貢献力	社 ①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	—
自己形成力	自 ①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	—
	②自信を持つ力	—

#### (2) 本単元で本校の設定した資質・能力を身に付けさせるための手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
思-②	電話の場面で起こりうる様々な状況を想定させ、それに応じた対応(表現)を考えさせる。
思-③	電話の場面や状況に応じて、自分の考えや気持ち、事実などを相手に正しく伝えることができるように、ペアでスキット練習・スキット作成をさせる。



### ③ 単元計画

#### 1 単元の全体像（Ⅰ：学習内容、Ⅱ：学習活動、Ⅲ：単元として生徒に身に付けさせたい力）

Ⅰ 福山観光にALTを誘うために、Ⅱ 電話の場面でのスキット練習をしたり、実際にスキットを作成したりすることを通して、Ⅲ 電話の場面や状況に応じた適切な表現を考えて、自分の考えや気持ち、事実などを正しい英語で相手に伝える力を身に付ける。

#### 2 単元の終末で見取るパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準	
あなたの学校に新しいALTがやってきました。英語の授業でALTに福山を案内することになりました。ALTに電話をかけて来週の予定を確認し、福山観光に誘いましょう。	A	・電話の場面や状況に応じた適切な表現を考えて、自分の考えや気持ち、事実などを正しい英語で相手に伝えている。
	B	・電話の場面や状況に応じた適切な表現を考えて、自分の考えや気持ち、事実などを英語で相手に伝えている。 ・内容を理解する上で支障のない誤りがある。（冠詞、前置詞、複数形など） ・内容を理解する上で支障のある誤りがいくつかあるが全体の内容はおおむね理解できる。（時制の間違い、語順など）
	C	・電話の場面や状況に応じた適切な表現を考えて、自分の考えや気持ち、事実などを英語で相手に伝えていない。 ・内容を理解する上で支障のある誤りが多く内容が理解できない。（動詞、時制の間違い、語順など）

#### 3 学習内容と評価の計画

学習過程	時	○本時のめあて ●学習内容	評 価					
			関	表	理	知	評価規準 (評価方法) 【資質・能力】	※評価規準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。
課題情報の設定	1	○正しい英語で電話をかけ、かかってきた電話に対応することができる。 ●教科書の電話スキットを学習することを通して、電話表現、誘いの表現などを確認する。					エ① 電話の場面で使用する表現の使い方に関する知識を身に付けている。（ペーパーテスト）	
整理・分析	2	○電話で友だちを遊びに誘ったり、誘いに答えたりすることができる。 ●前時に学習した電話表現、誘いの表現を使って、実際に友だちを遊びに誘う。【本時】			◎		ウ① 電話の場面での質問や依頼などを聞いて適切に応じることができる。 (行動観察・ワークシート・ペーパーテスト) 【思-②】	
創造・表現	3	○ALTのマリセル先生を福山観光に電話で誘うシミュレーションスキットを作ることができる。 ●前時に学習した電話表現、誘いの表現を使って、実際にALTを福山観光に誘うスキットを作成する。			◎	○	イ① 電話の場面や状況に応じて、自分の考えや気持ち、事実などを相手に正しく伝えることができる。 (行動観察・ワークシート) 【思-③】 エ① 電話の場面で使用する表現の使い方に関する知識を身に付けている。(行動観察・ワークシート)	
振り返り	4・5	○ALTに電話をかけて来週の予定を確認し、福山観光に誘うことができる。 ●ALTとの個別インタビューテストを受ける。単元テスト(ペーパーテスト)を受ける。	○	◎	○	○	ア① 取り次ぎや伝言を頼むなど、電話の場面での会話に積極的に取り組んでいる。 (インタビューテスト・ペーパーテスト) イ① 電話の場面や状況に応じて、自分の考えや気持ち、事実などを相手に正しく伝えることができる。 (インタビューテスト・ペーパーテスト) 【思-③】 ウ① 電話の場面での質問や依頼などを聞いて適切に応じることができる。 (インタビューテスト・ペーパーテスト) 【思-②】 エ① 電話の場面で使用する表現の使い方に関する知識を身に付けている。 (インタビューテスト・ペーパーテスト)	

## ④ 本時の学習

### 1 本時の目標

電話の場面での質問や依頼などを聞いて適切に応じることができる。

### 2 本時の評価

評価規準 (評価の観点)	評価基準	
ウ① <b>電話の場面での質問や依頼などを聞いて適切に応じることができる。</b> (行動観察・ワークシート・ペーパーテスト) 【思-②】	A	電話の場面での質問や依頼などを聞いて適切に応じることができる。
	B	電話の場面での質問や依頼などを聞いておおむね理解できており、応じることができる。
	C	電話の場面での質問や依頼などを聞いてほとんど理解できていない、または、適切に応じることができない。

### 3 準備物

ワークシート

### 4 学習展開 (限目 2/5)

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り
学 習 活 動		指導上の留意点			評価規準 (評価方法) 【資質・能力】	
導入 (7分)	1. スーパーインプット (ペアワーク) 2. 前時の復習 電話表現の確認 (ペアワーク)		<ul style="list-style-type: none"> <li>基本表現の定着状況を確認する。</li> <li>支援が必要な場合は、個別に声かけをし、全体でもう一度確認をする。</li> </ul>			
<b>【本時のめあて】</b> 電話で友だちを遊びに誘ったり、誘いに答えたりすることができる。						
展開 (33分)	3. 電話での会話の様々なパターンを想定したスキットの確認 (個人) (I…じっくり考える)		<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての生徒が活動に参加できるように配慮する。</li> <li>指示は短く、的確にする。</li> <li>生徒の理解を確認しながらすすめる。</li> </ul>			ウ① <b>電話の場面での質問や依頼などを聞いて適切に応じることができる。</b> (行動観察・ワークシート) 【思-②】
4. 友だちを遊びに誘う (ペアワーク) ①友だちを何に誘うか考える。 例) 映画, サッカーをする, USJ に行くなど ②電話をかける側と受ける側を決める。 ③実際に電話をかけ、遊びに誘う 終わったら交代 (K…くり返し挑戦する)		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒によるデモンストレーションで活動のイメージを持たせる。</li> <li>活動の具体的な指示を行う。</li> <li>※ 1回目 相手呼び出すパターン 2回目 本人が最初から電話にでるパターン 3回目 相手が不在の時のパターン 4・5回目 どのパターンがくるかは電話を受ける側の選択に任せる</li> </ul>				
5. 代表生徒によるパフォーマンス (H…はっきり表現する)		<ul style="list-style-type: none"> <li>発表する生徒                             <ul style="list-style-type: none"> <li>はっきりと相手に伝わるように発表するように指示する。</li> </ul> </li> <li>発表を聞く生徒                             <ul style="list-style-type: none"> <li>聞くポイントを伝え、聞いた後にプリントにまとめる。</li> </ul> </li> </ul>				
		ポイント				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>どのパターンの電話表現であるか。</li> <li>何に誘っていたのか。</li> </ul>				
まとめ (10分)	6. 確認テスト 電話の場面での会話において適切なものを選択肢の中から選ぶ。					ウ① <b>電話の場面での質問や依頼などを聞いて適切に応じることができる。</b> (ペーパーテスト) 【思-②】

## 城北学区を盛り上げよう

## ～何もないとは言わせない！私たちの城北学区～

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力  
他者とのかかわる力 社会貢献力 自己形成力

## 単元について

## 1 生徒観

本学年の生徒は、小学校での総合的な学習の時間において、それぞれの小学校区の自然や歴史等について、ゲストティーチャーを招いたり、インターネットで検索したりして調べ、模造紙にまとめたり、紹介ビデオを作成したりする学習を行っている。

福山市について知っていることを交流した際、城北学区の中では福山城、歴史博物館、美術館、人権平和資料館などの文化施設や自分が生活している小学校区についてよく知っている生徒が多かった。しかし、隣接する小学校区については知らないことが多かった。

また、課題解決をしようとする（表1の①）こと、情報を整理・分析する（表1の③）意欲は高いが、自ら情報収集する（表1の②）こと、進んで考えを伝える（表1の④）意欲は低い。このことから、本校で設定した「育てたい資質・能力及び態度」については、「主体的に学ぶ力」と「表現力」に課題があると言える。社会貢献力（表2）については、自ら地域をよりよくしたいと考えている生徒は9割以上（①+②+③）いるが、主体的に行おうとする生徒は3割程度（①）にとどまっている。以上のことから、やはり「主体的に学ぶ力」について課題があることが言える。

表1 「課題発見・解決学習」に係るアンケート結果

質問項目	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
①授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」「やってみよう」と思います。	52.7%	38.9%	5.9%	2.5%
②授業では、課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりしています。	23.8%	42.7%	25.5%	8.0%
③授業では、比較・分類・関連付けして、何が分かるかを考えています。	41.0%	38.5%	16.3%	4.2%
④授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。	39.1%	29.9%	23.7%	7.3%

表2 社会貢献力に係るアンケート結果（①の方がレベルが高い）

評価基準	生徒の割合
①地域や社会に対して疑問や課題意識を持ち、どうすれば地域や社会がより良くなるかを考え、自分ができることを考え、自らの責任で判断し、行動（実行）することができます。	31.9%
②普段から、地域や社会をよりよくするために、「こうしたい」とか「こうなってほしい」と考えるようにしています。	49.7%
③自らの意志で、ボランティア活動等に参加し、地域や社会に役立つようとしています。	13.2%
④まだ③の段階に達していない。	5.2%

## 2 単元観

本単元は、『福山市を盛り上げる』という大きなテーマから、自分たちで知っていることを交流し、企画を考えていく中で、自分たちが生活している『城北学区』に焦点化していき、パンフレットという制作物を活用して、情報を整理し、まとめ、城北学区の魅力を工夫して伝えるということを実行していくという単元である。

本単元の中では、生徒の課題となっている「表現力」と「主体的に学ぶ力」を身に付けさせるために、以下の3つの場面を仕組む。1つ目は、同級生や地域の人々との意見交換などの自分の考え

を表現する場面である。2つ目は、パンフレットをまとめる際に、新聞社の出前授業を取り入れることで、情報のまとめ方など、プロの技を学び実践する場面である。3つ目は、施設等で働く方々や街の人々など、様々な人と直接かかわる場面である。また、単元の学習を進めることにより、普段から地域や社会に対して疑問や、どうすれば地域や社会がより良くなるかという課題意識を持たせる。さらには、自分ができることを考えさせることで自らの責任で判断し、行動することができる生徒を育成し、『自己探究』の単元や2学年以降の『地域理解・社会貢献』の単元の学習につなげていく。

このように、自分の考えを表現したり、地域の人々と触れ合ったりしながら、社会貢献に向けて「課題発見」「課題の設定」「課題解決」の活動を行うことを通して、他者のために自分なりにできることを考え、主体的に行動できる生徒を育てるとともに、課題解決の過程において、筋道を立てて考え、その考えを進んで相手に伝えることで、協働して課題を解決する楽しさや充実感を味わってほしいと考え、この単元を構想した。

### 3 指導観

指導にあたっては、課題となっている「表現力」と「主体的に学ぶ力」を高めるために、特に次の2つに留意して学習を進めさせる。1つ目は、学習形態である。基本的には生活班で担当場所を決めて活動し、学級単位で授業を行うが、必要に応じて担当する小学校区単位で学習を進める。調べたり考察したりしたことを、各小学校区において共通認識を持ちやすい生徒同士で交流しあうことで、よりわかりやすいまとめに活かすことができ、考えを伝え合う必然性が生じるため、「表現力」を高めることができる。また、小学校区ごとのリーダーや編集係を設定することで、自分たちの活動として意識し、「主体的に学ぶ力」も身に付けさせることができる。2つ目は、学校外の多様な立場の人々とふれあう場面を設定することである。地域の人々の願いなどの生きた情報を収集することで、課題をより身近なものとしてとらえさせ、進んで情報収集する意欲を高めることができ、「主体的に学ぶ力」を身に付けさせることができる。さらに、地域の人に自分の考えを伝える場面を設定することで、場面に応じたコミュニケーションの取り方を学ばせながら、「表現力」を高めることができる。

それぞれの学習過程における指導のポイントは、次の通りである。

「課題の設定」の場面では、福山市について知っていることを交流し、盛り上げるための企画を考える中で、自分たちが生活している身近な地域のことについてあまり知らないということを自覚させる。

「情報収集」の場面では、各小学校区の公民館長など地域の方の話聞き、小学校区全般についての知識を習得した後に、関係施設や地域に出て調査を行うことで、様々な視点から施設の魅力や課題を見い出させる。

「整理・分析」の場面では、パンフレットの第1案を作成した後、新聞社の出前授業により、わかりやすくまとめるための視点を与えていただき、より魅力的なものになるよう仕上げさせる。また、企画書の作成では、実現の可能性と効果の有無を、座標軸を使って比較・検討させる。

「まとめ・創造・表現」の場面では、パンフレット、企画書の提案を行う。地域や関係施設の方にゲストティーチャーとして来ていただき、専門家からのアドバイスをしていただく。

「実行」の場面では、作成したパンフレットを配布したり工夫して掲示したりするなど、自分たちで考えた盛り上げるための企画を行わせる。

「振り返り」の場面では、毎時間の成果・課題を基に行うことで、単元を通してどのような力が付いたのか等、具体的に振り返らせる。また、これまでの学習過程で行ったゲストティーチャーや他のグループの生徒などの他者からの評価も活用して、振り返らせる。

単元を通して、「課題発見・解決学習」の6つのサイクルを繰り返すことで、考えを深めさせていく。

## 単元の目標

単元の活動を通して、城北学区の魅力を見出し、様々な人に紹介するためにはどうすればよいかを考え、提案・実行することができる。

## 育てたい資質・能力及び態度における評価規準

資質・能力		評価規準
知識・技能	知	①城北学区の施設等について理解を深めることができる。
思考力・判断力・表現力	思	①調べた情報から必要な情報を抽出し、自分なりにまとめることができる。 ②現状を踏まえ、これから何をすべきかを自ら決定することができる。 ③相手に伝えたい内容を精選し、分かりやすく伝える工夫をすることができる。
主体的に学ぶ力	主	①自ら課題を見出し、課題解決の方法を考えることができる。
他者とのかかわる力	他	①仲間と話し合いながら、考えを深めることができる。 ②課題を解決するために、地域の人と話し合うことができる。 ③課題を解決した成果を地域の人と共有できる。
社会貢献力	社	①地域の魅力を発信するために、何をすべきかを考えることができる。
自己形成力	自	①課題解決に向けて、前向きにチャレンジすることができる。 ②単元を振り返り、城北学区について自信を持って紹介することができる。

## 単元と評価の計画

### 1 年間の指導計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元	「城北学区を盛り上げよう」～何もないとは言わせない！私たちの城北学区～（40時間）						「職業ロードマップをつくろう」（10時間）					
	地域理解・社会貢献						自己探究					

### 2 単元と評価の計画

小単元名	学習過程	時数	学習内容 学習活動	評価規準 (評価方法)	教科との関連
「城北学区を盛り上げよう」	情報の収集	1 2	○地域の文化や施設についての交流 ・単元ガイダンスを聞き、小学校で学んだことを交流する。(1) ・福山市について知っていることを交流する。(1)	【思-③】 (行動観察) (自己評価表)	
	整理・分析	3 4	○企画の検討 ・他地域の町おこし企画等を参考にして、福山市を盛り上げるための新たな企画を考える。(2)	【思-②】 (行動観察) (自己評価表)	⇒【英語】 福山市の好きな場所の紹介
	課題の設定	5 6	○企画の具体化 ・パンフレットを活用して地域を盛り上げるための具体的な方法を考える。(2)	【主-①】 (行動観察) (自己評価表)	

整理・分析 情報の収集	7 ～ 9	○企画の焦点化 ・調査範囲を城北学区に絞り込んで考える。(1) ・地図に書き出しながら交流する。(1) ・調査したいテーマを考える。(1)	【思-②】 【他-①】 (行動観察) (自己評価表)	
課題の設定	10 ～ 13	○調査場所の決定と準備 ・決定した調査場所について、家庭でのインタビューやインターネットを活用した事前調査の交流を行う。(1) ・質問項目の検討を行う。(1) ・電話の仕方を学び、事前連絡を行う。(1) ・行動計画を作成する。(1)	【思-③】 【主-①】 【他-①】 (行動観察) (自己評価表)	⇔【国語】 手紙の書き方 敬語の使い方
情報の収集	14 ～ 19	○調査の実行 ・学区の4公民館での聞き取り調査を行う。(3) ・調査場所での現地調査を行う。(3)	【知-①】 【他-②】 (行動観察) (自己評価表)	⇔【社会】 身近な地域の調査
整理・分析	20 ～ 22	○調査内容のまとめ ・調査内容のまとめを行う。(2) ・礼状を書く。(1)	【思-①】 (行動観察) (自己評価表)	
	23 ～ 28	○パンフレットの作成 ・タイトルや写真、記事の配置などを考え、パンフレットを作成する。(3) ・中国新聞の出前講座により、相手に伝えたいことをわかりやすく伝えるための工夫を学ぶ。(1) ・パンフレットの修正を行う。(2)	【思-③】 (行動観察) (自己評価表)	
	29 ～ 31	○企画書の作成 ・訪問施設を盛り上げるための企画を考える。(3)	【思-②】 【他-①】 (行動観察) (自己評価表)	
まとめ・創造・表現	32 ～ 34	○パンフレット、企画書の提案 ・地域の方にゲストティーチャーとして来ていただき、企画の提案を行う。(1)【本時】 ・いただいた意見をもとに、企画書の修正を行う。(2)	【社-①】 (行動観察) (ワークシート) (自己評価表)	⇔【国語】 ポスターセッションをしよう
実行	35 ～ 37	○企画の実行 ・企画実行のための役割分担・準備をする。(1) ・企画の実行をする(2)	【他-③】 【自-①】 (行動観察) (自己評価表)	
振り返り	38 ～ 40	○単元の振り返り ・学区内の小学4年生と、学習したことの交流をすることで、自分たちの活動についてアピールする。(2) ・学習前と学習後において、どのような力が付いたか、地域に対する考えがどのように変わったかを振り返る。(1)	【自-②】 (行動観察) (ワークシート) (自己評価表)	



## 本時の学習展開

### 1 本時の目標

企画のアイデアについて具体的に提案し、実現の可能性と効果の有無を吟味して考えることができる。

### 2 本時の評価

評価規準	評価基準	
地域の魅力を発信するために、企画を考えることができる。 (自己評価表) 【社-①】	A	現状を分析し、地域の魅力を発信するための具体的な計画を踏まえた企画を考えることができる。
	B	現状を分析し、地域の魅力を発信するための企画を考えることができる。
	C	地域の魅力を発信するための企画を考えることができる。

### 3 学習展開 (32限目 / 40)

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り
	学習活動			指導上の留意点		評価規準 (評価方法)
導入	1 本時のめあてと学習の流れを確認する。 ①本時の活動の見直しをもつ。 ・クラスの仲間や地域の方に発表する。 ・実現できるかどうか、効果があるかどうかを考える。			①パンフレットと企画を発表する手順や視点等を示す。 ・パンフレットを拡大して発表する。 ・発表のための役割分担をしておく。 ・発表しない班は、ワークシートに記入しながら発表を聞く。		
<b>【本時のめあて】</b> 地域の魅力を発信するためのよりよい企画を考えることができる。						
展開	2 パンフレットを紹介し、企画を提案する。 ①発表を聞き、地域の魅力について新たな気づきや良かった点をワークシートに記入する。 ②企画の実現の可能性や、効果を踏まえて気づきや意見をワークシートに記入する。			①城北学区について知らない人の立場でも考えさせる。 ②実現の可能性、効果の有無について吟味する際に指標となる項目を提示する。 実現→中学生にできるかどうか 金銭面、人手、時間、技術、施設の許可 等 効果→人が集まるか		<b>【社-①】</b> 地域の魅力を発信するために、企画を考えることができる。 (自己評価表)
③各班の発表に対して、気づきや意見を発表する。 ④ゲストティーチャーに、地域住民の視点から企画についての意見をいただく。			③よりよい企画を実現するために、考えを交流させる。 ④次時からの修正に活かせるように、重要だと思うことをメモさせる。			
まとめ	3 本時のまとめをする。 ①本時の振り返りをする。 ②次時の予告を聞く。			①地域の方の意見をふまえ、自分たちの企画と比較して考えさせる。 ②次時で企画の修正・準備を行うことを確認する。		

## 「働くこと」について考えを深めよう ～議論を通して～

本単元で育成する資質・能力  
 知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力  
 他者とのかかわる力 自己形成力

## 単元について

## 1 生徒観

表1・表2は、6月に行った生徒アンケートの結果である。本学級の生徒は、課題を解決しようとする意欲(表1の①)や自分の考えを積極的に伝える意欲(表1の④)が高い一方で、進んで情報を収集する意欲(表1の②)が低いことが課題である。また、思考力・判断力・表現力(表2)については、2学年全体に比べて本学級の生徒は相手に分かりやすく伝えることが苦手な生徒が多い。このことから、本校で設定した「育てたい資質・能力及び態度」については、「主体的に学ぶ力」と「思考力・判断力・表現力」に課題があると言える。

表3は、職場体験学習前に行った生徒アンケートの結果であり、「働くこととはどういうことだと思うか」について意識調査をしている。「お金をかせぐこと」と答えた生徒が最も多かったが、そう答えた生徒の中には「お金をかせぐこと」以外の回答をした生徒もいた。また、回答の理由は、あまり具体的でないものが多い。

表1 「課題発見・解決学習」に係るアンケート結果(肯定的評価の割合)

質問項目	本学級
①授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」「やってみよう」と思っています。【課題設定】	74.4%
②授業では、課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりしています。【情報の収集】	60.0%
③授業では、比較・分類・関連付けして、何が分かるかを考えています。【整理・分析】	65.0%
④授業では、自分の考えを積極的に伝えています。【まとめ・創造・表現】	70.0%

表2 思考力・判断力・表現力に係るアンケート結果(①の方がレベルが高い)

評価基準	本学級	2学年
①自分の考えを、学習した用語や図、表、グラフを用いて、分かりやすく伝え、相手を納得させることができます。	23.1%	26.7%
②自分の考えを、学習した用語や図、表、グラフを用いて、分かりやすく伝えることができます。	35.9%	44.9%
③自分の考えを、学習した用語や図、表、グラフを用いて伝えることができます。	33.3%	21.8%
④まだ③の段階に達していない。	7.7%	6.7%

表3 「働くこと」に関する意識アンケート結果(複数回答可)

回答	生徒の人数	そう答えた理由
①お金をかせぐこと	29人	お金がないと生きていけないから。生活する上で大切だから。 など
②世の中や他の人の役に立つこと	20人	役に立つことで人間関係の発展になるから。 働くことは、誰かを助けたり、支えたりすることがあると思うから。 など
③自分の夢をかなえること	12人	自分の夢をかなえたいから。 働いていたら、いつか自分のやりたかったことができると思うから。 など
④他の人とつながりをもつこと	12人	人とかかわらない仕事はないから。 みんなで助け合って、関わりを増やし、つながりを広げていくから。 など
⑤やりがい	9人	人から感謝されたりするとやりがいを感じるから。 働いて成功したり、大きな結果を出すことも楽しくなり、やりがいを感じられるから。 など
⑥自分を成長させること	15人	いろんなことをすることで自分が成長できるから。 今までできていなかったことなどができるようになるから。 など

## 2 単元観

本校の総合的な学習の時間の学習単元は、前期「地域理解・社会貢献」、後期「自己探究」を位置付けている。2学年の前期単元では、地域で働く人の様々な思いや考え方を感じ取り、地域の人々と共に働くことを通して、今の自分に足りない力や態度を自覚し、自らの職業観や勤労観を育み、その成果を生活の中で生かそうとする学びの中で資質・能力及び態度を育てることを目指した。本単元は、前期単元で考えたことを振り返り、さらに「働くこと」についての考えを深め、今後の生活や進路設計につなげるために、他の生徒と意見を交流することを通して、身に付けさせたい資質・能力及び態度を育てることを目指している。

また、本単元では、次の2つの場面で課題となっている「思考力・判断力・表現力」「主体的に学ぶ力」を身に付けさせる。1つ目は「働くこと」について、自分が特に大切だと考えることを根拠を持って説明する場面である。2つ目は、他の生徒と協働したり、様々な考えに触れたりする場面である。

このような単元の学習を進めることを通して、生徒は「働くこととはどういうことか」について、自らが学んできたことを、これからの生き方につなげていこうとする態度や価値観・倫理観も高まっていくのではないかと考えこの単元を設定した。

### 3 指導観

指導にあたっては、自分の考えを積極的に伝える意欲が高いという学年や学級の良いところを生かしつつ、課題となっている「思考力・判断力・表現力」と「主体的に学ぶ力」を高めるために、本単元ではグループでプレゼンテーションを行わせる。プレゼンテーションでは、データ等の客観的な根拠をもとに、相手を納得させられる主張をしなくてはならないため、生徒は自分の考えを根拠を持って説明する必要がある。また、グループで行わせることで、他の生徒と協働したり、様々な考えに触れたりすることができる。

それぞれの学習過程における指導のポイントは、次の通りである。

「課題の設定」の場面では、前期単元とのつながりを持たせ、今後の学習活動への意欲を高める。そのために、職場体験学習を振り返り、「働くこと」について考えをイメージマップにまとめ、前期単元で作成したものと比較することで自分の考えの変化や深まりに気付かせる。また、自分にとって特に大切なことは何かを選択させることで、自己決定の場とし、学習意欲を高めていく。

「情報の収集」の場面では、情報を集める方法を理解させ、多くの情報の中から「必要な情報を取り出す力」を身に付けさせる。そのために、情報源の例を提示したり、グループでどんな情報をどのように集めればよいのか話し合わせたりする。

「整理・分析」の場面では、集めたデータをどのように使えばより説得力のあるプレゼンテーションができるか、グループでしっかり話し合わせることで、次の学習活動につなげていく。

「まとめ・創造・表現」の場面では、学級内や同じテーマ同士など、プレゼンテーションを何度も行い、アドバイスと改善を繰り返させる。また、学級代表のグループのプレゼンテーションについては、学級全員で修正を行わせ、より多くの意見を取り入れさせる。

「実行」の場面では、学年全員の前で代表のグループがプレゼンテーションを行い、代表以外の生徒との間で質疑応答を行わせたり、プレゼンテーションの後、学習前と比べて考えが変わったことや深まったことを発表させたりすることで、「働くこと」についてより考えを深めさせる。

「振り返り」の場面では、毎時間行っていた振り返りをもとに行うことで、単元を通してどのような力が付いたのか等、具体的に振り返らせる。また、これまでの学習過程で行った学級や他のグループの生徒などの他者からの評価も活用して、振り返らせる。

## 単元の目標

前期の職場体験学習を振り返り「働くこと」についての定義づけを議論することを通して、働くことについての価値観や倫理観を深め、今後の生活や進路設計につなげようとする態度を養う。

## 育てたい資質・能力及び態度における評価規準

資質・能力及び態度		評価規準
知識・技能	知	①プレゼンテーションの方法を理解し、実践している。
思考力・判断力・表現力	思	①集めた情報をもとに、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 ②よりよいプレゼンテーションを行うために、表現の仕方や使う資料を改善している。 ③相手が納得できるように分かりやすくプレゼンテーションを行う工夫をしている。
主体的に学ぶ力	主	①職場体験学習を振り返り、「働くこと」について自分の考えを深めようとしている。 ②よりよいプレゼンテーションを行うために、グループ内で主体的に意見を出している。 ③代表のプレゼンテーションを聞いて、考えが深まったことや見出した新たな考えを主体的に発信している。
他者とかかわる力	他	①グループで協力してよりよいプレゼンテーションを作成しようとしている。 ②「働くこと」について、他者の意見を聞くことで、自分の考えを深めたり、新たな考えを見出したりしている。
社会貢献力	社	
自己形成力	自	①単元を振り返り、「働くこと」について自分の考えを持ち、自分の進路につなげようとしている。

# 単元と評価の計画

## 1 年間の指導計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元	「働くことと向き合おう～職場体験学習を通して～」 (57時間)						「働くことについて考えを深めよう～議論を通して～」 (13時間)					
	地域理解・社会貢献						自己探究					

## 2 単元と評価の計画

小単元名	学習過程	時数	○学習内容 ・学習活動	評価規準 (評価方法)	教科との関連
「働くことについて考えを深めよう～議論を通して～」	課題の設定	1	○職場体験について振り返り、体験前と体験後の「働くこと」への考えの変化を交流する。【本時】 ・写真を見て職場体験を思い返し、職場体験を終えての感想を交流する。 ・ブレインストーミングにより「働くこと」からイメージできることをイメージマップにまとめる。	【主－①】 (行動観察) (自己評価表)	
	情報・分析の整理	2	○自分にとっての「働くこと」の意味を根拠を持って説明する。 ・ブレインストーミングで出した意見をクラスで共有し、分類する。 ・分類をもとに、個人でランキングを作成し、交流する。	【思－①】 (行動観察) (自己評価表)	
	課題の設定 情報の収集	3	○同じテーマになったグループ内で、プレゼンテーションの方法を考える。 ・どんな資料が必要か、どう言えば説得できるかを考える。(・宿題として、必要な資料を分担して収集する。)	【主－②】 (行動観察) (自己評価表)	⇔【国語】 魅力的な提案をしよう
	整理・分析	4	○資料を分析する。 ・プレゼンテーションの中での位置づけを考える。	【思－②】 (行動観察) (自己評価表)	⇔【国語】 魅力的な提案をしよう
	まとめ・創造・表現	5 6	○同じテーマになったグループ内で、プレゼンテーションの準備をする。 ・資料や原稿を作成する。 ・発表の練習をする。	【他－①】 (行動観察) (自己評価表)	⇔【国語】 魅力的な提案をしよう
			○クラスでプレゼンテーションを行う。 ・主に発表の仕方について相互評価を行い、改善点をアドバイスしあう。	【知－①】 (行動観察) (自己評価表)	⇔【国語】 魅力的な提案をしよう
		8	○他クラスの同じテーマのグループ同士が集まり、プレゼンテーションを行う。 ・主にプレゼンテーションの内容について相互評価を行う。 ・テーマごとの代表を選出する。	【思－③】 (行動観察) (自己評価表)	⇔【国語】 魅力的な提案をしよう
		9 10	○クラスでプレゼンテーションの修正を行う。 ・修正点と改善策をワークショップ形式で話し合う。 ・クラス内で分担してプレゼンテーションの修正を行う。	【思－②】 (行動観察) (自己評価表)	⇔【国語】 魅力的な提案をしよう
		11 12	○学年でプレゼンテーションを行う。 ・各テーマの代表がプレゼンテーションを行う。 ・他の生徒はプレゼンテーションを聞き、考えが深まったことや新たに見出した考えについて交流する。	【他－②】 【主－③】 (行動観察) (自己評価表)	⇔【国語】 魅力的な提案をしよう
	振り返り	13	○単元を通して学んだことを振り返る。 ・単元を通して身に付いた力について考え、次年度の進路選択につながるようまとめをする。	【自－①】 (行動観察) (自己評価表)	

## 本時の学習展開

### 1 本時の目標

職場体験学習を振り返り、「働くこと」について自分の考えを深める。

### 2 本時の評価

評価規準	評価基準	
職場体験学習を振り返り、「働くこと」について自分の考えを深めようとしている。 <b>【主-①】</b> (行動観察) (自己評価表)	A	「働くこと」について職場体験学習の前後で自分の考えが変化したり深まったりしたことを学級全体に向けて発表している。
	B	「働くこと」について職場体験学習の前後で自分の考えが変化したり深まったりしたことを小グループの中で発表している。
	C	「働くこと」について職場体験学習の前後で自分の考えが変化したり深まったりしたことを感じている。

### 3 学習展開 (1 限目/13)

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り
	学習活動		指導上の留意点			評価規準 (評価方法)
導入	1 職場体験学習を振り返る。 ①写真を見て体験を想起する。 ②職場体験学習で感じたことや学んだことを発表する。 <予想される生徒の反応> ・働くことは予想以上に大変だった。 ・事業所の方がお客様のためにいろいろと考えているということが分かった。 ・自分も将来〇〇として活躍したいと思った。		①次の活動で発表しやすくなるよう、明るい雰囲気をつくる。 ②実習ノートを用意させ、想起しやすくする。  ・掲示物を作成し、視覚支援を行う。			
	<b>【本時のめあて】</b> 職場体験学習を振り返って、「働くこと」についての考えを交流しよう。					
展開 ①	3 「働くこと」についてイメージマップを作る。 ・学級全体で黒板に作る。		・事前に個人でイメージマップを作成させておく。 ・テンポよく発表させる。			
	4 前期単元で作ったイメージマップと比較し、違いを感じ取る。 ①前期単元で作ったものと比較する。  ②前期単元で作ったものとどう変わったか発表する。		①前期単元で作ったものに比べてイメージマップが広がっていることを評価する。 ②イメージの広がりの違いに気付かせる。			

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展開②</p>	<p>5 職場体験学習の前後で、「働くこと」について考えが変化したことや深まったことを話し合う。</p> <p>①ワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点で、「働くこと」とはどういうことだと考えるか。その理由も考える。</li> <li>・職場体験学習前と比較して、考えがどのように変化したり深まったりしたか。</li> </ul> <p>②小グループで意見を交流する。</p> <p>③学級全体で発表する。</p> <p>&lt;予想される生徒の反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前はお金をかせぐことだけだと思っていたが、世の中の役に立つことという考えもあることに気付いた。</li> <li>・職場体験をして、「働くこと」とは自分を成長させることだとより実感した。</li> <li>・事業所の方が接客をしているところを見て、「働くこと」とは他の人とつながりをもつことだと感じた。</li> </ul>	<p>①・机間指導を行い、個別にアドバイスを する。 ・特別支援学級の生徒には、介助者が つく。</p> <p>②「話し合い活性化カード」を用いて、質 問等をさせ、考えを深めさせる。</p> <p>③傾聴させる。</p>	<p>職場体験学習を振り返り、「働くこと」について自分の考えを深めようとしている。</p> <p><b>【主-①】</b> (行動観察) (自己評価表)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ</p>	<p>6 後期単元の学習の流れを知る。</p> <p>7 本時の振り返りをする。</p> <p>&lt;予想される生徒の反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回イメージマップの2回目を作って、前よりイメージが広がっていて嬉しかった。</li> <li>・職場体験学習に行って、「働くこと」とはどういうことなのか、前よりも分かった気がする。</li> <li>・友だちと話し合っ、自分では思いつかなかった考えを知ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示物を作成し、視覚支援を行う。</li> </ul>	



## 城北中夢プロジェクト ～私たちが描く未来のふくやま～

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力  
他者とかかわる力 社会貢献力 自己形成力

## 単元について

## 1 生徒観

3学年は、男子135名、女子107名の合計242名である。本学年の生徒は、授業にまじめに取り組む生徒が多く、学校生活も全体的に落ち着いている。また、学年集会などで自分の思いを発表する機会を多く作り、どのような場面でも意見が言えるように取り組んできた。アンケート項目の①、②から分かるように自分の意見を伝えるということを抵抗なくできる生徒は多い。一方③、④から分かるように、外部へ自分の考えを発信するための、必要な情報を調べたり、調べたことをまとめたりすることに課題がある。

表1 第3学年次生徒アンケート

アンケート項目		よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
「課題発見・解決学習」	①授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	43.8%	28.8%	23.3%	4.1%
	②授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	56.2%	34.7%	6.8%	2.3%
	③授業では、課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりしています。	24.7%	37.9%	31.1%	6.3%
	④授業では調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	28.3%	38.4%	26.5%	6.8%

(平成29年6月30日242名)

## 2 単元観

本校区は、4小学校を含む大きな学区であり、市内の中学校の中でも大規模校にあたる。また、市の中心部に位置しており、様々な文化施設や公共施設等も多く、材には恵まれた環境である。しかしながら、地域の良さや課題について考えたり、触れたりする機会があまりないという生徒の実態から、総合的な学習の時間において、「地域理解・社会貢献」の単元を各学年で設定している。

本単元は、各学年で設定している「地域理解・社会貢献」学習の最後の単元となる。第1学年では、地域の文化や歴史などを専門家のもとに出向いて調べることを通して地域への理解を深め、調べた事をポスターにまとめ、それを発信し地域へと返した。第2学年では、城北中学校区にある事業所での「職場体験」を経験し、勤労観や職業観についての理解を深め、事業所へ自分たちで考えた成果物を寄贈した。そして、第3学年では、「城北中夢プロジェクト～私たちが描く未来のふくやま～」というテーマのもと、身近な地域の課題を見出し、その改善策として新しい施設や制度、企画などを考え、自分達はそのプロジェクトにどのように関わっていけるかを提案する。そのことを通して、『主体的に学ぶ力』や『思考力・判断力・表現力』を育て、地域に深い関心を持ち、地域に貢献しようとする『社会貢献力』や『自己形成力』を伸ばしたいと考え本単元を設定した。

また、地域の課題に対してより完成度の高い提案ができるよう、現地調査を行ったり、小学校とも連携を取り児童や保護者にアンケートを実施したりして、地域の人々とも課題や改善策を共有しながら活動を進める。これにより、『他者とかかわる力』を高めることが期待される。さらに、改善策の提案では、福山市の担当者にも協力を仰ぎ、生徒の提案を評価していただいたり、専門的な見地からのアドバイスをいただいたりすることにより社会参画の必要性を自覚させる学習とする。

### 3 指導観

指導にあたっては、自分たちの住んでいる街をより良くしたい、大人になったときに住みたいと思える街にしたいという生徒の願いを大切にしながら、自分たちだけでなく市民の思いを大切に、他の地域の人からも高い評価が得られる町になるように、客観的な課題を見出し、改善の方法を考えさせる。その過程において、地域の人々や福山市の担当者との関わりを通して、自分たちに寄せられる期待や思いに気付くとともに、自分たちも社会の一員であることに気付かせ、社会貢献や社会参画することへの意義や意味、喜びも実感させたい。

また、本単元の学習で、日頃自分の考えを積極的に発言することが難しい生徒も自ら考え行動する機会にしたいと考え、意図的に発表や意見交換の場を多く設ける。また協働的な学びを通して、個人またはグループ同士の活動がつながるように、他者の意見や提案にも批判的な視点を持って意見交流させたい。

本単元の学習は、3つの小単元で構成している。小単元1が『学校生活の改善策を提案しよう』、小単元2が『「未来のふくやま」を描こう』、小単元3が『私たちが描く「未来のふくやま」を発信しよう』である。ここで、小単元1を設定している理由は、本単元のテーマが大きいため、どのような過程をたどって自分たちの思いや願いを形にし、どこへどのように提案すればよいのかというところまでを生徒が十分に考えることが難しいと判断したためである。そこで、学校の身近な課題に着目し、その改善策を考え提案し、実行していくという学習過程をこの小単元1で仕組むことで、本単元全体の学習の流れや要点を理解し、小単元2以降の活動に見通しを持ち主体的に生徒が取り組んでいくことをねらっている。

また、学習過程の各場面においては、以下の内容に重点を置いて指導を行う。

「課題の設定」の場面では、同じ思いを持った者同士でより良い課題を設定させる。そのために、まず大まかな未来図を思い描かせ、それを形容詞を使い、「〇〇なふくやま」として発表させる。それをグルーピングし同じ思いの者を集めて、主体的に話し合える環境を作る。

「情報の収集」の場面では、必要な情報とその調べ方をグループ同士で交流し精選させる。

「整理・分析」の場面では、調査の結果を踏まえ、始めに設定した課題が適切であったかどうかを再考えさせる。また、調査した結果を伝えやすくするために図やグラフを利用してまとめさせる。

「まとめ・創造・表現」の場面では、作成した提案を一度地域の方にも評価していただくことで、自分たちでは考えることのできなかつた別の視点に気付き、提案内容を深めさせる。

「実行」の場面では、最終的な提案として福山市の担当の方に向け提案を行い、評価していただく。提案を行うことができないグループの提案書も担当者へ受け取っていただき、後日評価をしていただく。

「振り返り」の場面では、本単元の振り返りを行い、自らの学習の過程について自己評価や他者評価を行う。また、後半の単元「3年間の学びを形にしよう」の方向づけもする。

## 単元の目標

単元を通して、福山の現状から課題や魅力を見出し、よりよい福山の未来の姿を考え提案することができる。

## 育てたい資質・能力及び態度における評価規準

資質・能力及び態度		評価規準
知識・技能	知	①福山の現状から課題や魅力を具体的に見い出すことができる。
思考力・判断力・表現力	思	①見出した課題の中から、必要な情報を抽出し、まとめることができる。 ②提案までを見通して、何をすべきかを計画することができる。 ③相手に伝えるべき内容を選択し、表現することができる。
主体的に学ぶ力	主	①自ら課題を見出し、課題を解決する方法を考えることができる。
他者とかかわる力	他	①自ら課題を見出し、協働してよりよい方法で解決することができる。 ②仲間と話し合いながら、考えを深めることができる。 ③自分達が考えた提案内容を他のグループや外部の人を共有することができる。
社会貢献力	社	①よりよい福山の未来を考えて、発信することができる。
自己形成力	自	①課題解決のために、前向きに試行錯誤している。 ②単元の学習を進めながら、未来の福山を発信する意義を考えることができる。

# 単元と評価の計画

## 1 年間の指導計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元	<b>「城北中夢プロジェクト ～私たちが描く未来のふくやま～」</b> (38時間)						<b>「3年間の学びを形にしよう」</b> (32時間)					
	地域理解・社会貢献						自己探究					

## 2 単元と評価の計画

小単元名	学習過程	時数	学習内容 学習活動	評価規準 (評価方法)	教科との関連
「学校生活の改善策を提案しよう」	課題の設定	1	○オリエンテーション(1) ・1・2年生で行ってきた、総合的な学習の時間の学習内容を振り返る。 ・生徒から、今後福山市に住み続けたいか、地元にはどんな課題があるかを交流する。 ・福山市制施行101周年を迎え、福山市が行っている取組等を紹介し、自分たちもわくわくするような未来のふくやま像をみんなで考え発信していく学習活動を行っていくことを確認する。	<b>【知-①】</b> (行動観察) <b>【主-①】</b> (行動観察)	
		2	○今後の学習を設定する。(1) ・どのような学習の流れで進めていけばよいのかが現段階では十分に生徒はイメージできていないため、校内における「学校の課題」に目を向け、その改善策を考え、発信する活動を通して、「私たちが描く未来のふくやま」の単元の学習過程に対してイメージを持つことを目標に学習を進めていくことを確認する。 ・城北中学校の生活で問題となることを想起する。 ・城北中学校の生活で不便なものや、問題のあるものを考え交流する。 ・自分たちが思う城北中学校の生活の問題点について、具体的要因を考える。 ・自分たちが考える城北中学校の生活の問題点には、要因を特定するには、情報が不足していることに気づく。 ⇒城北中学校の生活の問題点についてもっと調べ、より良いものしたい。		
		3	<例>「15分間の仮眠制度を導入しよう」 ○個人で調査する方法を考え、計画を立てる。(1) ・アンケートにするのか、聞きとり調査するのか、本やインターネットで調べるかなど、自分で方法を考え、調査する計画を立てる。		
	4	○調査を行う。(1) ・自分の計画をもとに調査を行う。	<b>【思-③】</b> <b>【他-①】</b> (行動観察)		
	5	○調査結果を整理し改善案を考案する。(1) ・調べた内容をもとにニーズに応えられる案を考える。 ・1時間の授業を使って実行できるようなものを考える。			
	6	○改善案をクラスで発表する。(1) ・班でそれぞれ発表し、班代表を選ぶ。 ・班代表がクラス全体で発表する。→お互いに評価する ・クラス代表として3つ選ぶ。			
	整情報・の 分収析集				

	振り返り まとめ・創造・表現	7 8	<p>○学年集会でプレゼンテーションをする。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス代表がプレゼンテーションをする。</li> <li>・聞いている人が「やってみよう」と思うようなプレゼンテーションをする。</li> </ul> <p>○振り返りをする(1)</p>	<p>【思-③】 【他-①】 (企画書)</p>	
私たちが「未来のふくやま」を描こう	課題の設定	9 10 11	<p>○テーマをイメージさせる(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちが描く未来の○○なふくやま」を考える。 (例) いきいき・わくわく・どきどき</li> </ul> <p>○課題を設定する(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマごとにグループを作る。</li> <li>・グループごとに、それぞれのテーマでの強みと弱みを出し合う。</li> <li>・出し合った意見の中からグループごとに提案する内容を考える。 (例) 食のテーマで「新しいご当地フードを考案しよう！」 施設のテーマで「～のような施設を作ってもらおう！」 人を集めるで「～のようなイベントを開こう！」知名度で「～の良さを～を使って発信していこう！」など</li> </ul> <p>○ホワイトボードに提案内容を書いて発表し、他グループの意見を聞く。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他グループからの意見は発表形式でも指名して意見を求めてもよい。</li> <li>・この時点で良い反応をもらえないものは現実的にも厳しいので再考する。</li> <li>・グループ内で共通のビジョンを持たせ誰もが語れるようにする。</li> <li>・一人一人が思い描く未来の福山の姿を絵に描く。</li> </ul>	<p>【思-①】 【主-①】 【他-②】 (ワークシート) (グループワーク)</p>	<p>⇔【国語】 ブレインストーミング ⇔【社会】 現代社会と私たちの生活 ⇔【英語】 日本の文化紹介</p>
		12 13 14 15 16 17 18 19 20	<p>○自分たちの思い描く未来を一枚の絵にする。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で一人一人が描いてきた絵について思いを発表し、グループで一枚のイメージ図にする。</li> <li>・描いた絵は、文化発表会で展示したり提案したりする時に使えるようにする。</li> </ul> <p>○中間発表をする。(3)</p> <p><b>発表前</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで中間発表を行うためにグループ内でゴールイメージを共有する。</li> <li>・すべての人が1回以上説明するのでしっかり共有させる。説明者の順番も決めさせておく。</li> </ul> <p><b>中間発表</b> (2分間説明, 2分間質疑応答, 1分間移動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明者は描いているイメージ図を使って①自分たちのアイデア②なぜこの絵にしたのか(根拠となる)を発表する。</li> <li>・説明しない人は他のグループに聞きに行く。</li> <li>・グループの席が埋まれば別のグループのところに行く。全員が座って聞く姿勢をつくる。</li> <li>・同じグループの人がなるべくかたまらないようにする。</li> <li>・メモをとらせる。</li> </ul> <p><b>発表後</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで意見を話し合い、イメージ図を仕上げていく。</li> </ul> <p>○提案を実現するために調べるべきことを考える。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福山の現状や市民の思いなど必要なものは何かを考える。</li> <li>・アンケート等をする場合は保護者や小学校に協力を求める。</li> <li>・調査をするならば場所や移動手段など詳しく計画する。</li> </ul>	<p>【思-②】 【自-①】 【他-③】 (行動観察)</p>	<p>⇔【美術】 デザイン・レイアウト・カラー ジュ技法  ⇔【国語】 ポスターセッション</p>

	21 22 23 24 25	○ゲストティーチャーの話を聞く。(2) ・ゲストティーチャーの話を聞いて調査計画を修正する。  ○調査する。(3) ・計画をもとに調査する。	【知-①】 (行動観察)	
	整理・分析 26 27 28	○調査結果を整理する。(3) ・グループごとに調査内容を整理する。 ・調査内容をもとに自分達が提案する内容を考える。	【主-①】 【思-①】 (行動観察)	⇔【数学】 情報を表やグラフを用いて整理する  ⇔【国語】 話し合っ提案をまとめる
私たちが描く「未来のふくやま」を発信しよう	29 30 31	○提案内容の案を考える。(3) ・発表方法をグループで決めて、構成を組み立てる。 ・発表原稿や資料を作成する	【思-③】 (グループワーク)	⇔【数学】 根拠をもって論理的に説明する
	まとめ・創造・表現 32 33	○中間発表を行う。(2) 【本時】 ・司会者を決めて進行させる。 ・グループごとに発表を行う。 ※発表するときの条件 ①一人一役必ず役割を分担する。 ②イメージ図や資料(グラフや表など)を使う。 ・聞く人は発表の仕方や姿勢ではなく、提案内容について質疑応答ができるように発表を聞く。 ・質疑応答やアドバイスを行う。 ・発表後にグループで出た意見をもとに提案内容を修正する。 ・グループで話し合ったことを発表する。	【他-②】 (行動観察)	
	34 35	○発表原稿や資料を修正する。(1) ○提案に向けて、各グループで練習をする。(1)	【思-①】 (企画書)	⇔【国語】 説得力のある文章を書く
	実行 34 35 36 37	○自分たちが考えた提案内容を発表する。(4) ・各グループで発表をする。	【思-③】 【主-①】 【社-①】 (プレゼンテーション)	⇔【技術】 作品の表現 ・発信、プレゼンテーションソフトを使った提案
	振り返り 38	○振り返りをする。(1)	【自-②】 (ワークシート)	

## 本時の学習展開

### 1 本時の目標

「私たちが描く未来のふくやま」についての発表を通して、自分たちに何ができるか考えを深めることができる。

### 2 本時の評価

評価規準	評価基準	
仲間と話し合いながら、考えを深めることができる。 (行動観察) 【他-②】	A	他のグループのプレゼンテーションや自分のグループへの意見を聞いて考えを深め、提案内容を修正している。
	B	他のグループのプレゼンテーションや自分のグループへの意見を聞いて考えを深め、提案内容を再考している。
	C	他のグループのプレゼンテーションや自分のグループへの意見を聞いて考えを深めようとしている。

### 2 学習展開 (33限目/38)

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り
	学習活動			指導上の留意点		評価規準 (評価方法)
導入	1 本時のめあてと学習の流れを確認する。 ①この時間に付けたい力を確認する。 「説得力のあるプレゼンテーションをする。」 「他のグループのプレゼンテーションや自分のグループへの意見を聞いて考えを深める。」			①発表するときの条件を確認する。 ・一人一役必ず役割を分担する。 ・イメージ図や資料(グラフや表など)を使う。		
<b>【本時のめあて】</b> 「私たちが描く未来のふくやま」についての発表を通して、自分たちに何ができるか考えを深めることができる。						
展開①	2 各グループで中間発表をする。 ①発表する。 ②質疑応答やアドバイスをする。 ・質疑にはリーダーが答える。 ・記録係はホワイトボードに意見を記入する。			①聞く人は発表の仕方や姿勢ではなく、提案内容について質疑応答ができるようにメモをとりながら発表を聞かせる。 (聞く視点) ・提案内容に根拠があるか。 ・実例やデータはわかりやすいか。 ・どう関わっていくのかが伝わってくるか。 ②各班の発表に対して、気づきや意見を発表させる。		
展開②	3 出た意見をもとに提案内容を修正する。 ①ホワイトボードを見ながら、自分達の提案内容を修正する。 4 修正した内容を全体で共有する。 ①各グループで話したことを発表する。			①別の視点から見ると、様々な発見があったことを確認させる。		仲間と話し合いながら、考えを深めることができる。 <b>【他-②】</b> (行動観察)
まとめ	5 本時のまとめをする。 ①本時のまとめをワークシートに記入する。					



## 8 分科会について

教科等		分科会会場	指導助言者
1	社会科	105R教室	福山市教育委員会 指導主事 三原 健志
2	数学科	304R教室	福山市教育委員会 指導主事 溝部 貴之
3	理科	第1理科室	福山市教育委員会 指導主事 塚本 隆也
4	英語科	204R教室	福山市教育委員会 指導主事 栗田 尚輝
5	総合的な学習の時間	図書室	甲南女子大学 人間科学部 総合子ども学科 教授 村川 雅弘

**14:35~15:35**

※分科会会場の場所は p.2 及び封筒裏をご覧ください。

※全体会は体育館で行いますのでご注意ください。

# 分科会

14:35 ~ 15:35

教科等	社会	数学	理科	英語
会場	105R教室	304R教室	第1理科室	204R教室
日程	14:35~14:40	開会挨拶, 分科会の協議の視点の確認		
	14:40~14:45	質疑応答		
	14:50~15:20	小グループによる研究協議 (※以下の2つの視点で協議を行います)		
	15:20~15:35	講話 (各分科会担当指導主事)		
閉会挨拶, 諸連絡				
研究協議の視点				
<b>視点①: 観察授業からの学び</b>				
<b>視点②: 授業改善すべき内容</b>				

教科等	総合的な学習の時間			
会場	図書室			
日程	14:35~14:40	開会挨拶, 分科会の日程の確認		
	14:40~14:55	各学年授業者より授業についての説明		
	14:55~15:00	質疑応答		
	15:00~15:35	講評及び講話 (村川雅弘教授)		
閉会挨拶, 諸連絡				

## 9 全体会について（会場：体育館）

内 容	
① 開会挨拶	校 長            岡野 英俊
② 実践報告 ～「学びの変革」パイロット校事業の3年間の取組～	パイロット教員 菅 隆幸
③ 講評	広島県教育委員会 義務教育指導課 主任指導主事    大里 弘美
④ 閉会挨拶	教 頭            平賀 孝明

**15:50～16:40**

※全体会会場の場所は p.2 及び封筒裏をご覧ください。

※全体会では、どうぞ前より詰めてお座りください。



# おわりに

2学期も半ばを迎え、学校行事、教育研究実践にお忙しい中、福山市立城北中学校公開研究会にご参加いただき誠にありがとうございました。

さて、変化の激しい社会に必要な人材を育成するために、これまでの「知識ベースの学び」に加えて、「資質・能力の育成を目指した主体的な学び」が求められています。広島県教育委員会では、「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を策定し、総合的な学習の時間を始め、各教科の学習における「課題発見・解決学習」の推進を図っています。

こうした中で、本校は、平成27年度より3年間、広島県教育委員会「『学びの変革』パイロット校事業」の指定を受け、「主体的な学びの創造～自ら考え学ぶ授業づくりを通して～」を研究主題に掲げ、「課題発見・解決学習」の学習過程と「資質・能力」の育成を位置付けた単元開発を行い、授業実践に取り組んでまいりました。また、学校生活や生徒会活動、行事や部活動などすべての教育活動において、「主体性」をキーワードに取り組を進めてまいりました。本日はその取組を本研究紀要にまとめ、授業を公開いたしました。いかがでしたでしょうか。

まだまだ研究途上にあり、「課題発見・解決学習」の授業づくりと「資質・能力」の育成について、大きな課題があります。

本日、皆様からいただきましたご指導を基に、今後、授業実践を通して、「資質・能力」の評価の在り方について研究するとともに、「資質・能力」の育成について実践を検証し、改善してまいります。また、「課題発見・解決学習」の単元の改善をすすめ、生徒一人一人が確かな学力を身に付け、自らの願いをかなえることができるよう、さらに研究を重ねてまいります。今後とも、一層のご指導ご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、多大なるご指導ご助言をいただきました広島県教育委員会、福山市教育委員会の先生方、甲南女子大学人間科学部総合子ども学科教授、村川雅弘様をはじめ、多くの関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

福山市立城北中学校教頭 平賀 孝明



福山市立城北中学校

〒720-0082

広島県福山市木之庄町四丁目1番1号

T e l : 0 8 4 - 9 2 3 - 0 6 6 8

F a x : 0 8 4 - 9 2 3 - 0 6 9 8

M a i l : [chu-johoku@edu.city.fukuyama.hiroshima.jp](mailto:chu-johoku@edu.city.fukuyama.hiroshima.jp)

H P : <http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/chu-johoku>